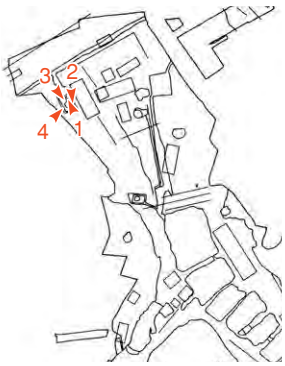
1.　石敷井戸SE1090
北辺階段　南東から

2.　石敷井戸SE1090
東南隅　　北から

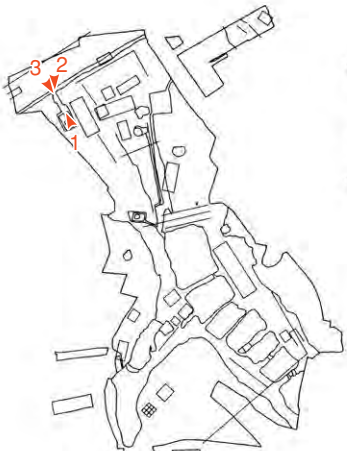
3.　石敷井戸SE1090上段井戸枠　北西から

4.　石敷井戸SE1090下段井戸枠　南西から



1.　石組暗渠SX1094
入口付近　南東から

2.　石組暗渠SX1094の
道路南側溝SD1080
への出口　北から



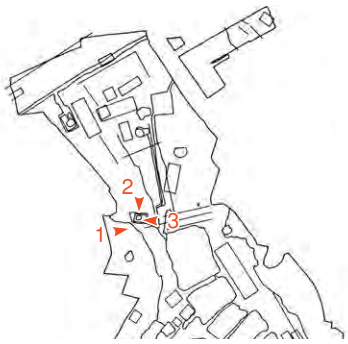
3.　石組暗渠SX1094の出口
北西から

北地区の遺構（井戸）第93次

1

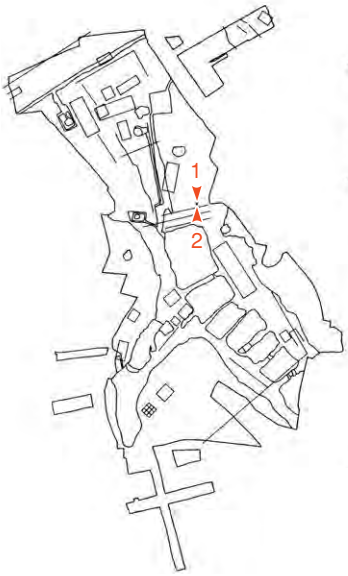
2

3



1. 石敷井戸SE1160　南西から
2. 石敷井戸SE1160　北から
3. 井戸枠周辺の石敷SX1162　東から

1.　井戸SE1159遺物出土状況
北から

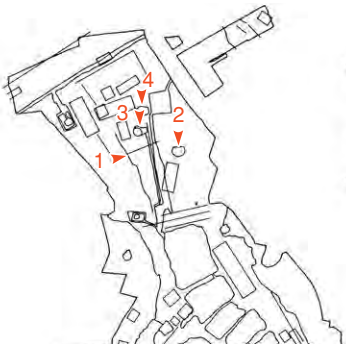


2.　井戸SE1159断面
南から

1.　土坑SK1153と1126
西から

2.　土坑SK1153の土層断面
北から

3.　土坑SK1126の土層断面
北から



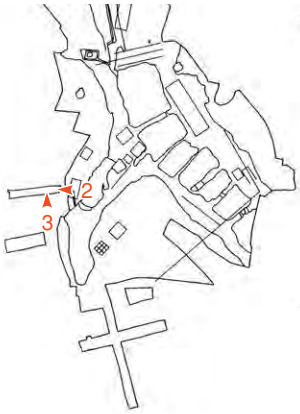
4.　土坑SK1128
北から

1.　調査地遠景

東上空から

2.　Ⅰ区の遺構

東から



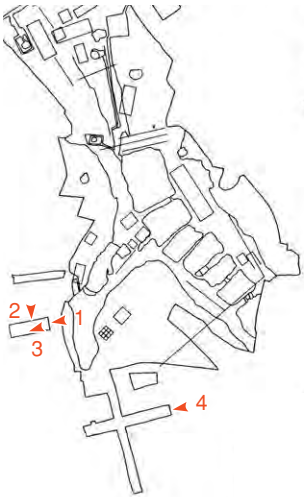
3.　Ⅰ区炉跡SX1661

南から

1

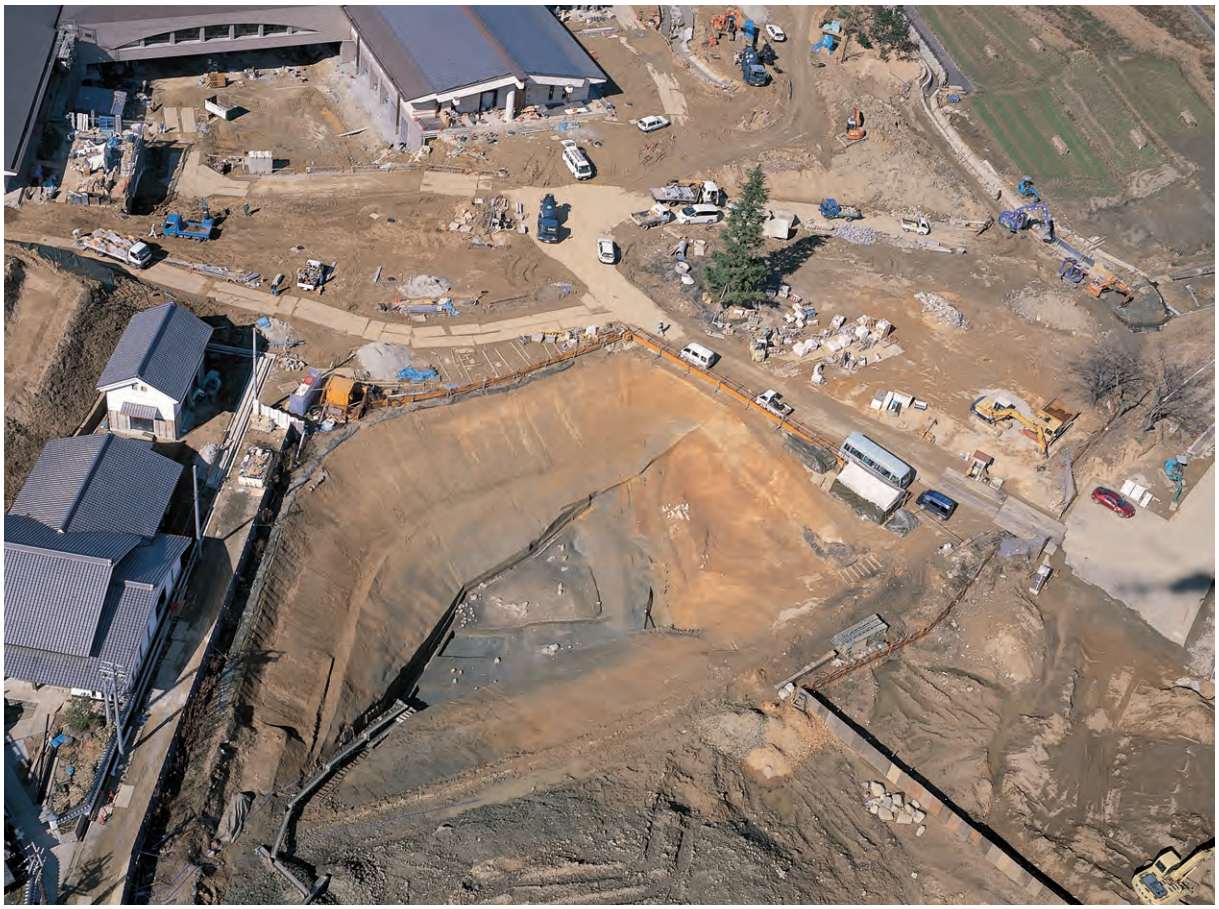
2・3

4

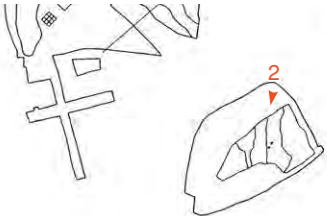


1.　Ⅱ区の遺構　北東から
2.　Ⅱ区工房作業面　北から
3.　Ⅱ区炉跡SX1662　北東から
4.　Ⅳ区の遺構　北東から

1



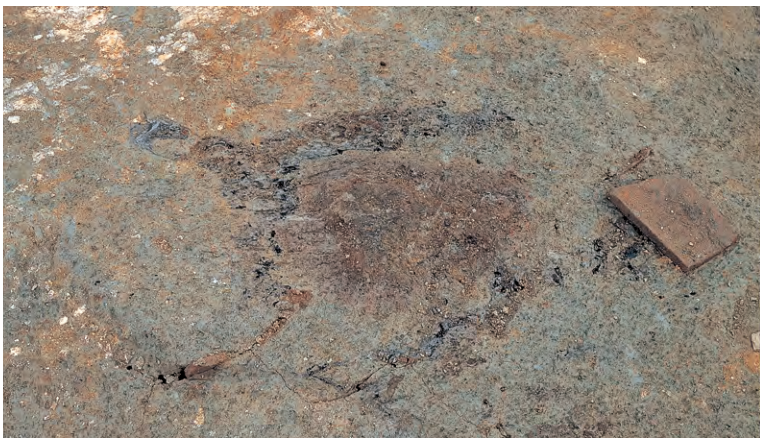
2

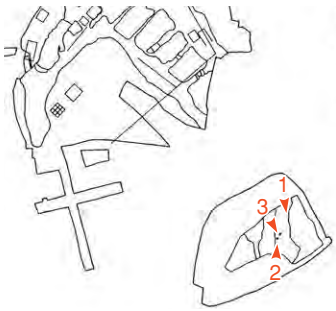


1.　調査区全景　南上空から
2.　谷東岸の平坦面の造成　北から

1.　上段平坦面の石組遺構
SX1710と斜行溝SD1701
北から

2.　下段平坦面の工房作業面
南から

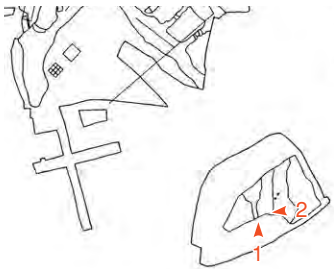




3.　下段平坦面の炉跡SX1713
北西から

1

2



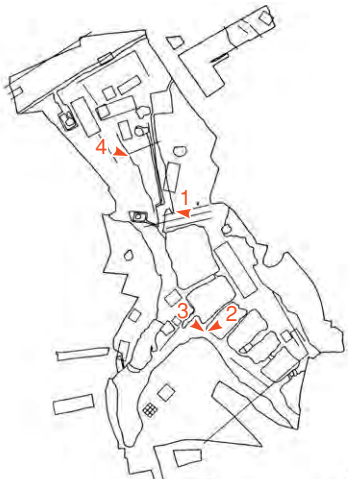
1.　谷の護岸石SX1709　南から
2.　南北溝SD1707　東から

平安時代以降の遺構　第93次・第98次・第84次

1

2・3

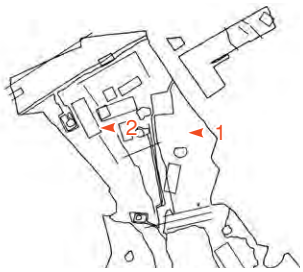
4



1.　掘立柱建物SB1155（第93次）　東から
2.　井戸SE1239（第98次）　北東から
3.　井戸SE1239（第98次）　北西から
4.　井戸SE1142（第84次）　北西から

1

2



1.　東西溝SD1127　東から
2.　東西溝SD1127の石組堰　東から

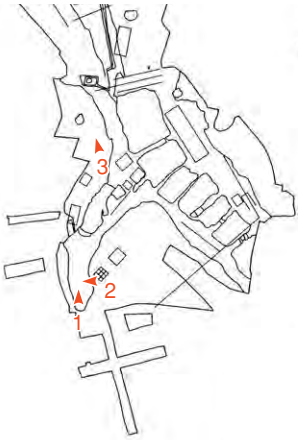
1

2

1.　西の谷頭にある梵鐘鋳造土坑SX1600　南から
2.　梵鐘鋳造土坑SX1600　東から

1.　梵鐘鋳造土坑
SX1600底面
（第87次）　南から

2.　梵鐘鋳造土坑SX1600
鋳型出土状況
（第87次）　東から



3.　近世飛鳥池の樋門SX1168・1171と
排水路SD1169・1172
（第93次）　南東から

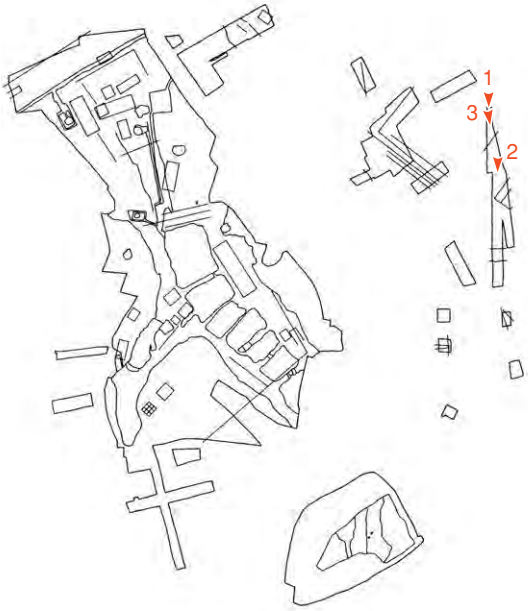
1

2

1.　遺跡遠景（奥は飛鳥池遺跡第84次調査区）　南東上空から
2.　遺跡遠景（右手前は飛鳥池遺跡第84次調査区）　北西上空から

1・2

3



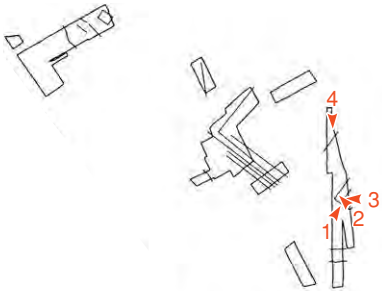
1.　２区の遺構　北から
2.　１区の遺構　北から
3.　Ｆ区の遺構　北から

飛鳥池東方遺跡　第86次１区・第92次Ｆ区

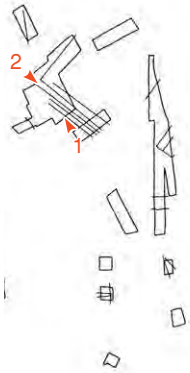
1

2
3・4

1.　掘立柱建物SB1721（F区）　南西から
2.　掘立柱建物SB1721西廂南第2柱穴（1区）　南東から
3.　掘立柱建物SB1721身舎西側柱南第2柱穴（F区）東から
4.　掘立柱塀SA1724（F区）　北から



1.　6区の遺構
南東から

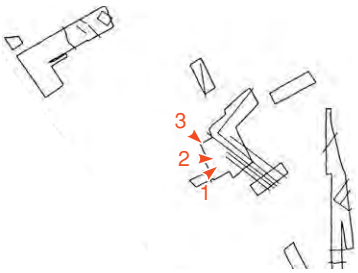


2.　掘立柱塀SA1727～1731　北西から

1

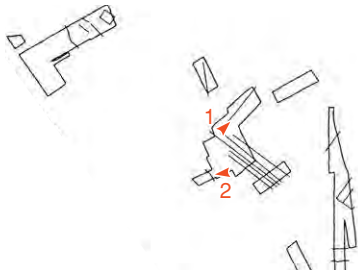
2・3

1.　西拡張部分で検出した遺構　南西から
2.　石組溝SD1734　西から
3.　段差SX1732　北西から



1

2



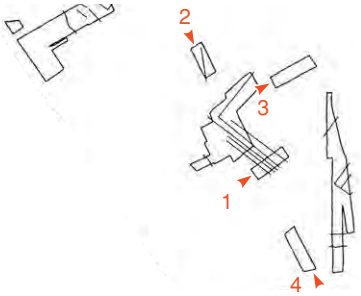
1.　掘立柱塀SA1726・1753（H区）　南西から
2.　流路SD1700（G区）　南東から

飛鳥池東方遺跡　第86次3・4・5・7区

1・2

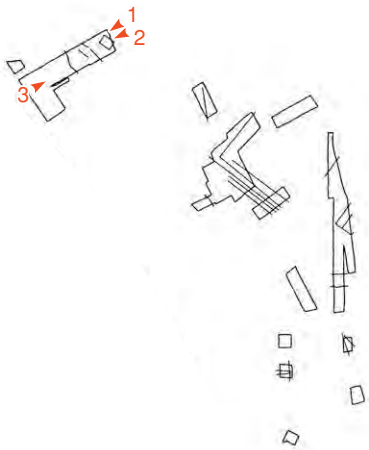
3・4

1.　5 区の遺構　南西から
2.　7 区の遺構　北西から
3.　3 区の遺構　南西から
4.　4 区の遺構　南東から



1・2

3



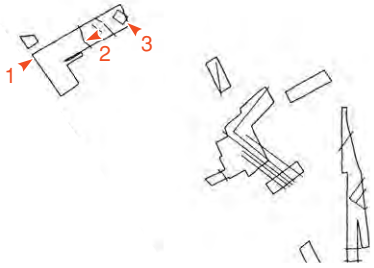
1.　８区東端部の遺構　北東から
2.　Ⅰ区東端部の遺構　北東から
3.　Ⅰ区西端で検出した流路SD1700　南西から

PL. 92　飛鳥池東方遺跡　第86次８区・第92次Ｉ区

1・2

3

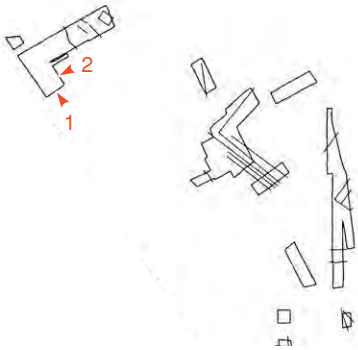
1.　流路SD1700（8区）　南西から
2.　流路SD1700（I区）　北東から
3.　掘立柱建物SB1745（I区）　南東から



1

2

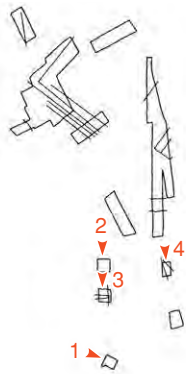
1. 平安時代の水田SX1740・1741　南東から
2. 水田SX1740と足跡SX1759　北東から



1.　A区の遺構　北西から

2.　E区の遺構　北から

3.　C区の遺構　北から



4.　D区の遺構　北から

1・2

3・4

5・6

7・8

1. 富本銭（水溜 SX1220）
2. ガラス坩堝（水溜 SX1220）
3. 軒丸瓦（水溜 SX1220）
4. 銅人形（南北溝 SD1110）
5. 鑿（南北大溝 SD1130）
6. 下駄（南北塀 SA1120 盛土下面）
7. 木簡（石組方形池 SG1100）
8. 鞴羽口（東の谷整地土）

PL. 96　飛鳥寺の瓦たち（1）

1

2

1. 禅院の軒瓦（左）と伽藍中枢部の改修用軒瓦（右）
2. 「丁未年」ヘラ書き平瓦

PL. 98　北地区の木簡（1）

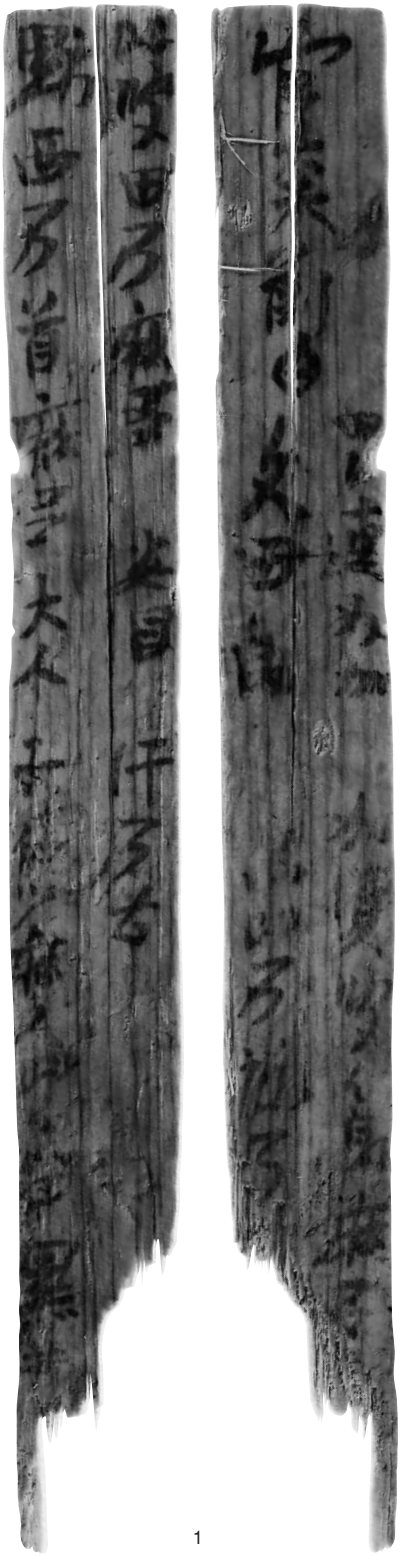
7：10

7：10

PL. 100　工房の木簡

7：10

モノクロ図版



1

69

59

62

3

58

61

4

57

4：5

54

50

56

55

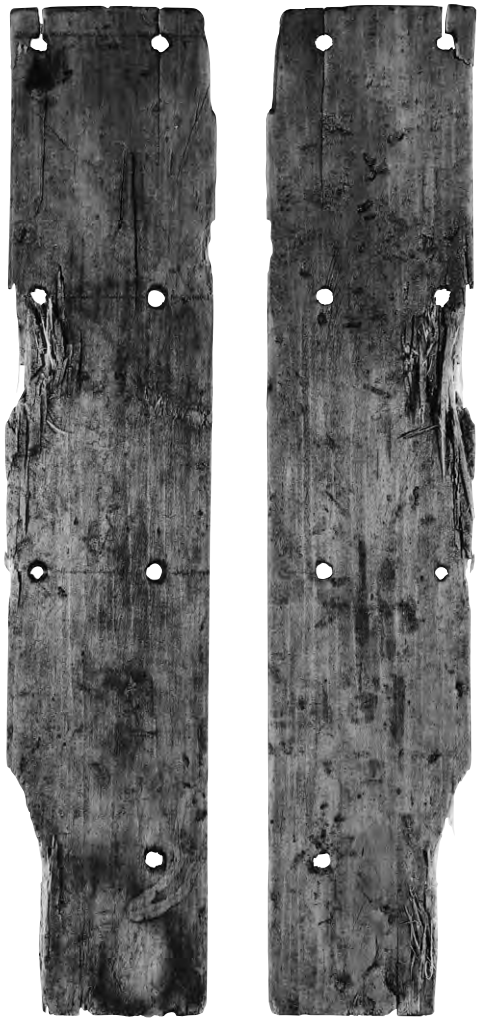
52

53

2

51

4：5



81

73

71

127

70

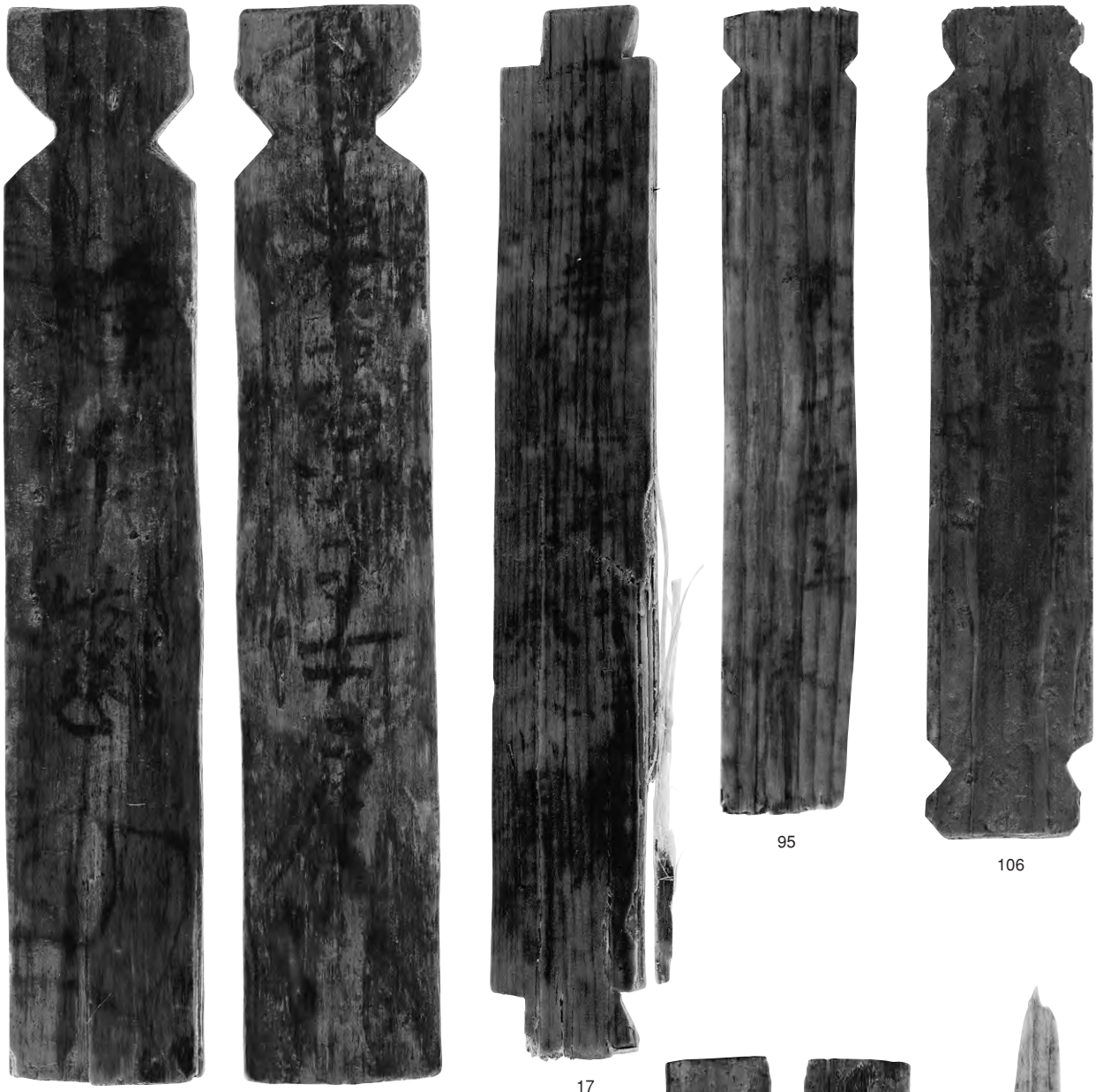
72

74

76

4：5

4：5

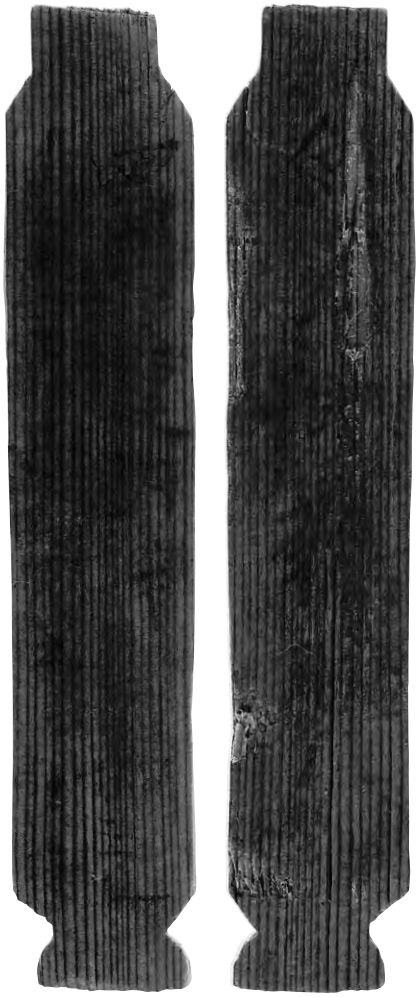


112　17　95　106

92　94　87　96

4：5

21



20

19

124

91

89

90

88

4：5

107　18　23　125　122

111　97　5　26　24

4：5

27

29

119

28

116

101（底部）

4：5

423

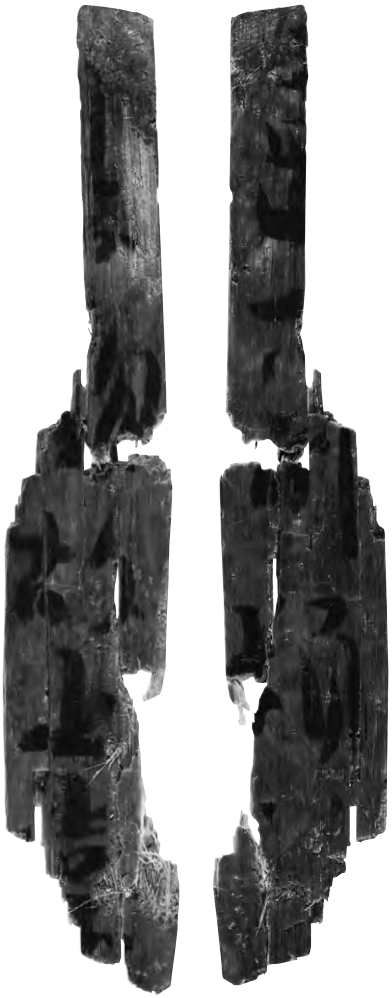
425

295

298

4：5

424


296

301

579

305

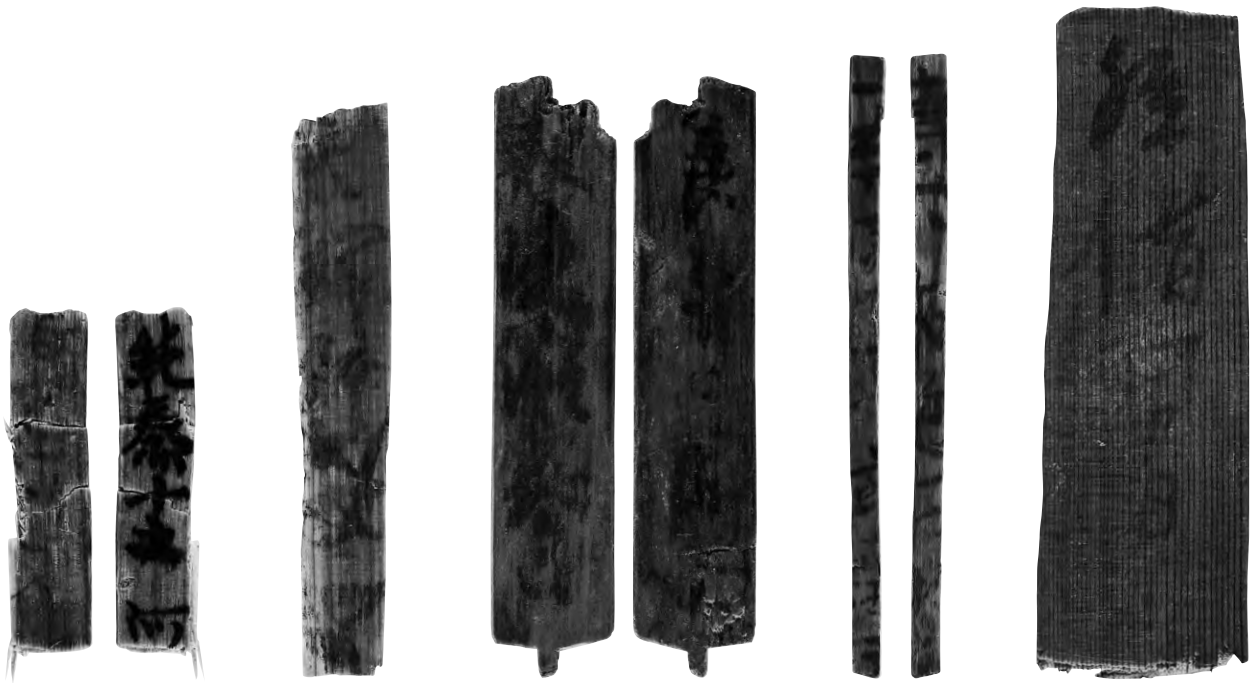
587

297

521

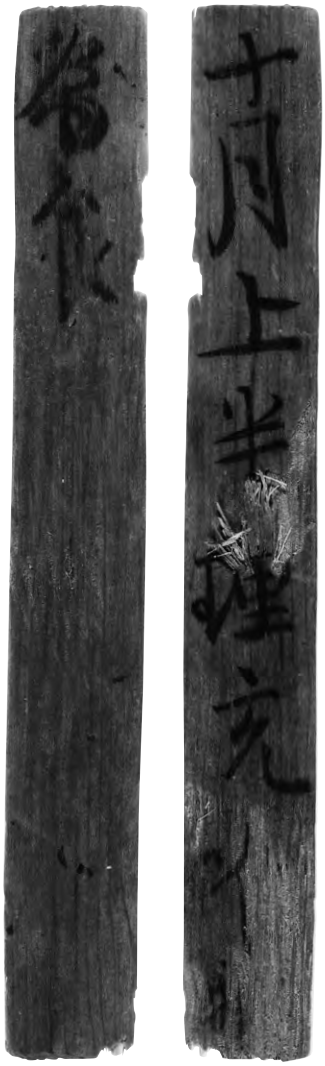
4：5

131　153　142



304　433　136　434　133

4：5



132

308

307

306

432

303

302

4：5

520

426

299

300

522

430

429

586

152

134

4：5

135

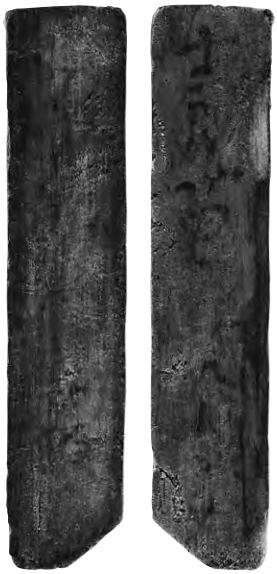
130

220

144

143

149



158

137

4：5

154

155

156

428

146

159

181

182

274

427

209

141

580

145

4：5

273

276

309

310

275

318

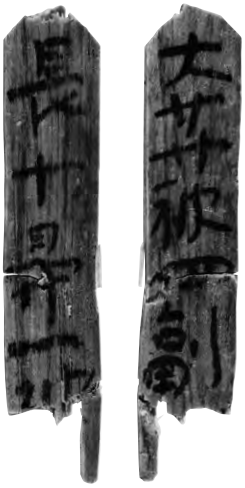
194

195

193

189

582


188

4：5

170

311

164

312

410

173

317

316

172

171

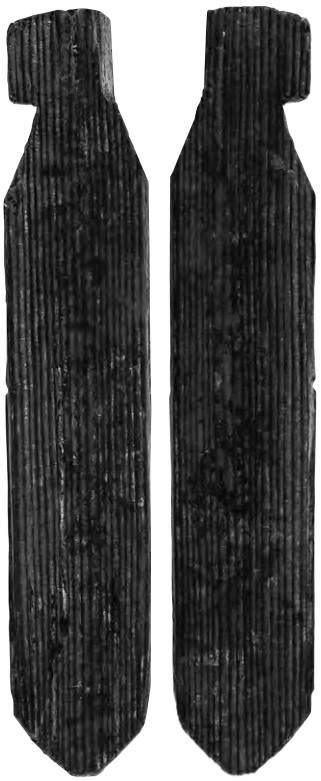
4：5

532

533

529

534



530

531

4：5

537

277

536

528

435

208

415

594

600

313

589

4：5

168

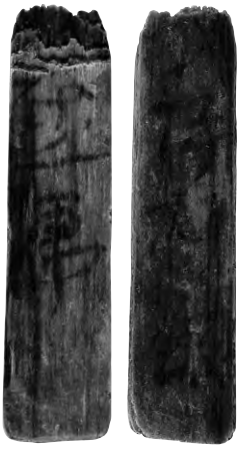
169

163

175

167

166


165

526

174

162

314

593

180

197

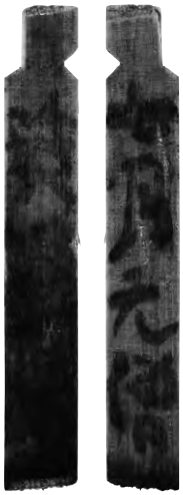
198

199

206

179

190


192

210

157

212

214

4：5

（左側面）

211

200

191

185

196

205

203

202

201

186

148

187

204

4：5

219

538

（左側面）

216

431

319

439

（左側面）

217

4：5

215

441

（左側面）

541

222

328

438

240

320

4：5

244

151

218

150

332

248

140

590

4：5

224

221

546

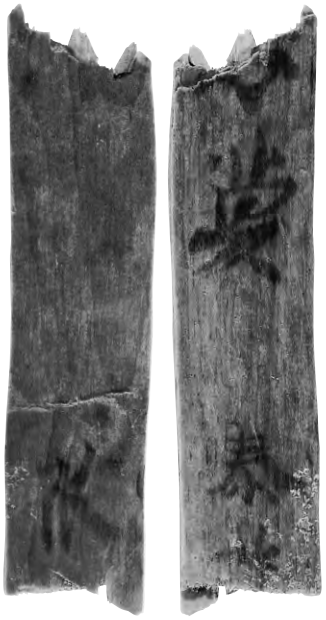
583

420

552

161

138



581

588

249

223

437

419

436

539

324

334

247

4：5

PL.129　北・南地区の削屑

103

283

556

450

484

474

254

33

335

251

257

488

562

32

280

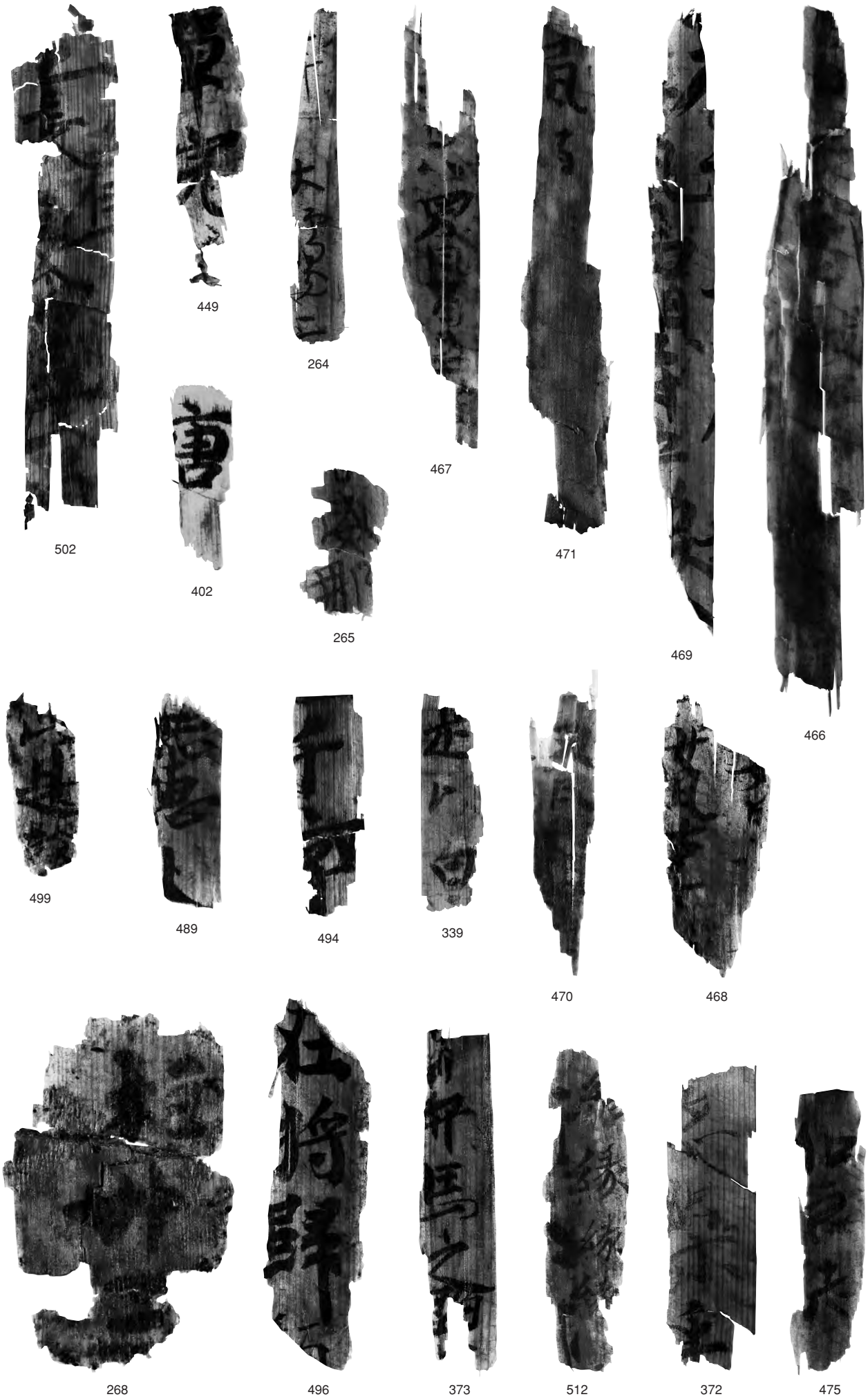
452

574

454

253

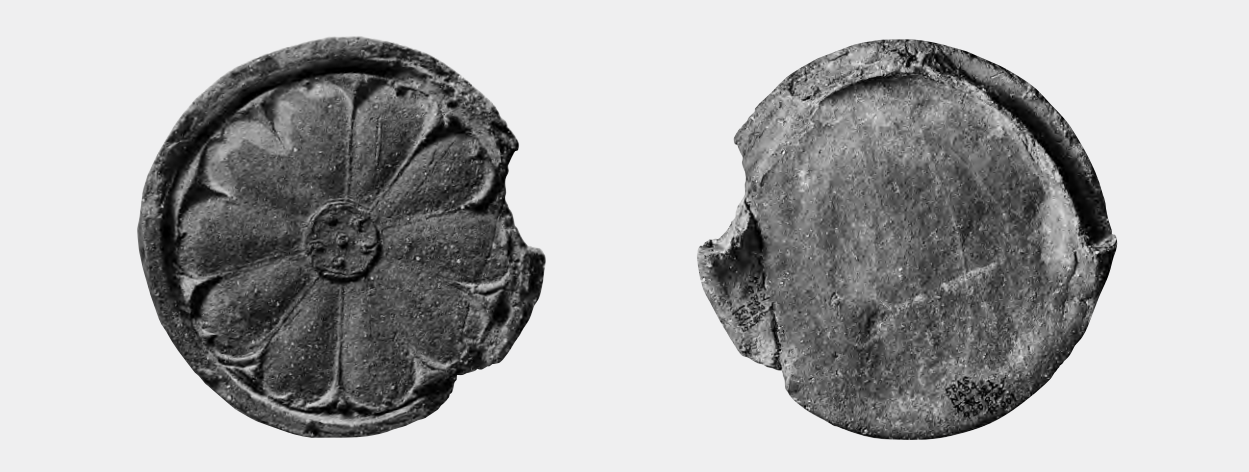
1：1


502
449
264
402
265
467
471
469
466
499
489
494
339
470
468
268
496
373
512
372
475

1：1

PL. 131　軒丸瓦（1）

1．Ⅰaの笵傷1段階。中房は浅くくぼむ。瓦当裏面は下端に向かうナデ調整。 中房細部はPL.134-2。



2．Ⅰaの笵傷1段階。多少、笵ズレがある。裏面は上から下へナデ調整。接合部細部はPL.134-8。

3．Ⅰaの笵傷2段階。中房周囲が圏線状に高くなる。瓦当の薄い資料。裏面はやや雑なナデ調整。

4．Ⅰaの笵傷2段階。瓦当がやや分厚い資料。接合する丸瓦は、凹面先端にもヘラケズリ。

1：3

1. Ⅰaの笵傷2段階。瓦当はやや分厚く、裏面がわずかに膨らむ。中房細部はPL.134-3。

2. Ⅰaの笵傷2段階。瓦当は薄い。やや分厚い丸瓦を接合する。支持ナデはない。笵端の細部はPL.134-7。飛鳥池東方遺跡出土。

3. Ⅰaの笵傷3段階。瓦当は分厚く、その上端に丸瓦を差し込む。支持ナデがある。接合部細部はPL.134-12。

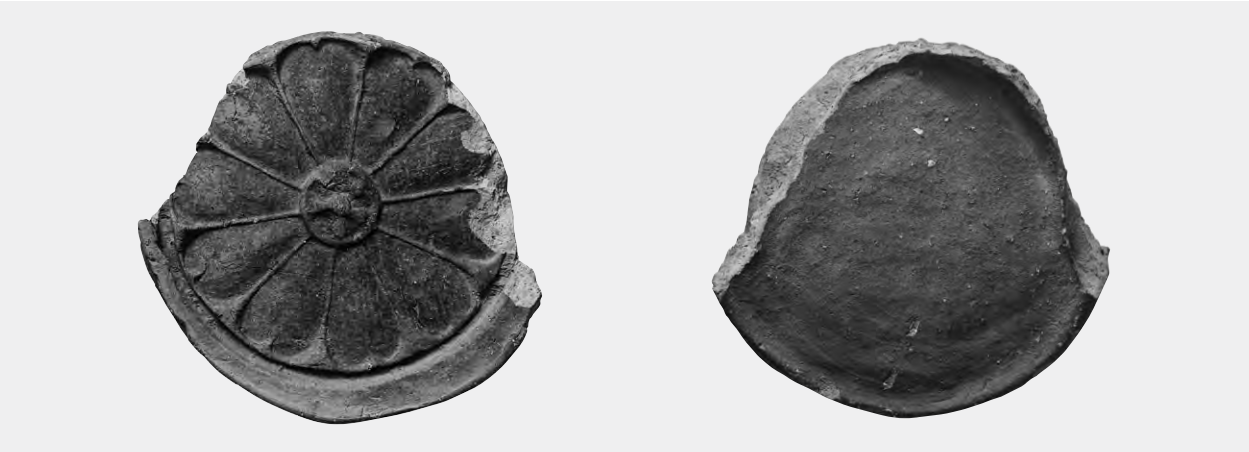
4. Ⅰaの笵傷3段階。丸瓦を深くは差し込まない資料。内面接合粘土を多くつける。瓦当裏面周囲に凸帯。

1：3

PL. 133　軒丸瓦 (3)

1. Ⅰaの笵傷3段階。中房周囲と蓮子がひどく潰れる。丸瓦は裏面上端にのせる。支持ナデはない。接合部細部はPL.134-11。

2. Ⅰb。中心蓮子がほかより大きい。丸瓦は凹凸面先端をヘラケズリして瓦当に深く差し込む。接合部細部はPL.134-13。飛鳥寺出土。



3. Ⅰc。外縁が太く、幅が一定しない。裏面調整は比較的丁寧。瓦当周囲をつまんでナデ。接合部細部はPL.134-14。飛鳥寺出土。

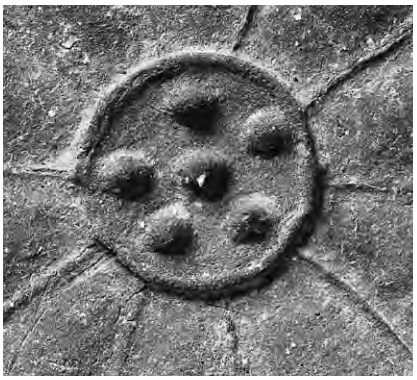
4. Ⅰaの丸瓦部。先端は凸面だけにヘラケズリをおこない、凹面側には手を入れない。

5. Ⅰaの丸瓦部の接合部。

1：3 (1～3)

1．蓮弁Ａ先端の笵傷。

2．Ⅰa笵傷1段階の中房。

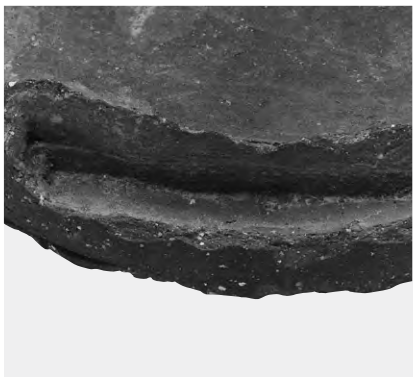

3．Ⅰa笵傷2段階の中房。

4．Ⅰa笵傷3段階の中房。

5．Ⅰbの中房。

6．Ⅰcの中房。

7．Ⅰa。笵端は外縁にかぶる。


8．Ⅰa笵傷1段階接合部。凹面布圧痕（ネガ）。

9．Ⅰa接合部。丸瓦先端は凸面のみヘラケズリ。

10．Ⅰaで丸瓦先端凹面をヘラケズリする例。

11．Ⅰa笵傷3段階の接合部。

12．Ⅰa笵傷3段階の接合部。支持ナデあり。

13．Ⅰbの接合部。

14．Ⅰcの丸瓦先端の刻み目（ネガ）。

15．Ⅰc丸瓦先端。凹凸面に刻み目。

1：1（2～6）

PL. 135　軒丸瓦 (5)

1．Ⅲa笵傷1段階。中房は台状で蓮子は小粒。丸瓦先端を片ほぞ形に加工して接合。中房細部はPL.140−1、接合部細部はPL.140−4。

2．Ⅲa笵傷2段階。蓮子が大型化し、中房周囲が圏線状に高い。中房細部はPL.140−2。

3．Ⅲb笵傷3段階は間弁が中房につながる。外縁の外側に笵端の痕跡あり。裏面を平坦に作る例。

4．Ⅲb笵傷4段階には蓮弁に板目の木目があらわれる。裏面を中高に作る例。丸瓦先端は片ほぞ形に加工。接合部細部はPL.140−5。

1：3

1．Ⅴの瓦当完形品。Ⅲaに似るがやや小さい。裏面はわずかに中高に作る。丸瓦先端は片ほぞ形に加工する。接合部細部はPL.140-6。

2．Ⅷa。間弁が中房にとどかない特徴はⅢaやⅤと共通するが、中房は大きく蓮子1+4。蓮弁は短い。

3．Ⅵ。弁端は反転する。

4．Ⅵ。中房は小さい。

5．Ⅵ。笵端は外縁にかぶる。

6．Ⅶ。外縁をもたない。

7．Ⅶ。中房蓮子は1+4。

8．Ⅶ。接合部細部はPL.140-7。

1：3

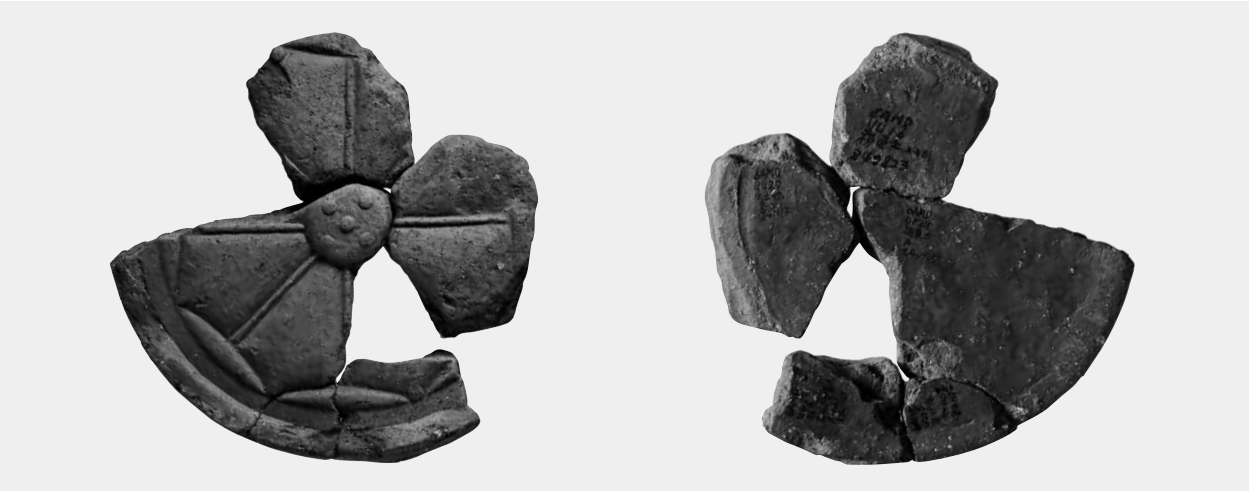
PL. 137　軒丸瓦（7）

1．飛鳥池遺跡出土の奥山廃寺式軒丸瓦（飛鳥寺C）。いずれも小片だがすべて石神Aと同笵。

2．石神C。石神Aより小振り。石神遺跡出土。

3．石神A。幾何学的な八角形の弁区が特徴。先端を片ほぞ形に加工した丸瓦を接合。接合部細部はPL.140-8。石神遺跡出土。

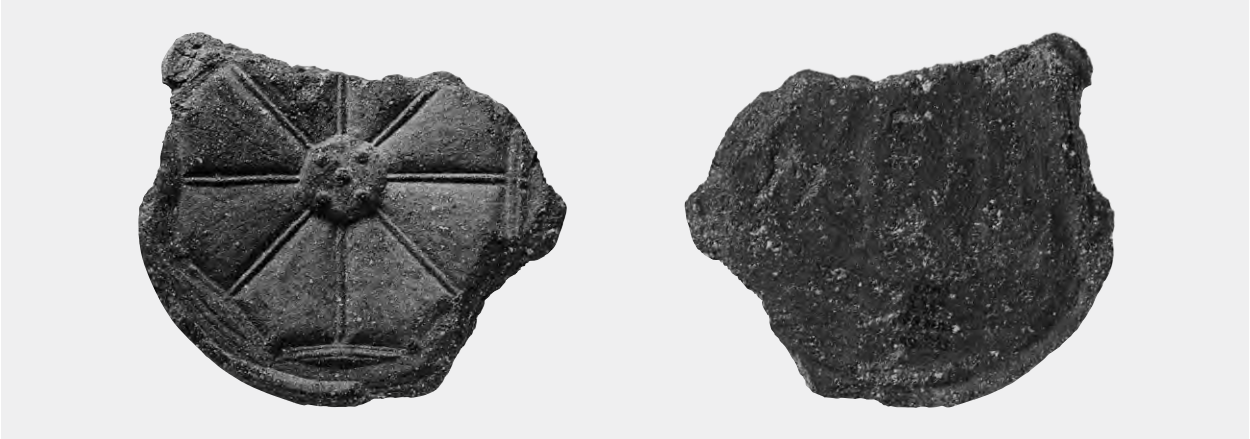
4．石神A。3と同笵だが、瓦当を薄く作り、丸瓦をのせるだけで差し込まない。支持ナデがある。石神遺跡出土。



5．石神B。石神Aより間弁先端が太い。笵型は外縁にかぶらない。先端未加工の丸瓦を瓦当裏面に接合。石神遺跡出土。

1：3

1. 石神D。弁区と外縁とのすき間が狭い。凹面先端をヘラケズリした丸瓦を差し込む。接合部細部はPL.140−10。石神遺跡出土。



2. 石神D。凸面先端をヘラケズリした丸瓦を接合する。石神遺跡出土。

3. 石神D。先端未加工の丸瓦を裏面の上端にのせて接合する。石神遺跡出土。

4. 石神E。唯一、奥山廃寺と同笵（奥山廃寺ⅡE）。凹面先端をヘラケズリした丸瓦を接合する。接合部細部はPL.140−11。石神遺跡出土。

1：3

PL. 139　軒丸瓦 (9)

1. 飛鳥寺D。奥山廃寺ⅣC（PL.140-13）と同笵。凹凸面先端をヘラケズリした丸瓦を接合。接合部細部はPL.140-14。

2. 飛鳥寺E（飛鳥池東方遺跡出土）は四天王寺創建軒丸瓦（右）と同笵。胎土も共通。

3. 斑鳩寺金堂創建瓦。四天王寺同笵だが製作は先行。

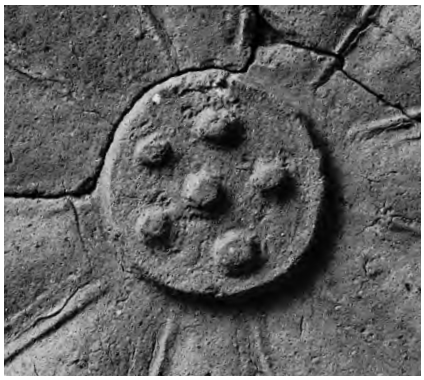
4. 飛鳥寺F。瓦当径8cmだが丸瓦部はある。

5. 飛鳥寺Fを拡大し奥山廃寺ⅣA（右半）と比較。中房比と弁の形が一致する。

6. 飛鳥寺G。笵型は外縁まで。接合部細部はPL.140-15。

7. 飛鳥寺H。外縁のみで、文様は不詳（2：3）。

1：3


1. Ⅲa笵傷1段階の中房。

2. Ⅲa笵傷2段階の中房。

3. Ⅲbの中房。

4. Ⅲaの接合部。丸瓦先端は片ほぞ形加工。

5. Ⅲbの接合部。丸瓦先端は片ほぞ形加工。

6. Ⅴの接合部。丸瓦先端は片ほぞ形加工。

7. Ⅶの接合部。丸瓦凹面先端をヘラケズリ。

8. 石神Aの接合部。丸瓦先端を片ほぞ形に加工。

9. 石神Cの瓦当裏面（1：3）。

10. 石神Dの接合部。丸瓦凹面先端をヘラケズリ。

11. 石神Eの接合部。丸瓦凹面先端をヘラケズリ。

12. 石神E。丸瓦先端を片ほぞ形に加工。

13. 奥山廃寺Ⅳc（1：5）。

14. 飛鳥寺Dの接合部。

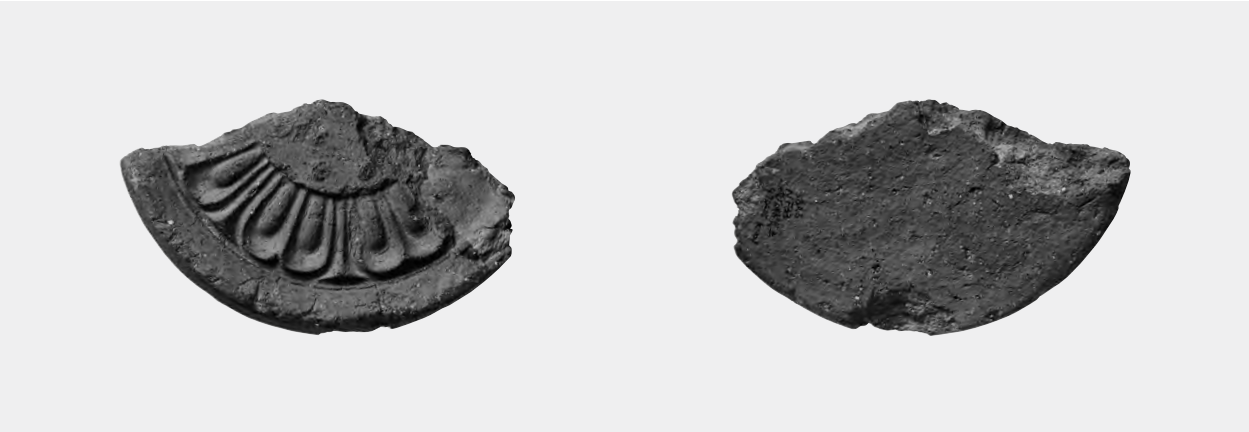
15. 飛鳥寺Gの接合部。

1：1（1～3）

PL. 141　軒丸瓦（11）

1．XⅡC。蓮子周環がぼける。丸瓦の端面に弧状の刻み目。裏面はヘラケズリ調整で平坦に仕上げる（Ⅲ型）。丸瓦接合粘土はやや多い。

2．XⅡE。裏面中央をヘラケズリで浅くくぼませ、下半に突帯を形成（Ⅰ型）。丸瓦の端面に弧状の刻み目、瓦当自体に放射状の刻み目を入れる。



3．XⅣb笵傷2段階。瓦当は貼り合わせた粘土面で剥離する。裏面は平坦にナデ調整。

4．XⅣb笵傷5段階。弁端と外縁間の笵傷はすべて切り取る。

5．XⅣb笵傷6段階。弁端と外縁間の笵傷が残る。

1：3

1．川原寺出土の創建軒丸瓦C種（＝飛鳥寺XⅡC）。瓦当裏面中央をヘラケズリでくぼませるⅠ型。

2．川原寺出土の創建軒丸瓦E種（＝飛鳥寺XⅡE）。外縁には鋸歯文を彫りかけたような痕跡あり。瓦当裏面は中央がくぼむⅠ型。

3．飛鳥池遺跡出土XⅡCの接合部。未加工の丸瓦先端凹凸面にタテの刻み目あり。

4．XⅡE側面のヘラケズリ調整。

5．飛鳥池遺跡出土XⅡEの接合部。

6．XⅣb。笵型と枷型のすき間にできたバリ。

1：3（1・2）

PL. 143　軒丸瓦（13）

1．XⅣa笵傷1段階。外縁に木目の痕跡。丸瓦を瓦当裏面の上端にのせて接合する（PL.146-2）。裏面の調整は丁寧。飛鳥寺講堂出土。

2．XⅣb笵傷2段階。丸瓦を瓦当裏面の上端に挿入して接合する。丸瓦先端の加工手法は、PL.146-3。飛鳥寺南門外南東出土。

3．XⅣb笵傷3段階。丸瓦の端面を5箇所（推定）切り欠き、凹凸面にはタテの太い刻み目を入れて接合する。飛鳥寺寺域東北隅出土。

4．XⅣb笵傷3段階。丸瓦の端面に3箇所の切り欠きと刺突、凹凸面には斜格子刻み目を入れる。飛鳥寺北門付近出土。

1：3

1. XⅣb笵傷3段階。丸瓦先端はPL.146-8。飛鳥寺寺域東北隅出土。

2. XⅣb笵傷4段階。裏面はPL.146-10。飛鳥寺西門外側出土。

3. XⅣb笵傷4段階。瓦笵の押しが不十分。裏面の内面接合粘土は多め。丸瓦先端の加工手法はPL.146-9。飛鳥寺西門外側出土。

4. XⅣb笵傷5段階。瓦当面の笵傷に手を入れない。丸瓦先端は凹凸面にタテの刻み目を入れる。飛鳥寺講堂出土。

5. XⅣb笵傷6段階。中房に細い笵割れ（PL.146-12）。飛鳥寺講堂出土。

6. XⅣb笵傷7段階。中房と弁区に笵割れ（PL.146-13）。飛鳥寺北面大垣出土。

1：3

1．XⅣb笵傷5段階の完存品。弁区の笵傷は切り取る。丸瓦の端面に刻み目を入れる。瓦当側面は斜めに作る。飛鳥寺伽藍中枢部出土。

2．XⅣbの外縁にヘラで鋸歯文を入れた例。飛鳥寺講堂出土。

3．2は側面にも一部だが鋸歯文を描く。

4．蓮弁Aの笵傷小（2段階）。

5．蓮弁Aの笵傷大（3段階）。

6．蓮弁Aの笵傷を切り取る例（4段階）。

1：3（1の左上・2）、1：1（4～6）

1. XⅣa笵傷1段階。笵端と枷型の痕跡。

2. 1の丸瓦先端加工と接合手法。

3. XⅣb笵傷2段階。丸瓦先端の刻み目。

4. XⅣb笵傷2段階。丸瓦端面に斜格子刻み目。

5. XⅣb笵傷2段階。丸瓦凹面の斜格子刻み目。

6. XⅣb笵傷3段階。歯車状加工と凹面のタテ刻み目。

7. XⅣb笵傷3段階。歯車状加工と刻み目と刺突。

8. XⅣb笵傷3段階。歯車状加工するが刻み目なし。

9. XⅣb笵傷4段階。歯車状にせず凹面にタテ刻み目。

10. XⅣb笵傷4段階。丸瓦凹面への接合粘土を2段階にわけて充填する資料。歯車状加工はしていない。

11. XⅣb笵傷6段階。歯車状加工。

12. XⅣb笵傷6段階。端面加工はない。

13. XⅣb笵傷7段階。凸面に雑な斜格子刻み目。

PL. 147　軒丸瓦（17）

1．重弁文のXⅢ。中房は弁位置で8区画し、間に蓮子をおく。直立縁の外縁内側に斜めの内縁。鋸歯文と珠文を配置する。

2．XⅢの文様鮮明な例。1と丸瓦取り付け位置は一致する。蓮弁の笵傷と外区内縁の文様が明瞭。

3．XⅦの瓦当完存例1。外区内縁の珠文間に小粒の突起。割付変更の痕跡か。瓦当面全体に粘土のシワ。裏面は平坦。接合粘土ごく少量。

4．XⅦの瓦当完存例2。瓦当面には粘土のシワがある。笵詰め手法を示す。裏面はナデ調整で平坦に仕上げる。

1：3

1. XⅧa。蓮弁は弁端の切れ込みが三角形で法隆寺式軒丸瓦に似る。弁端と外縁が接続しており、外区内縁がない。裏面は平坦。

2. XⅧa。中房蓮子（1＋4＋11）は大小があり配置も不揃い。中房面に木目が浮く。左下の蓮弁のみ子葉の周囲に眉形の突線がある。

3. XⅧb。蓮子2個を埋木して、1＋4＋9に変更。蓮弁も笵型に手を加えるので、XⅧaより子葉が低く、弁端の切れ込みも短い。

4. XⅧb。1～4とも丸瓦取り付け位置が一致する。丸瓦の端面には刻み目はない。裏面は平坦につくる。

1：3

PL. 149　軒丸瓦（19）

1．XIXの完好例。中房蓮子は方格状の配置。蓮弁は中くぼみで弁端が尖る。間弁も先端が尖る。裏面は平坦にナデ仕上げ。東南禅院推定地出土。

2．XXa。紡錘形の大きな子葉が特徴的な蓮弁。外区は内外縁とも素文。外縁は幅の広い直立縁。裏面は平坦。

3．XXa。丸瓦取り付け位置は2と一致する。裏面は全体をヨコ方向にナデ調整して平坦にする。

4．外縁に二重の、内縁には単線で放物線状の文様を彫り加えたXXb。弁区のひび割れを調整したため文様が消える。製作手法はXXaと同じ。

1：3

1．飛鳥池遺跡出土XIX。

2．XIXの別資料。

3．XIX側面のナデ調整。東南禅院推定地出土。

4．XIIIの側面。笵端と枷型の合わせ目。

5．XVIIの側面。枷型の木目圧痕。

6．XVIIIbの側面。枷型の木目圧痕。

7．XXaの側面。枷型の圧痕あり。未調整。

8．XIIIの接合部。ネガの布圧痕と棒の刺突痕。

9．XVIIの丸瓦部先端。模骨痕と棒の刺突痕。

10．XVIIIbの接合部。ネガの模骨痕と布圧痕。

11．XVIIIb丸瓦部の竹状模骨痕。

12．XXb接合部。棒による刺突痕。

13．飛鳥寺Jの外区小破片。（2：3）

14．近世以降の左巻き三つ巴文。

15．14とは別笵の左巻き三つ巴文。

1：3（1・2・14・15）

PL. 151　軒平瓦（1）

1．大型三重弧文のＩA1。弧線の断面が角張っており、幅は一定でない。凹線は深い。瓦当幅31㎝。瓦窯SY1200壁材の１点。

2．ＩA1。凹線がやや細く、弧線が幅広い。瓦窯SY1200の壁材の1点で、瓦当面にはそのときに付着した粘土が残っている。

3．焼き損じで変形したＩA1。これも瓦窯SY1200の壁材として積んであった。

4．1の凹面布筒の綴じ合わせ目痕。

5．2の側面。

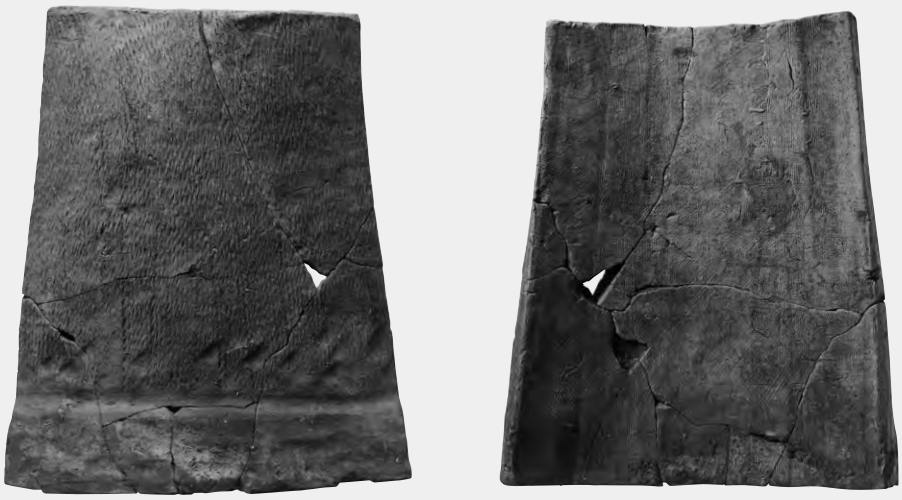
6．2の凹面。くぼみは分割界点か。

7．3の側面。

8．3の凹面。分割界線。

1：3（1～3）

1.　ⅠA1（PL.151−1）の凹凸面。顎は段部が不明瞭。凹面はまったく調整しない。布筒の綴じ合わせ目痕が残る（PL.151−4）。



2.　ⅠA1（PL.151−2）の凹凸面。顎は段部をナデるが明確な段としない。1・2とも瓦当面を内に向けて瓦窯壁材に使われたのでそこが変色する。

3.　ⅠA1（PL.151−3）の凹凸面。顎の段部は1・2よりさらに不明瞭。縄叩き痕も1・2と異なる。凹面中央に布筒の破れあり。

PL. 153　軒平瓦（3）

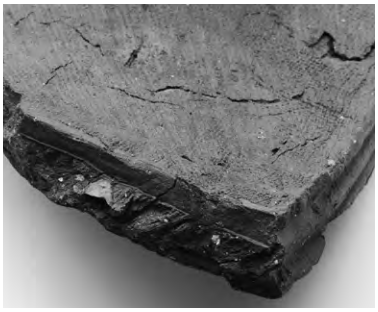
1．小型三重弧文のＩB。弧線と凹線の幅がだいたい同じ。瓦当幅29㎝、瓦当厚3㎝でＩAより小振り。

2．ＩB。瓦当幅28㎝に調整した例。

3．瓦当幅の小さいＩB。左側辺は焼成前に切り込みを入れ、焼成後に割る（6）。熨斗瓦と同じ手法。瓦当幅20㎝。

4．隅軒平瓦のＩB。瓦当幅は普通の軒平瓦（1・2）とかわらない。

5．2の凸面。側縁に平行の凹型台圧痕。

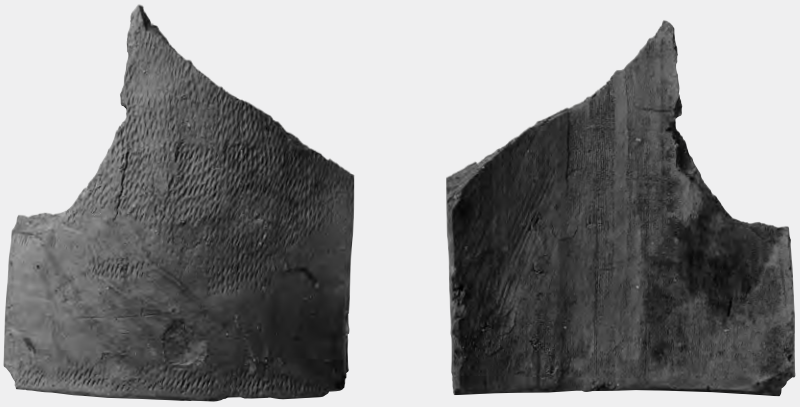


6．3の左側面。分割破面未調整。

7．4の凹面の布筒の綴じ合わせ目痕。

1：3（1～4）

1. ＩＢ（PL.153−1）の凹凸面。凸面はナデ調整で縄叩き痕がほぼ消える。凹面は調整しないので模骨痕がよくわかる。



2. ＩＢ（PL.153−2）の凹凸面。凸面後半部は調整がおよばず縄叩き痕がみえる。凹面の模骨痕段差を一部ナデ調整する。

3. ＩＢ（PL.153−3）の凹凸面。凸面の瓦当沿いをヘラケズリして面取りする。凹面は糸切り痕が明瞭。糸切りは右上から左下へ。

4. ＩＢ（PL.153−4）の凹凸面。瓦当幅を縮めず、右側辺を約45°の角度で切り落とす。切り落としは焼成前。

PL. 155　軒平瓦 (5)

1. ＩC。大型で上下の弧線に竹管文を押す。凹線をヘラで施文。瓦当面を内向きに瓦窯SY1200で積まれたため、瓦当面が荒れ粘土が付着。

2. ＩD。ＩCと同文だが段顎をもつことで区別。ＩCよりも瓦当厚が小さい。竹管文は上に7つ下に6つ。間隔はばらつく。

3. ＩD。瓦窯SY1200の壁材だったため瓦当面が焼損する。2よりも弧線が太いが凹線は断面V字形で細い(8・9)。

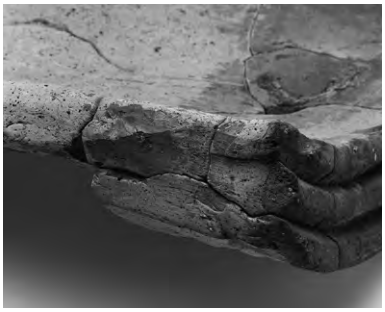
4. ＩCの竹管文。

5. ＩCの凹面。段部に丸いくぼみ。紐痕跡？

6. ＩD。凹面側辺の分割界線。

7. ＩDの竹管文。

8. ＩD(2)の側面。



9. ＩD(3)の側面。

1：3 (1～3)

1．ＩＣ（PL.155-1）の凹凸面。顎はＩＡ1のように緩い段差をもつ。平瓦部凸面には縄叩き痕。凹面は調整されず模骨痕が明瞭。

2．ＩＤ（PL.155-2）の凹凸面。顎は段顎。凸面の縄叩き痕をナデ調整。凹面を全体にナデ調整して模骨痕や布圧痕を消す。

3．ＩＤ（PL.155-3）の凹凸面。顎の段部に強いヨコナデ。凹面は全体にナデ調整。瓦窯の壁材に使用されたので瓦当部が変色する。

PL. 157　軒平瓦（7）

1．ⅠA2。大型の三重弧文で段顎をもつ。凹線をヘラで切り込んでからナデ調整を加える。顎は粘土板貼り付け。

2．ⅠG。先の鋭いヘラで凹線を刻んだ大型の三重弧文。凹線は深さ1㎝以上ある（PL.158-4）。瓦当幅33㎝。顎は曲線顎。

3．ⅠH1。ユビナデで施文した三重弧文に竹管文を押す。上下の弧線に施文、下の第3弧線の竹管文は2個一対。顎は曲線顎（PL.158-5）。

4．ⅠH2。ユビナデで施文した三重弧文の第1弧線（上）と第2弧線（中）に竹管文を押す。第1弧線の竹管文は2個一対。

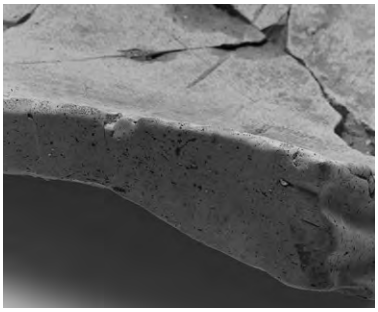
1：3

1. ＩG（PL.157−2）の凹凸面。顎は曲線顎。顎面は雑なナデ調整。凹面にはほとんど調整を加えず、模骨痕がみえる。

2. ＩH1（PL.157−3）の凹凸面。顎は緩い段を形成。顎面はヨコ方向のユビナデ。平瓦部凸面に縄叩き痕。凹面左側辺に分割界線。

3. ＩH2（PL.157−4）の凹凸面。顎の形状と調整はＩH1と近似。凹面は調整しない。左側辺に分割界線（6）。

4. ＩGの重弧文断面。



5. ＩH1の側面。

6. ＩH2の分割界線。瓦当面に届かず。

1：6（1〜3）

PL. 159　軒平瓦 (9)

1. ユビナデで施文した三重弧文をもつ IF1。弧線断面が三角形。

2. IF3。弧線が角張る。顎は直線顎。

3. IF2。凹線は幅が広く、弧線は断面三角形。焼け歪みが激しい。

4. IK。弧線が角張り、凹線は断面三角形。

5. IA2。弧線の断面形は丸みがある。凹線は細い。

6. IF1の左半資料。瓦当面の断面はS字状。

7. IF3の右端資料。2よりも弧線は細いが平坦面がある。

8. IJ1。瓦当厚が小さい。弧線の断面形は丸い。

9. IJ3。凹線の太さは IJ1と IJ2の間くらい。瓦当面にワラ状の圧痕。

10. IJ2。 IJ1 (8) より凹線が太い。

1：3

1. IF2（PL.159-3）の凹凸面。段顎長13㎝。顎面・凸面に縄叩き痕。凹面に布綴じ合わせ目痕。

2. 1の綴じ合わせ目痕拡大。

3. IF1（PL.159-1）の凹凸面。顎面は雑なナデ調整。凹面に布綴じ合わせ目痕。

4. IK（PL.159-4）。顎面縄叩き痕、凹面瓦当沿いに挽き型痕跡。

5. IA2（PL.159-5）の凹凸面。

6. IF3（PL.159-7）の顎面はユビナデ、凹面調整せず。

7. IF1（PL.159-6）。顎は粘土板貼り付け。平瓦部に縄叩き痕。

8. IJ2（PL.159-9）は顎面に縄叩き痕。凹面部分的にナデ調整。

9. IJ1（PL.159-8）。顎面と凹面中央部をナデ調整。

10. IJ3（PL.159-10）。隅の形状。顎面に縄叩き痕。

1：6（1・3～9）

PL. 161　軒平瓦（11）

1．ⅡB。顎長7cm。弧線と凹線の幅が同じ。瓦当の幅は37cmある。

2．ⅡA3。凹線が太いがⅡBほどではない。

3．ⅡA1。弧線の断面形は丸みが強い。

4．ⅡA2。ⅡA1より凹線が太くかつ深い。

5．ⅡF。第2・3弧線が細く、凹線が太い。

6．藤原宮6641E。右端片。

7．ⅣB。大官大寺6661B。

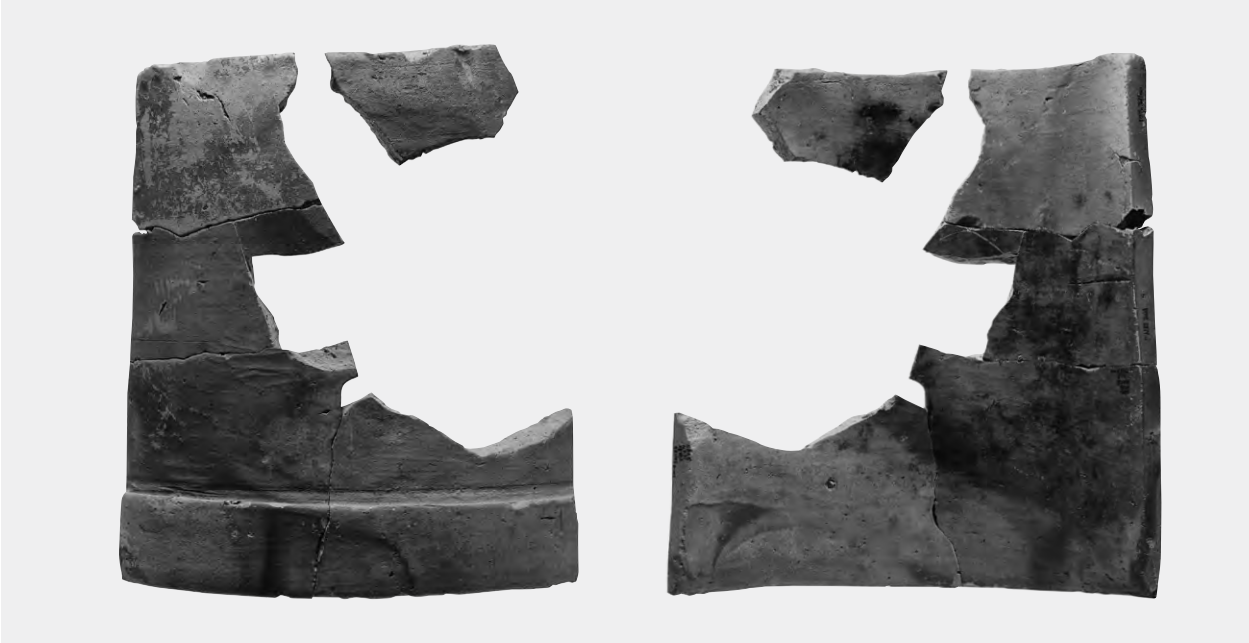
8．川原寺762同笵。

9．近世の軒平瓦。

10．近世の橘唐草文軒平瓦。

11．近世の橘唐草文軒平瓦右端片。

1：3



1. ⅡB。凸面はカキ目調整の後、顎近くをヘラナデ調整。凹面はヘラミガキ調整。

2. 素文軒平瓦。凸面広端から約12㎝に朱線。凹面の中央の当て具痕とそれに対応する凸面の平行叩き痕。

3. ⅡA2。凹面は丁寧なナデ調整。

4. ⅡA3。顎面の端部が外反する。

5. ⅡF。顎が長い。凹面に側板痕が明瞭。

6. ⅡA1。凹凸面ともナデ調整。

1：6

PL. 163　丸　瓦（1）

1．行基丸瓦1類A。凸面に格子叩き痕明瞭。側面の凹面側に分割破面。

2．行基丸瓦1類A。凸面にかすかな格子叩き痕。

3．行基丸瓦1類B。焼け歪みで広端が開く。側面の分割破面が明瞭。

4．行基丸瓦1類B。焼け歪みで変形する。凸面中央に斜格子叩き痕。

5．行基丸瓦1類B。凹面に狭端を綴じ付けた布筒の圧痕。飛鳥寺出土。

6．行基丸瓦1類B。凹面の粘土板合わせ目（S型）をユビナデ調整。

1：6

1．行基丸瓦2類。側面はb手法。飛鳥寺講堂出土。

2．行基丸瓦3類。叩き痕は不明。側面に部分的に分割破面が残る。

3．行基丸瓦3類。凹面の布筒の綴じ合わせ目痕は、5（6）と同じ。

4．行基丸瓦3類。凹面の中央に布筒の継ぎ目痕。

5．行基丸瓦3類。凸面広端に補足の平行叩き痕。

6．5の布筒の綴じ合わせ目痕の拡大。3と同一。

1：6（1～5）

1．行基丸瓦4類。凸面カキ目調整。凹面の糸切り痕明瞭。

2．行基丸瓦4類。凸面のカキ目は10条前後が1単位。飛鳥寺講堂出土。

3．行基丸瓦4類。側面がないので土管か。

4．行基丸瓦4類。細かなカキ目調整。

5．行基丸瓦5類。軒丸瓦Ⅰ型式bの丸瓦部。東南禅院推定地出土。

6．4の凸面拡大。

7．4の側面拡大。

1：6（1～5）

1．行基丸瓦6類。凸面に斜格子叩き痕。凹面ユビナデ調整あり。

2．行基丸瓦6類。叩き痕みえず。凹面狭端にヘラケズリ。

3．行基丸瓦7類。叩き痕は不明。飛鳥寺講堂北面出土。

4．行基丸瓦7類。Urの糸切り痕明瞭。飛鳥寺講堂北面出土。

5．行基丸瓦7類。側面は凹凸両面側に面取りがある。飛鳥寺講堂出土。

6．行基丸瓦7類。Urの糸切り痕明瞭。飛鳥寺西門外側出土。

1：6

1．行基丸瓦8類。凸面にかすかな縄叩き痕。飛鳥寺北面外濠出土。

2．行基丸瓦8類。凹面右側辺の紐圧痕の先端はくぼむ。飛鳥寺寺域東北隅出土。

3．行基丸瓦8類。側面の凹面側は四辺ともに面取り。飛鳥寺寺域東北隅出土。

4．行基丸瓦10類。凹面に模骨の側板圧痕。飛鳥寺北面外濠出土。

5．行基丸瓦10類。凹面に側板痕、凸面に円弧を描く平行叩き痕が残る。

6．行基丸瓦10類。凸面に平行叩き痕が残る。

1：6

1. 行基丸瓦11類は竹状模骨丸瓦。模骨を綴じ合わせた紐の痕跡がみえる。

2. 行基丸瓦11類。凸面の縄叩き痕が明瞭な例。

3. 凹面に2条の布筒の綴じ合わせ目痕。2枚の布を綴じ合わせた例。

4. 2と同じように凹面の中央に粘土板合わせ目S型がある。

5. 糸切り痕は広端に向かうDr。粘土板合わせ目はZ型。

6. 糸切り痕は狭端に向かうUr。綴じ合わせ目痕が斜めに走る。

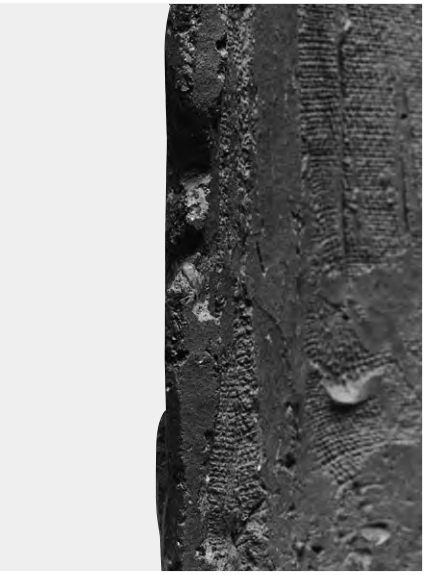
1：6

1．竹状模骨の行基丸瓦11類。叩き痕は縄。

2．焼け歪んだ行基丸瓦11類。竹状模骨痕は明瞭。

3．凸面中央に焼成後の打ち欠きがあるが、その意図は不明。

4．布筒の上端に継ぎ目がある例。



5．行基丸瓦10類（PL.167-6）の側面調整。

6．行基丸瓦10類（PL.167-6）の凸面の拡大。

7．布綴じ合わせ痕の一例。（PL.168-4）

1：6（1～4）

1. 玉縁丸瓦1類。布圧痕は筒部にしかない。飛鳥寺北面外濠出土。

2. 玉縁丸瓦1類。玉縁部凹面の両サイドを大きくヘラケズリ。

3. 玉縁丸瓦1類。玉縁部に粘土紐痕。飛鳥寺西門外側出土。

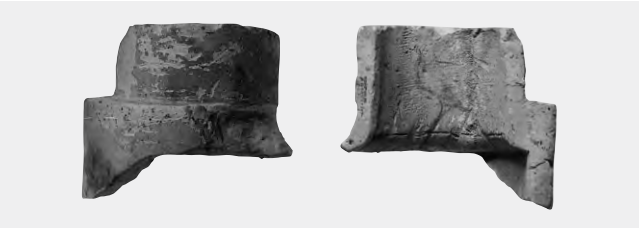
4. 玉縁丸瓦1類。凸面に平行叩き痕。

5. 玉縁丸瓦1類。布筒は合わせ目が大きく開く。

6. 玉縁丸瓦1類。布筒は3と同一。飛鳥寺西門外側出土。

7. 玉縁丸瓦2類。凸面をヘラミガキ調整。

8. 玉縁丸瓦2類。玉縁凸面を幅広のヘラケズリ。



9. 玉縁丸瓦2類。凹面段部に紐の痕跡。

1：6

PL. 171　平　瓦 (1)

1．ほぼ完形の1類A5。凸面には長方形の格子叩き痕と矢羽根形叩き痕（3類B1）が重複する。

2．1類A6。長方形の格子叩き痕だがタテヨコ比が違う。凹面の狭端寄りに布の継ぎ目痕あり。2・3は飛鳥寺寺域東部出土。

3．1類A6。平行刻線と×の刻線（3類B4）の叩き痕重複。

5．かすかに格子叩き痕のある1類A7。布の継ぎ目痕が明瞭。側板痕は幅広。

6．1類C2。斜格子刻線に対角線方向の刻線を加えた叩き板。凹面に綴じ目痕。

4．斜格子刻線の1類C1。凹面には撚り紐の分割界線。

7．1類A4の広端部。凸面に無文の補足叩き痕がある。

1：6

1．1類D1。凸面は斜格子叩き痕をナデ調整。凹面の中央には布筒の綴じ合わせ目痕がある。

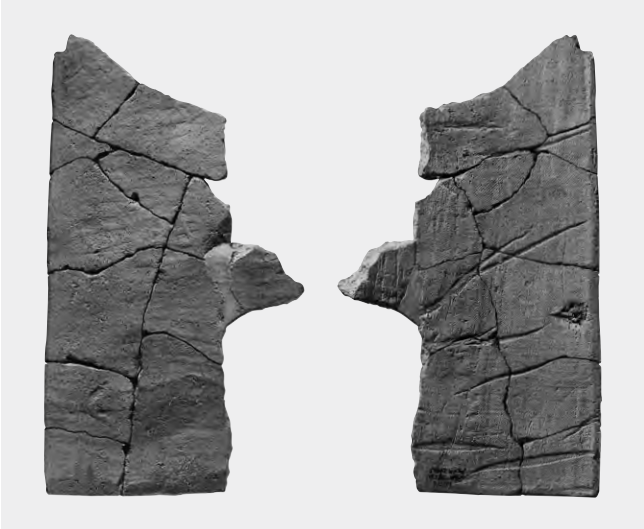
2．1類D2。1類D1よりやや短い。平行四辺形の斜格子叩き痕。凹面中央にS型の粘土板合わせ目。

3．1類D3。斜格子叩き痕はヨコナデ調整でほぼ消える。粘土板合わせ目Z型あり。側面調整a手法。

1：6

PL. 173　平　瓦 (3)

1．斜格子叩き痕をカキ目調整する1類E1。凹面の側板圧痕が明瞭。布筒の継ぎ目痕はない。飛鳥寺講堂東方出土。



2．1類D2。凹面の一部をヘラケズリ調整。

3．1類E2。凹面の布筒の綴じ合わせ目痕が開く。飛鳥寺北面大垣外濠出土。

4．1類D6。斜格子叩き痕はかすか。凹面にUrの糸切り痕。

5．1類D4。タテ長の斜格子叩き痕。粘土板合わせ目Z型。

6．1類D5。一辺2cmほどの斜格子叩き痕。撚り紐の分割界線。

7．1類D7の狭端部。凹面に布の継ぎ目あり。飛鳥池東方遺跡出土。

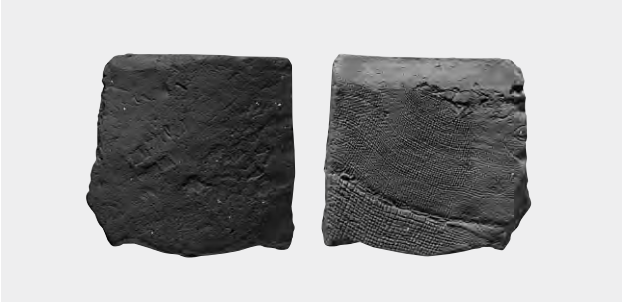
1：6

1．1類A1は大きめの格子叩き痕。凹面に布の継ぎ目痕。

2．1類A1の広端部。

3．1類A2の狭端部。入れ損ねた分割截線あり。

4．1類A3の狭端部。凹面に布の継ぎ目痕。



5．1類A5の狭端部。凹面、布の継ぎ目痕明瞭。

6．1類A6の広端部。3類B4の叩き痕が重複。

7．1類B1の狭端部。カキ目調整明瞭。

8．1類B2の広端部。凹面に撚り紐の分割界線。

9．1類A5（PL.171-1）の布筒の綴じ合わせ目痕細部。

10．1類A広端凹面の円形当て具痕。

11．1類A広端凹面の同心円文当て具痕。

1：6（1～8）

1．2類A1の平瓦を使用した割熨斗瓦。飛鳥寺西門北側出土。

2．広端と狭端に重複叩き痕。飛鳥寺寺域東限出土。

3．2類A2。叩き締めの円弧が明瞭。広端に補足の平行叩き痕と同心円文当て具痕がある。

4．2類A2。広端の広い範囲に補足叩き痕。凹面中央にZ型の粘土板合わせ目。

1：6

1. 平行叩き痕をヨコナデ調整する2類B1。小型だが、布筒には継ぎ目がある。

2. 2類B4は平行叩き痕がよく残る。糸切り痕は狭端に向かうUr。飛鳥寺西面大垣出土。

3. 平行叩き痕をカキ目調整した2類C1。凹面の粘土板合わせ目にヘラケズリ調整を加える。

1：6

PL. 177　平　瓦 (7)

1．2類A1の大型の資料。狭端に補足叩き痕、凹面中央にはZ型の粘土板合わせ目。

2．2類A3。凹面に布筒の綴じ合わせ目痕と継ぎ目痕。

3．2類A4。細い平行叩き痕。広端部にはヨコナデ調整。

4．2類A3。平行叩き痕はやや粗い。

5．2類A5。側辺沿いに粘土板合わせ目S型。

6．2類A4の広端部。凹面に同心円文当て具痕。

7．2類A4の狭端部。平瓦1類C2の斜格子叩き痕重複。

1：6

1．2類A7の狭端部。細い平行の補足叩き痕がある。

2．2類A7の広端部。

3．2類A5の広端部。凸面端部のみヨコナデ調整。

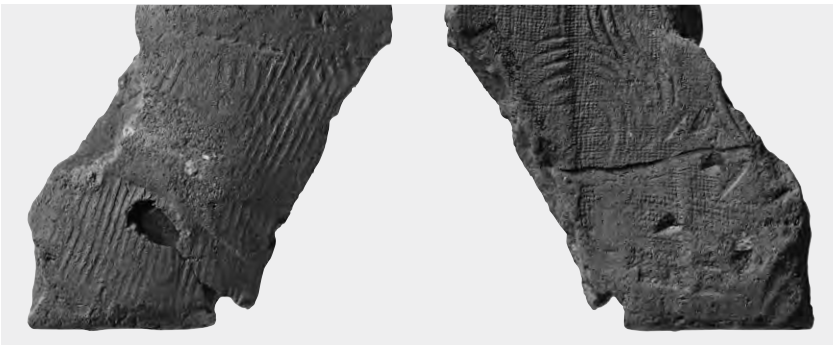
4．2類A6。広端部に補足の平行叩き痕と同心円文当て具痕。

5．カキ目調整のある2類C2狭端部。

6．2類C2の広端部。木目斜行刻線。

7．2類A3の広端部の補足叩き痕と同心円文当て具痕。

9．同心円文当て具痕。



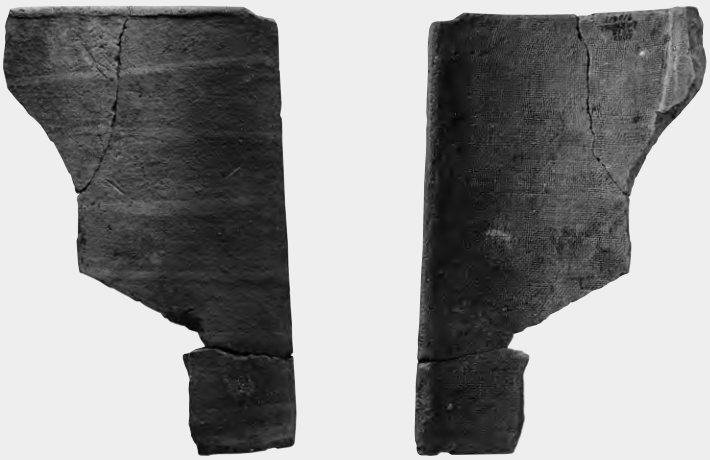
8．2類Aの広端部の補足叩き痕と同心円文当て具痕。

10．2類の無文当て具痕。

1：6（1～6）

PL. 179　平　瓦 (9)

1．3類D1。叩き痕はみえない。狭端沿いに深い布の継ぎ目痕がある。



2．3類D2は凸面調整が明瞭。

3．凸面カキ目調整の3類E4。叩き痕は残らない。

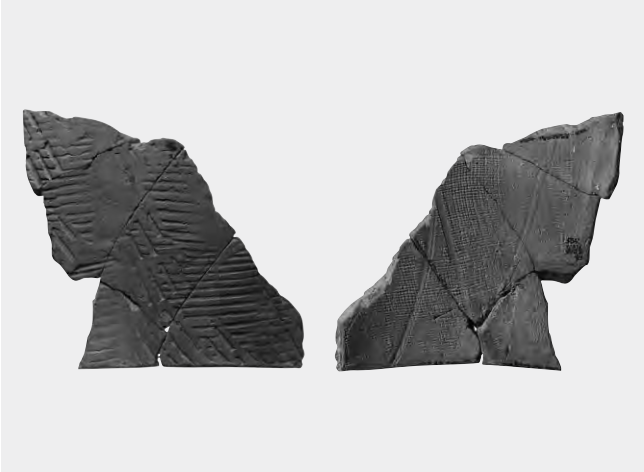
4．3類Cの広端部補足叩き痕。

1：6（1～3）

1．3類A1。平行刻線風の叩き痕。補足叩き痕が重なる。

2．3類A2の狭端部。凹面に布筒の綴じ合わせ目痕。

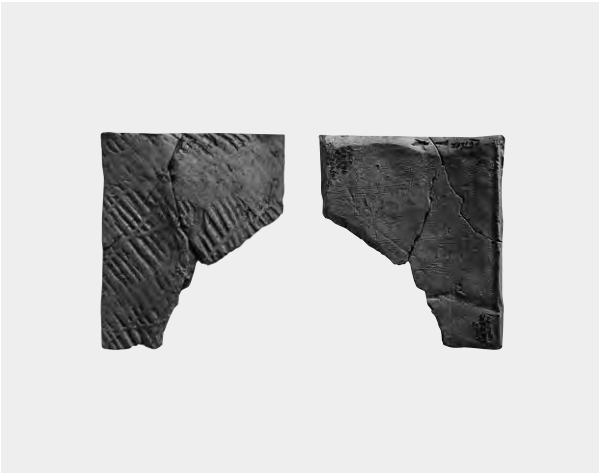
3．3類B1の狭端部。ほぼ横方向の平行叩き痕にみえる。



4．3類B1の広端部。狭端部と叩き痕の方向が同じ。

5．3類B1の矢羽根形叩き痕のわかる資料。

6．3類B2の叩き痕は格子+対角線。飛鳥寺西面大垣出土。



7．3類B4は平行・直交と斜行刻線を組み合わせた叩き痕。

8．3類B3。斜格子風だが、刻線が平行しない。

1．3類C1。平行線にまばらな斜行刻線の叩き痕をカキ目調整。

2．3類C3の狭端部。凹面に布の継ぎ目痕。

3．3類D4。タテナデのちヨコナデ調整で叩き痕は残らない。

4．3類C3の広端部。叩き痕はかすか。凹面に撚り紐の分割界線。

5．3類E3はカキ目調整で叩き痕不明。飛鳥池東方遺跡出土。

6．3類E1の広端部。

7．3類C2。同心円文当て具痕。飛鳥池東方遺跡出土。

8．3類E4の分割界線。

9．3類B1の分割界線。

1：6（1～7・9）

1．円弧を描く縄叩き痕をもつ4類。布筒の綴じ合わせ目痕と継ぎ目痕をもつ。広端に斜格子の補足叩き痕。飛鳥寺北面外濠出土。

2．4類。凸面の広端に縄の補足叩き痕。凹面には撚り紐の分割界線。飛鳥寺北面外濠出土。

3．広端面にヘラ描きで斜格子文を入れた4類。飛鳥寺西面内濠出土。

4．4類。広端部に補足の平行叩き痕。飛鳥寺西門周辺出土。

1：6

PL. 183　平　瓦（13）

1．4類。狭端部の補足叩き痕。

2．4類。凹面の綴じ目痕はPL.182−1と同じ。

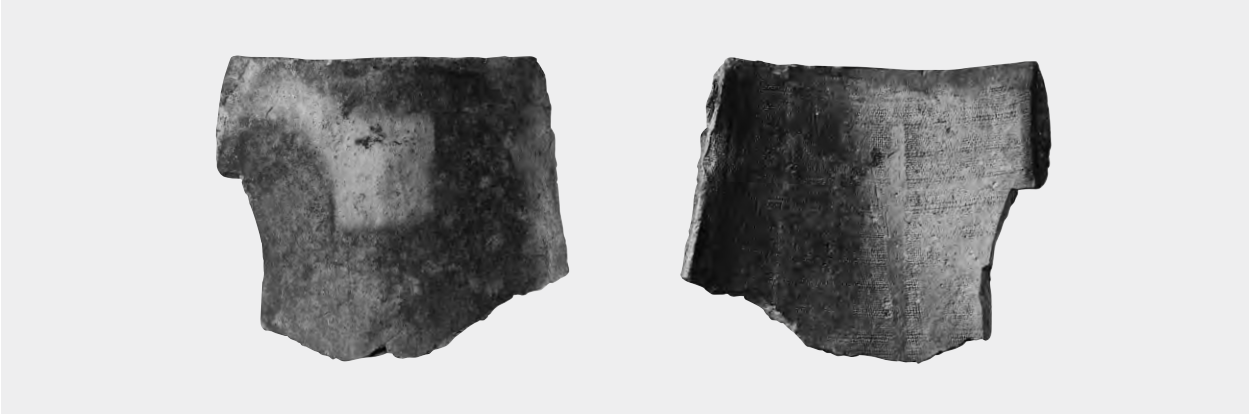
3．4類。広端の広範囲に平行叩き痕が重複。飛鳥寺西門周辺出土。

4．4類。広端部の補足叩き痕はPL.182−1と同じ。

5．PL.182−1の綴じ合わせ目痕。

6．PL.182−1の補足叩き痕。

7．4類凸面のハナレ砂。



8．5類。凸面タテナデ調整。凸面中央に四角く白い部分あり。凹面側辺に分割界点。飛鳥寺西面内濠出土。

9．5類。凹面に桶綴じ紐の圧痕が並ぶ。凹面広端部に風蝕痕。軒先に使用か。

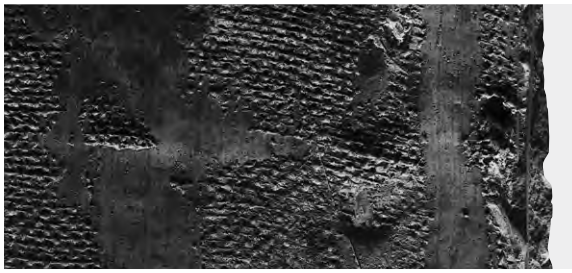
1：6（1〜4・8・9）

1．凸面タテナデ調整の5類。飛鳥寺西面大垣周辺出土。

2．風蝕痕のある5類。凸面はタテナデ調整。飛鳥寺寺域東部出土。

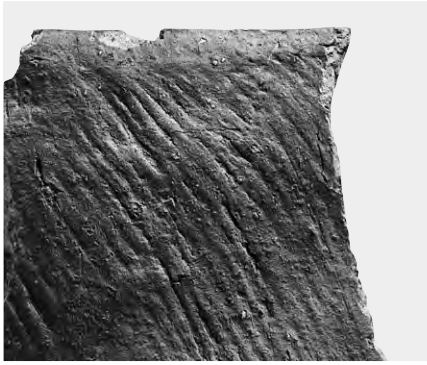
3．叩き痕を明瞭に残す5類は少ない。飛鳥寺南門南方出土。

4．5類広端面のワラ座圧痕。飛鳥寺西門周辺出土。



5．桶側板の綴じ紐圧痕。5類に特徴的。

6．5類の格子叩き痕。きわめて細かい。



7．5類の平行叩き痕。

8．5類に特徴的な分割界点。

9．無文の補足叩き痕。5類。

10．5類の同心円文当て具痕。

11．割縫いの布筒の綴じ合わせ目痕。5類。

1：6（1～3）

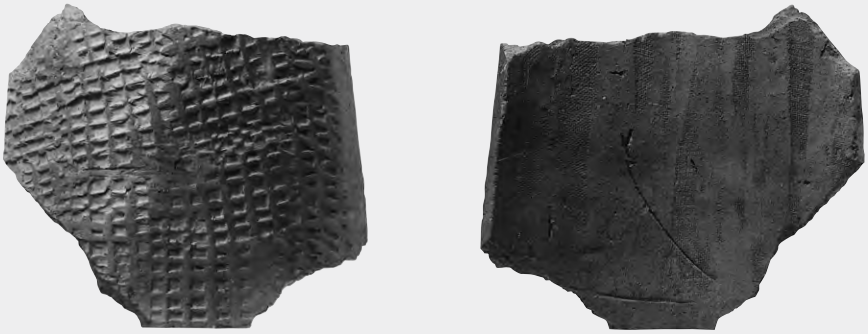
1．6類は平行叩き痕をヨコナデ調整するが、2類Bとは調整や胎土・色調に明確な違いがある。飛鳥寺北面外濠出土。

2．6類の叩き痕は木目直交刻線叩き板による。凹面にヘラケズリ調整。飛鳥寺北面回廊出土。

3．側辺が斜めの6類。粘土板合わせ目S型。飛鳥寺講堂東方出土。

4．6類。凹面未調整。粘土板合わせ目S型。飛鳥寺講堂東方出土。

1：6



1．7類A1。7類は、粗い格子叩き痕と丁寧な側面調整。分厚いことなどを特徴とする。飛鳥寺講堂出土。

2．7類B1。通常の円弧を描く格子叩き痕。凹面はタテヘラケズリ調整。飛鳥寺西門西方出土。

3．7類B1。叩き痕の角度が通常と逆。左手で叩き板を持ったためであろう。

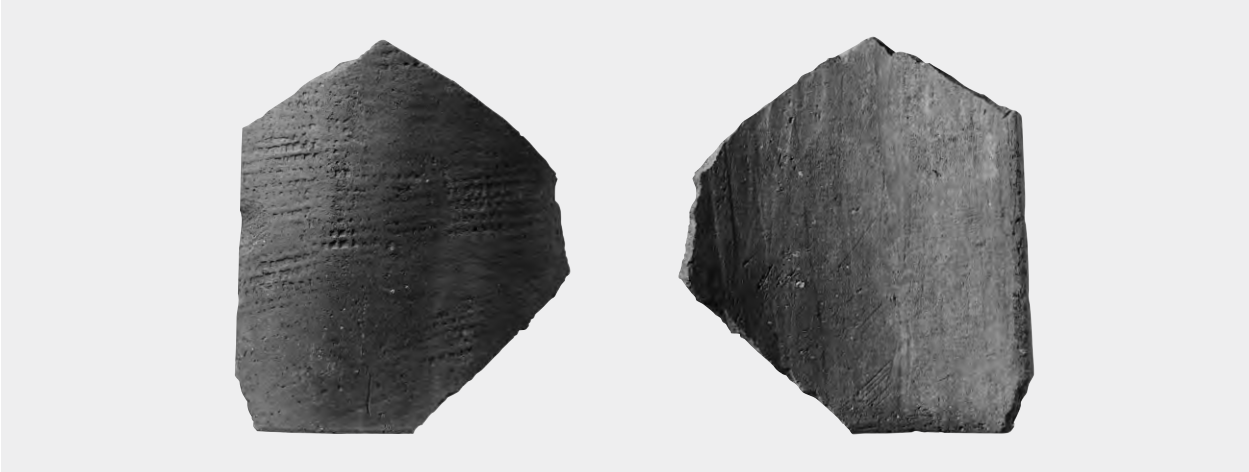
1．7類C1。凸面全体を板ナデ調整。凹面は全面タテナデ調整。飛鳥寺講堂東方出土。

2．7類C2。叩き痕はC1より格子が小さい。凹面はタテナデ調整。粘土板合わせ目S型あり。飛鳥寺講堂北西方出土。

3．7類C3。叩き痕は円弧を描く。凹面のほぼ全面をナデ調整。飛鳥寺北面外濠出土。

1：6

1．7類C9。叩き板の木目に直交する刻線が細いため、一見、平行叩き風。ぐし縫いの布筒の綴じ合わせ目痕あり。飛鳥寺講堂東方出土。



2．7類C7。左手で叩き板を持った場合の叩き痕の円弧を残す。飛鳥寺西門西方出土。

3．7類B2。叩き痕明瞭。

4．7類C5。凹面はヘラケズリ調整。

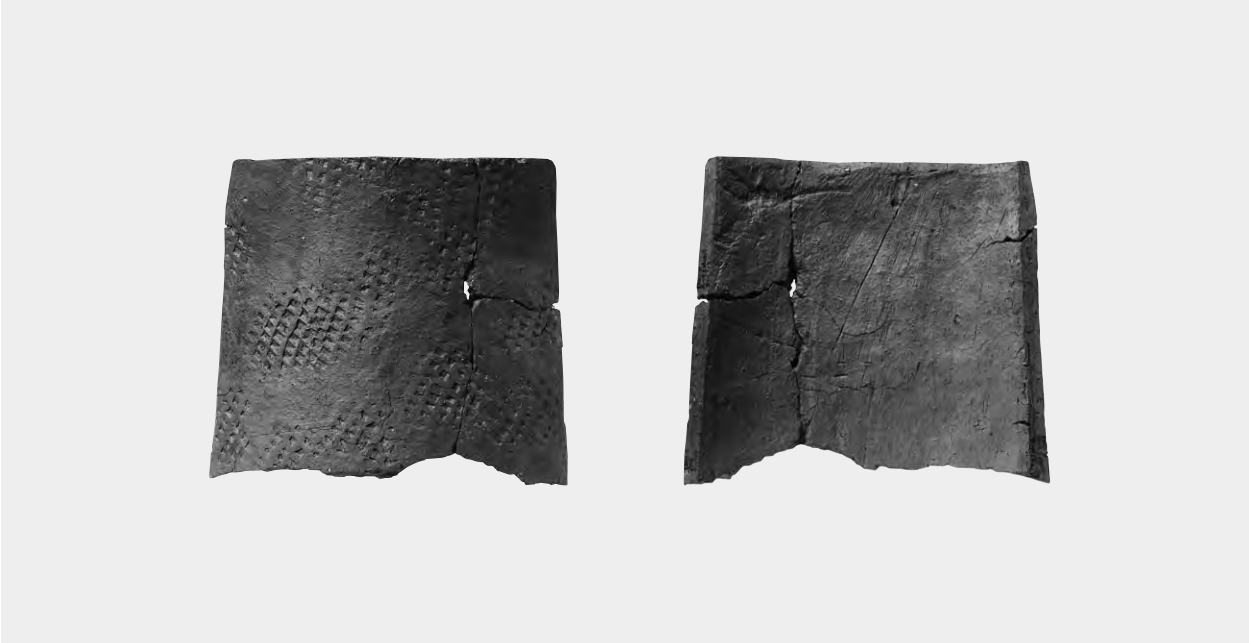
5．7類C4。狭端部。凹面タテナデ調整。

6．7類C6。凹面に調整はない。

1：6

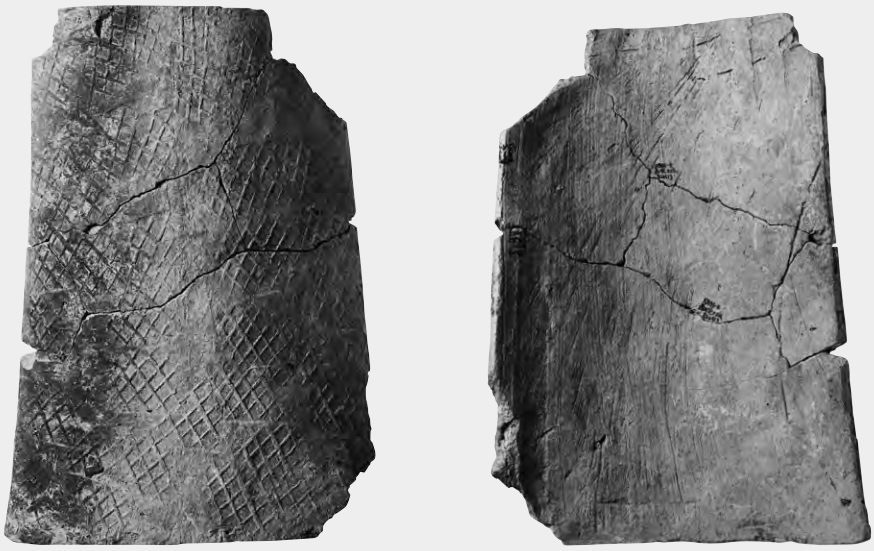
1．8類は斜格子叩き痕の平瓦。8類C1はたいへん粗い斜格子叩き痕。叩き板の幅7.5cm。凹面に布筒の綴じ合わせ目痕。飛鳥寺講堂東方出土。

2．8類C2。雑な斜格子叩き痕。凹面に調整はない。飛鳥寺北面外濠出土。

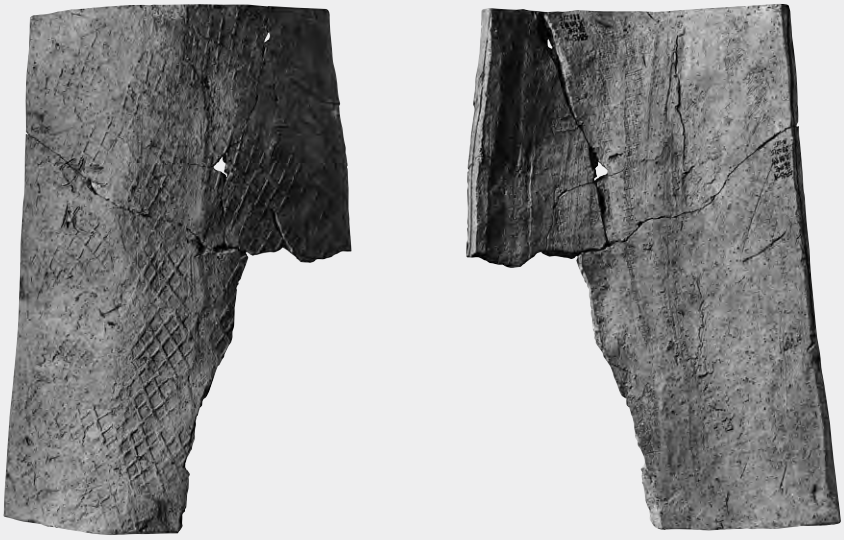


3．8類C3。整った斜格子叩き痕をヨコナデ調整で一部消す。飛鳥寺講堂北方出土。

1：6



1. 8類Dはやや薄手でタテに長く、叩き痕は重複しないことが多い。D1は方形に近い斜格子叩き痕。飛鳥寺講堂北西方出土。



2.「女瓦」のヘラ書きがある8類D1。凹面はタテナデ調整。粘土板合わせ目はS型。飛鳥寺講堂東方出土。

3. 8類D2は扁平な菱形の叩き痕。叩き痕の円弧が普通とは逆なので、左手で叩いたと判断できる例。飛鳥寺北面外濠出土。

1：6

1．ごくまばらに叩いた8類D2。右手で叩いた例。凹面はタテナデ調整。飛鳥寺北面外濠出土。

2．8類D1とD2が共存する。飛鳥寺講堂北西方出土。

3．8類D3はD2十クモの巣状叩き痕。飛鳥寺講堂北西方出土。

4．斜格子叩きの8類A1。凹面は板ナデ調整。

5．8類A4は目の細かい斜格子叩き痕。川原寺所用。

6．8類C4。斜格子叩き痕をヨコナデ調整でほぼ消している。

7．8類B1。変則的な斜格子叩き痕。川原寺所用。

1：6

1．重菱文を中央においた叩き痕を特徴とする９類B1。飛鳥寺講堂出土。

2．放射文叩き痕の9類C。凹面は調整されていない。

3．車輪文叩き痕の９類A1。凹面はタテナデ調整。飛鳥寺西門北方出土。

4．９類A3。小さな車輪文を中心に矢羽根文・格子文を配した叩き痕。

5．９類A1の車輪文にともなう山形文細部。

6．９類A1の叩き痕細部。

7．９類A2の叩き痕。

8．９類A3の叩き痕細部。

9．９類Bの叩き痕細部。

10．９類A1の粘土板合わせ目と糸切り痕。

1：6（1～4）

1．10類。タテ縄叩き痕をヨコナデ調整でほぼ消し去る。

2．10類。叩き痕はほとんどみえない。凹面はタテ方向に板ナデ調整。

3．11類A2。凹面には中央から広端にかけてナデ調整がある。「綴じ合わせ目1」。

4．3の布筒の綴じ合わせ目痕細部。

5．11類A2。凹面に割縫いの布筒の綴じ合わせ目痕。「綴じ合わせ目2」。

6．5の布筒の綴じ合わせ目痕細部。

1：6（1～3・5）

1．11類A3。凹面のナデ調整は桶側板痕の段差部分と分割界線に限られる。凸面の縄叩き痕が潰れる。

2．1の布筒の綴じ合わせ目痕細部。

3．11類C1。凸面のほぼ全体にヘラケズリ調整がある。凹面に「綴じ合わせ目5」。

4．3の布筒の綴じ合わせ目痕細部。

5．11類B3。11類A・Cに比べて大型。胎土が粗い。

6．5の広端面にあるワラ座圧痕。

1：6（1・3・5）

1．凹面を調整しない11類B1。凹面中央の粘土板合わせ目を挟んで糸切り痕がハ字になる。

2．11類B1。凹面の側辺沿いに粘土板合わせ目Z型。

3．11類B1。凹面の糸切り方向に特徴がある。

1：6

1．やや左傾したナワ叩き痕をもつ11類D2。

2．11類D3。凹面に布筒の綴じ合わせ目痕。「綴じ合わせ目6」。

3．「綴じ合わせ目1」。GSg。（11類A3）

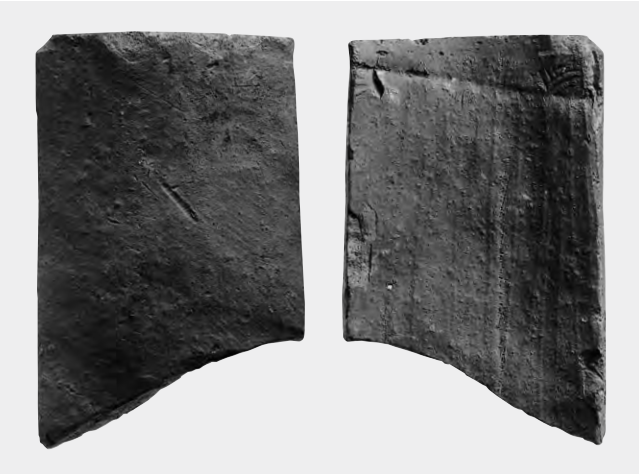
4．「綴じ合わせ目4」。XSg。（11類B3）

5．「綴じ合わせ目9」。GZg。（11類A2）

6．「綴じ合わせ目10」。GZm(r)+g。（11類B1）

7．「綴じ合わせ目11」。MZlg。（11類B1）

8．「綴じ合わせ目12」。GSm(r)。（11類B2）



9．奥山廃寺熨斗瓦に残る同心円文当て具痕。

10．奥山廃寺丸瓦広端部の同心円文当て具痕。

11．広端と側辺で切れた同心円文当て具痕。

12．軽寺跡出土重弧文軒平瓦の同心円文当て具痕。

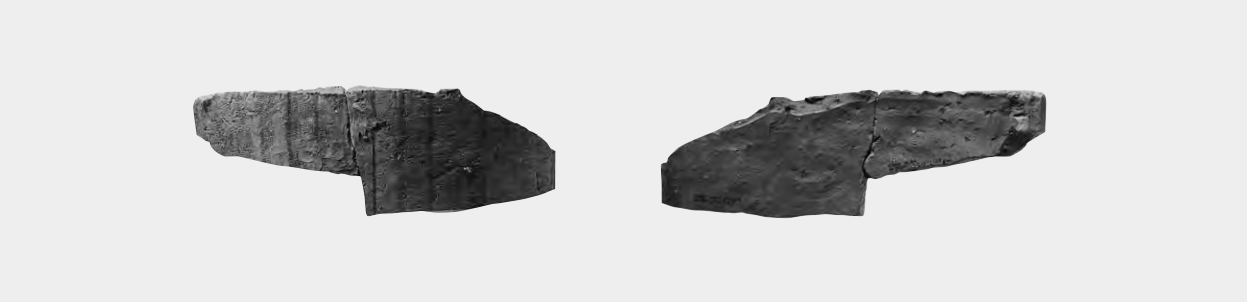
1：6（1・2・9）

1．凹面調整された12類B1。凸面ヨコ縄叩き痕。

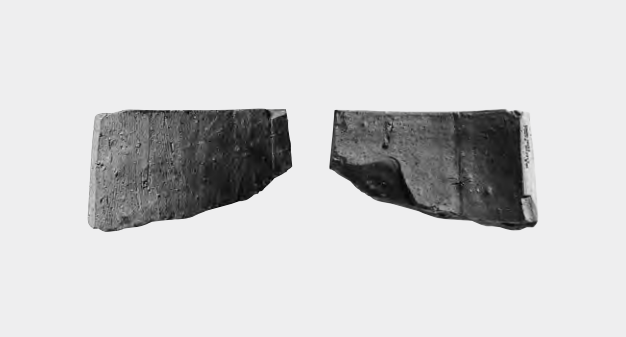
2．12類B1の広端部。

3．縄の条が太い12類A。凹面に布筒の綴じ合わせ目痕。

4．12類B2の広端部。凹面に調整はない。



5．14類は「凸面布目平瓦」。凸面を調整しない狭端部の資料。



6．凸面ナデ調整された14類の狭端部。

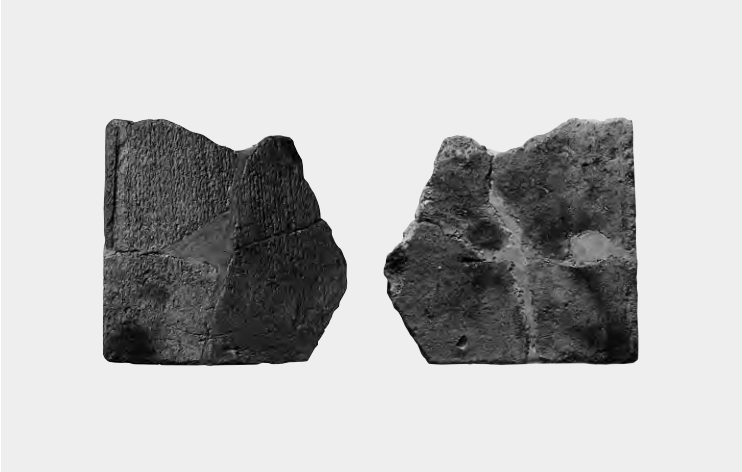
7．部分的に凸面ヘラケズリ調整がある14類。

8．14類。凹面は丁寧なナデ調整。

9．13類。粘土紐桶巻き作り、凸面は縄叩き痕。

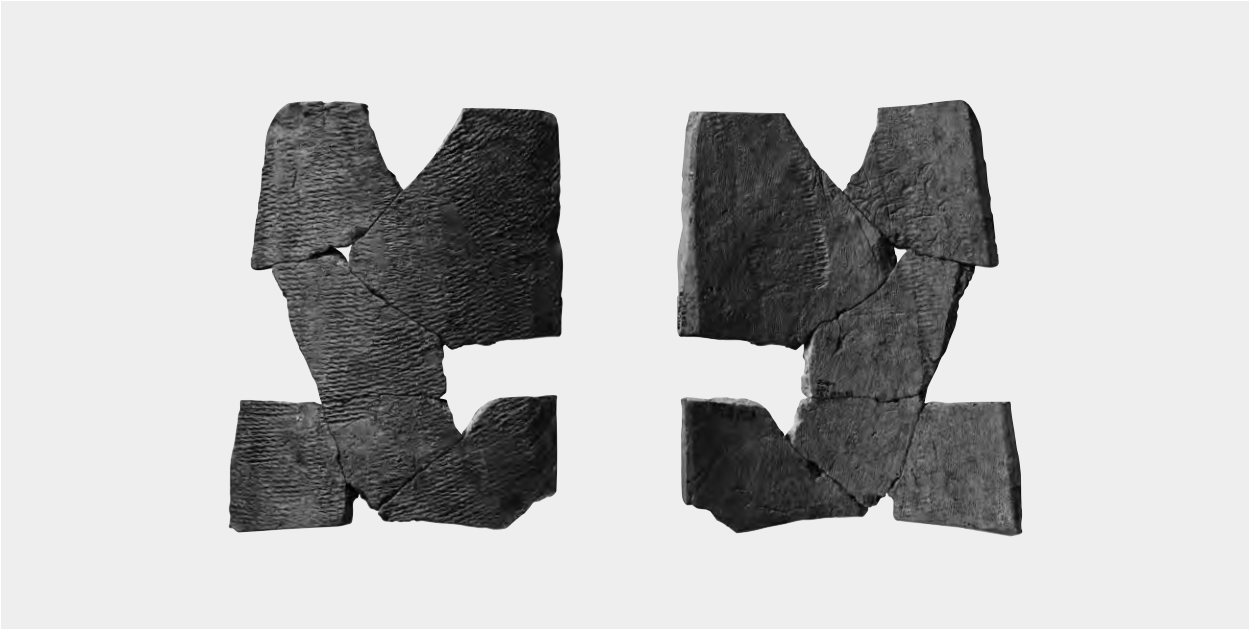
1：6

1．15類B1。タテ縄叩き痕はやや細い。凹面の布圧痕が明瞭。一枚作り平瓦。

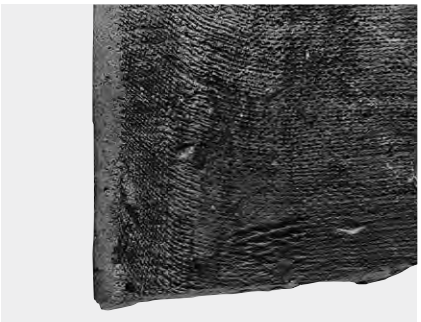


2．15類A1。凹面には丁寧なナデ調整があり、布圧痕はみえない。

3．15類B2。凹面に粗い布圧痕。ハナレ砂付着。

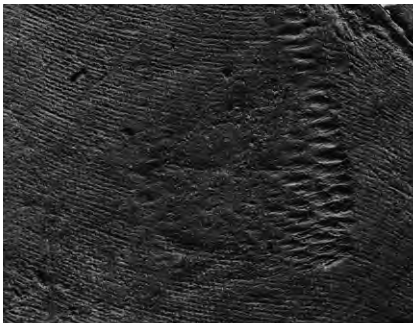


4．16類。凸面はヨコあるいはナナメ縄叩き痕。凹面には布圧痕の上にヨコ縄叩き痕が重複する。一枚作り平瓦。飛鳥寺寺域東北隅出土。



5．15類B3。凹面の縄叩き痕。

6．15類B4。凹面の内叩き痕。



7．16類。凹面の縄叩き痕。

1：6（1～4）

PL. 199　垂木先瓦・鬼瓦・鴟尾

1．垂木先瓦Ⅴ型式。末ノ奥窯（岡山県）の製品。

2．垂木先瓦Ⅵ型式。山田寺A種と同笵。

3．垂木先瓦Ⅶ型式。

4．蓮華文鬼瓦。蓮弁は稜をもつが平板。裏面縄叩き痕。

7．鴟尾（飛鳥寺B）。鰭部の正段。

5．鴟尾（飛鳥寺A）。脊梁部と胴部の正段の一部。

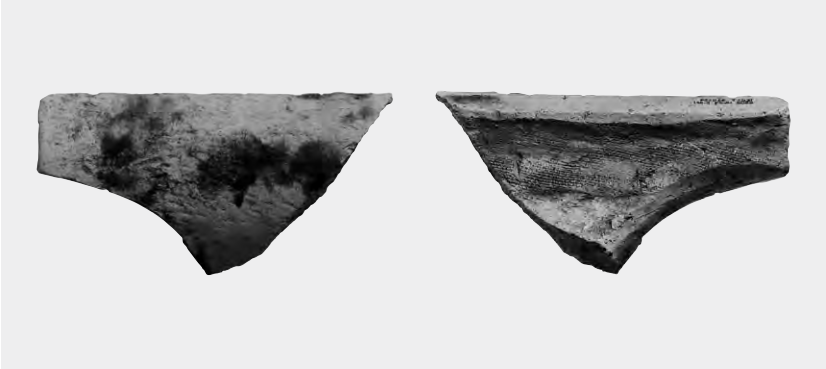
8．鴟尾。2条の縦帯と鰭部の正段。

6．鴟尾（飛鳥寺A）。鰭部の立ち上がりに近い腹部片。内面には粘土紐の継ぎ目が残る。

1：3

1．切面戸瓦1類。袖部は短い。舌部凹面にヘラケズリの面取り。凹面はナデ調整。舌部凸面のケガキ線はPL.202-9参照。

2．切面戸瓦1類。袖部は短い。凸面に縄叩き痕がのこる。凹面はナデ調整。

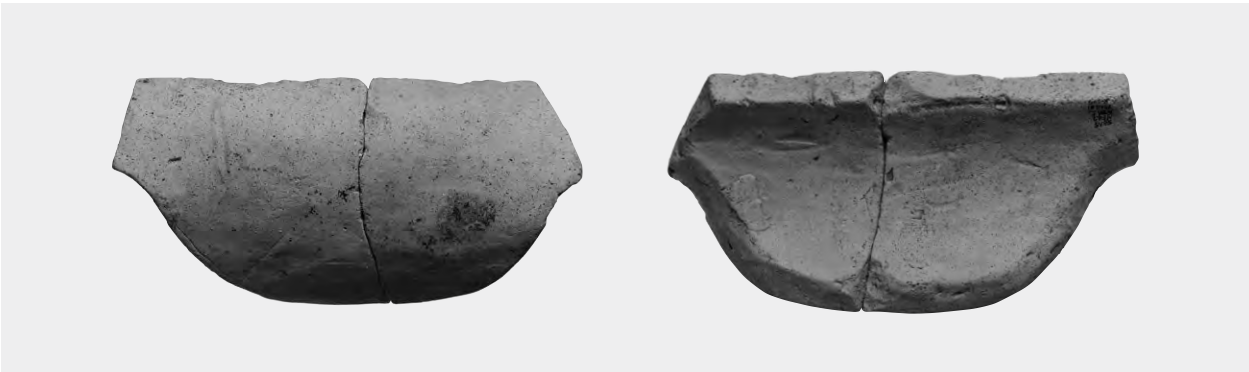


3．切面戸瓦2類。袖部凹面にヘラケズリの面取り。凹面に竹状模骨痕明瞭。

5．切面戸瓦2類。右袖部の破片。

4．切面戸瓦2類。左半分の資料。凸面の縄叩き痕顕著。凹面は袖部のみナデ調整。

6．舌部と袖部に打ち欠きのある切面戸瓦。



7．袖部を欠損する切面戸瓦。凹凸面ともナデ調整で成形痕を残さない。

1：4

PL. 201　面戸瓦（2）・熨斗瓦（1）

1．割面戸瓦。上辺に丸瓦側面を残している。凹面未調整で綴じ紐痕跡がある。

2．舌部だけの割面戸瓦。

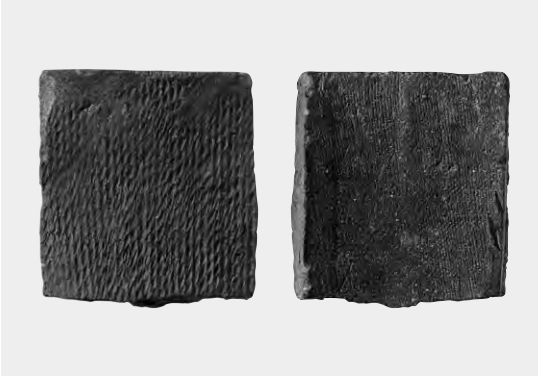
3．舌部だけの割面戸瓦。上辺は一部欠損。

6．切熨斗瓦A類1。

4．舌部に敲打痕を残す割面戸瓦。

7．切熨斗瓦A類2。

5．袖部をもたない割面戸瓦。

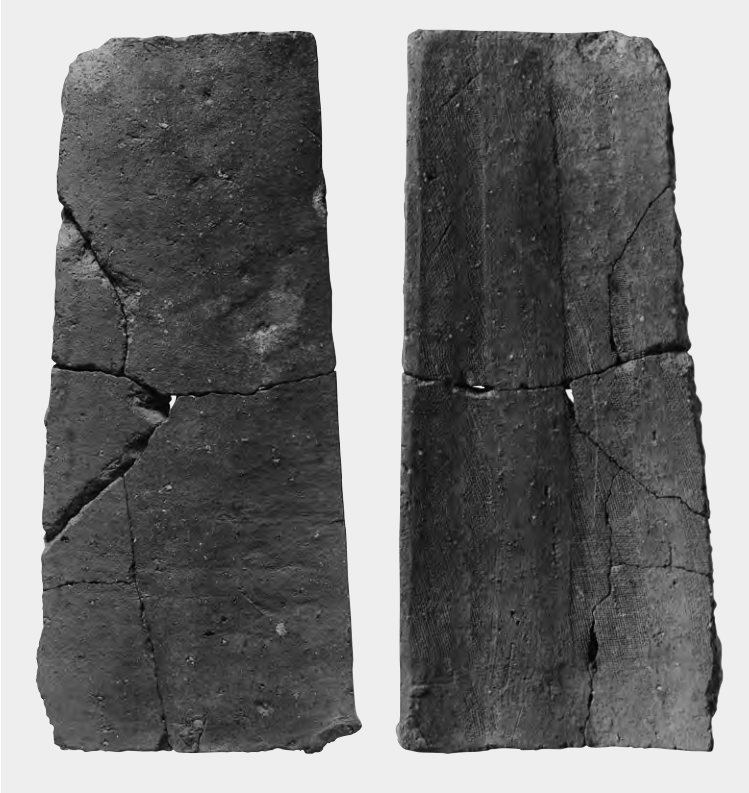


8．切熨斗瓦A類3。

1：4

1．切熨斗瓦B類1。格子叩き痕明瞭。

2．切熨斗瓦B類2。ハ字形の縄叩き痕。

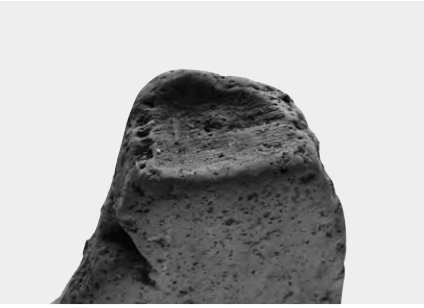


3．飛鳥寺創建期の平瓦3類Dを加工した割熨斗瓦。

4．切熨斗瓦C類。凸面に叩き痕はない。

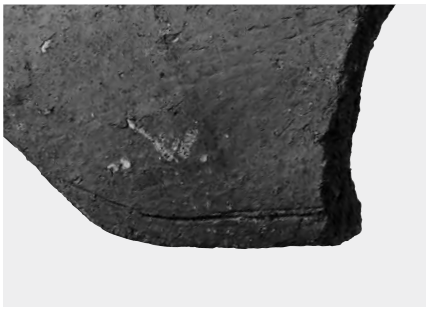
5．切熨斗瓦A類3の未分割資料。

6．平瓦11類を加工した割熨斗瓦。凸面には縄叩き痕がある。



7．切面戸瓦2類の左袖部端面。

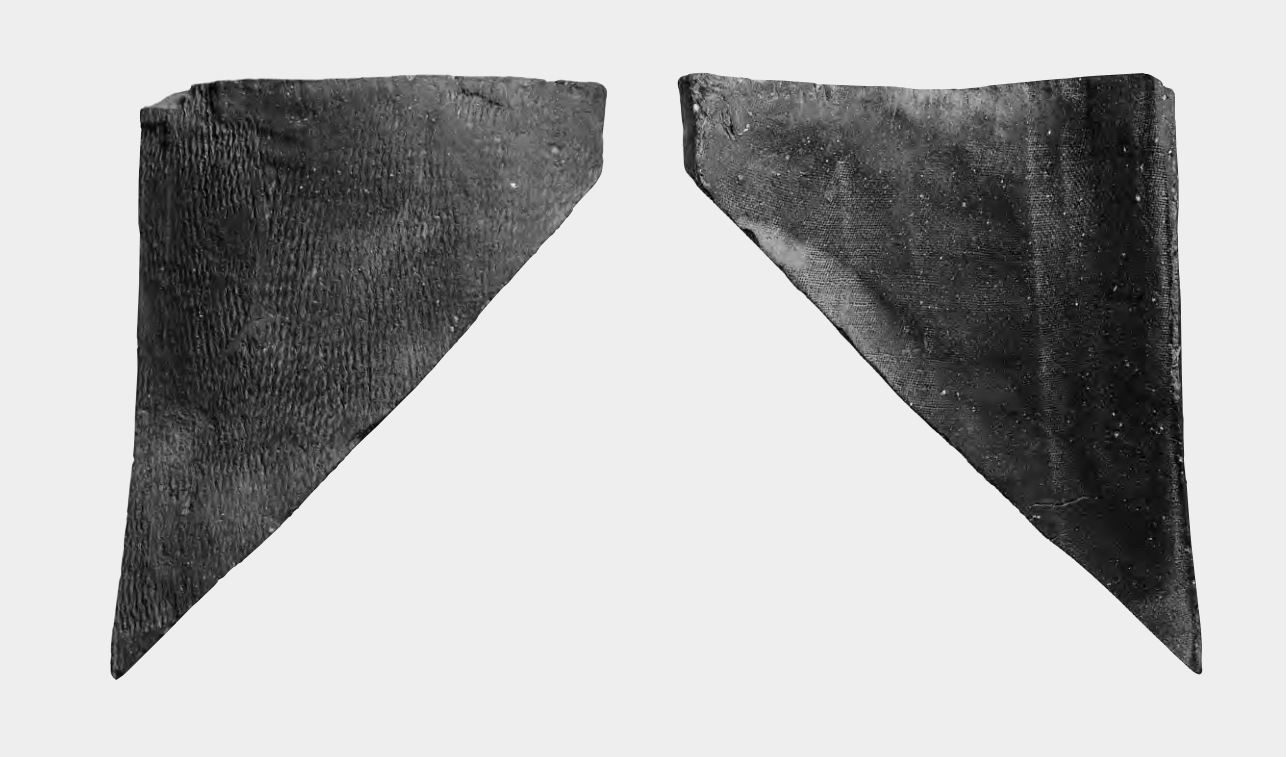
8．切面戸瓦1類の右袖部端面。



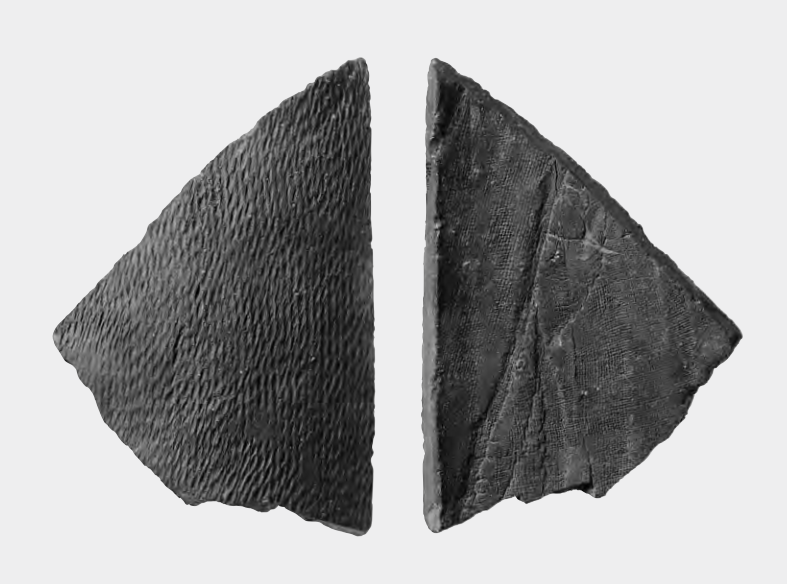
9．切面戸瓦1類舌部のケガキ線。

1：4（1～4・6）

PL. 203　隅切平瓦



1．隅切平瓦A類1。広端右隅を大きく切り落とす。出隅用。



2．隅切平瓦A類4。狭端左隅を大きく切り落とす。入隅用。

4．隅切平瓦C類2。凸面に叩き痕がない。

3．隅切平瓦B類。瓦は重厚で曲率が大きい。

5．隅切平瓦C類1。格子叩き痕が明瞭。

1：4（1・2・4・5）

1. 平瓦凸面の狭端側に段差をもうけて薄く削り込んだ瓦。

3. 広端を浅く円弧状に抉り込んだ平瓦。

4. 挟端部を円弧状に切り欠いた平瓦。

2. 広端左隅を焼成前に切り欠いた平瓦。

5. 広端を小さく台形状に切り欠いた平瓦。

6. 横断面が鉤形をした瓦。

7. 8の端面。木目圧痕が残る。

8. 端面・横断面形が山形をした小型の瓦製品。

1：4（1・2）

1．川原寺出土切熨斗瓦1。凹面向かって右側面に分割破面。

2．川原寺出土切熨斗瓦2。

3．川原寺出土切熨斗瓦3。凹面に布筒の綴じ合わせ目痕。

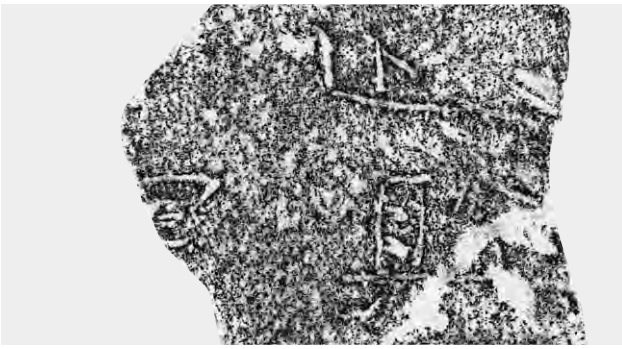
4．川原寺出土切熨斗瓦4。両側辺に打ち欠きあり。

5．方形三尊塼仏A右上隅の破片。飛鳥池遺跡出土。

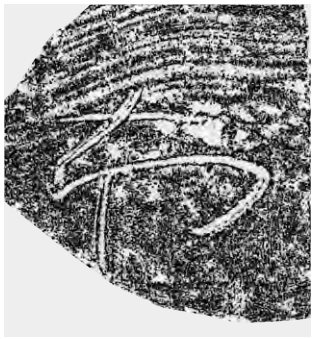
6．方形三尊塼仏A。川原寺裏山遺跡出土。（明日香村教育委員会所蔵）。

1：4（1～4）

1.「丁未年」ヘラ書き文字瓦。および、その細部。



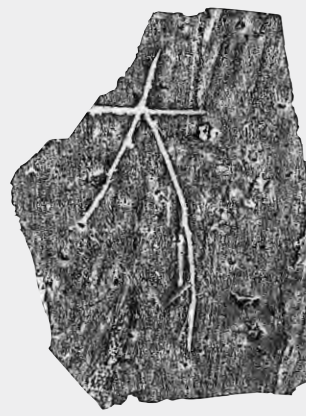
2.「止」ほかの文字が刻まれた文字瓦。万葉仮名か。



3.「布」ヘラ書き平瓦。

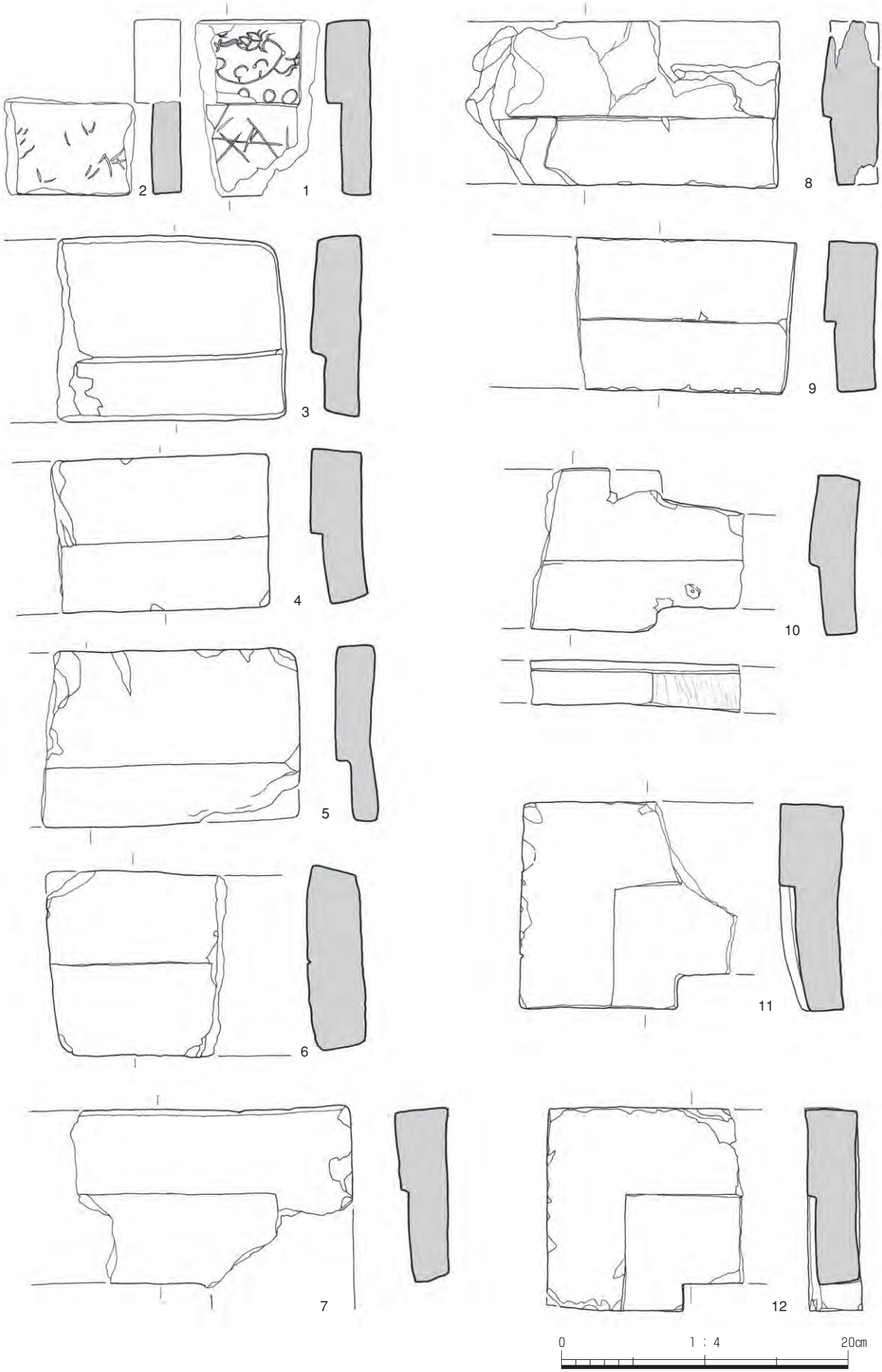
4.「五十」ほかの文字が書かれた平瓦。

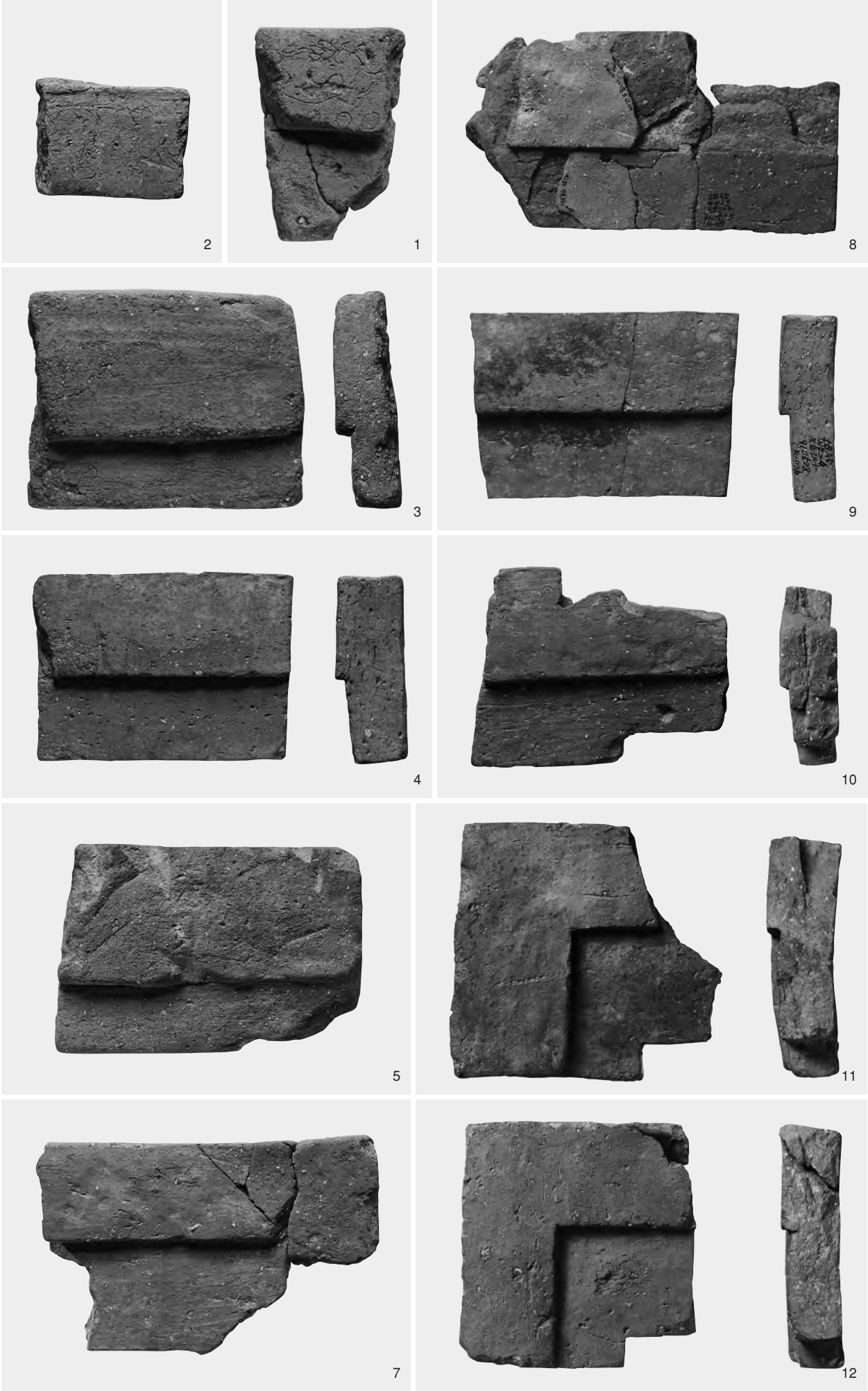
5. 凹面に「九」を書いた平瓦。



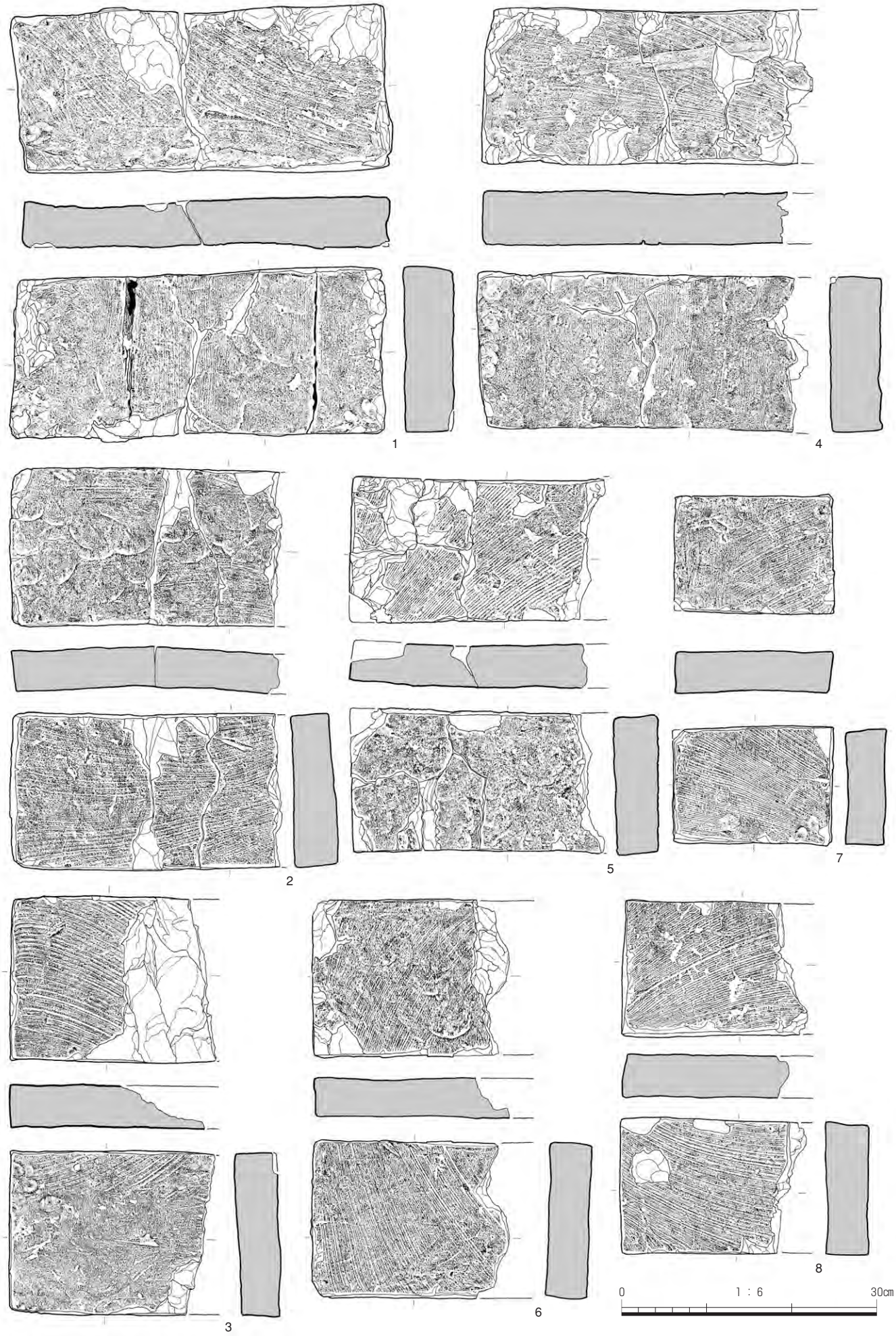
6. 凸面布目平瓦の凸面に記された「大」。

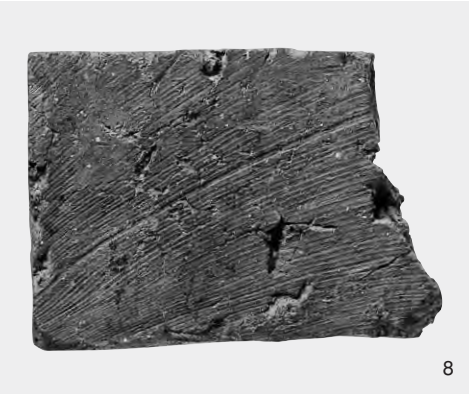
1：2（1右のみ1：1）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
0
1 : 4
20cm

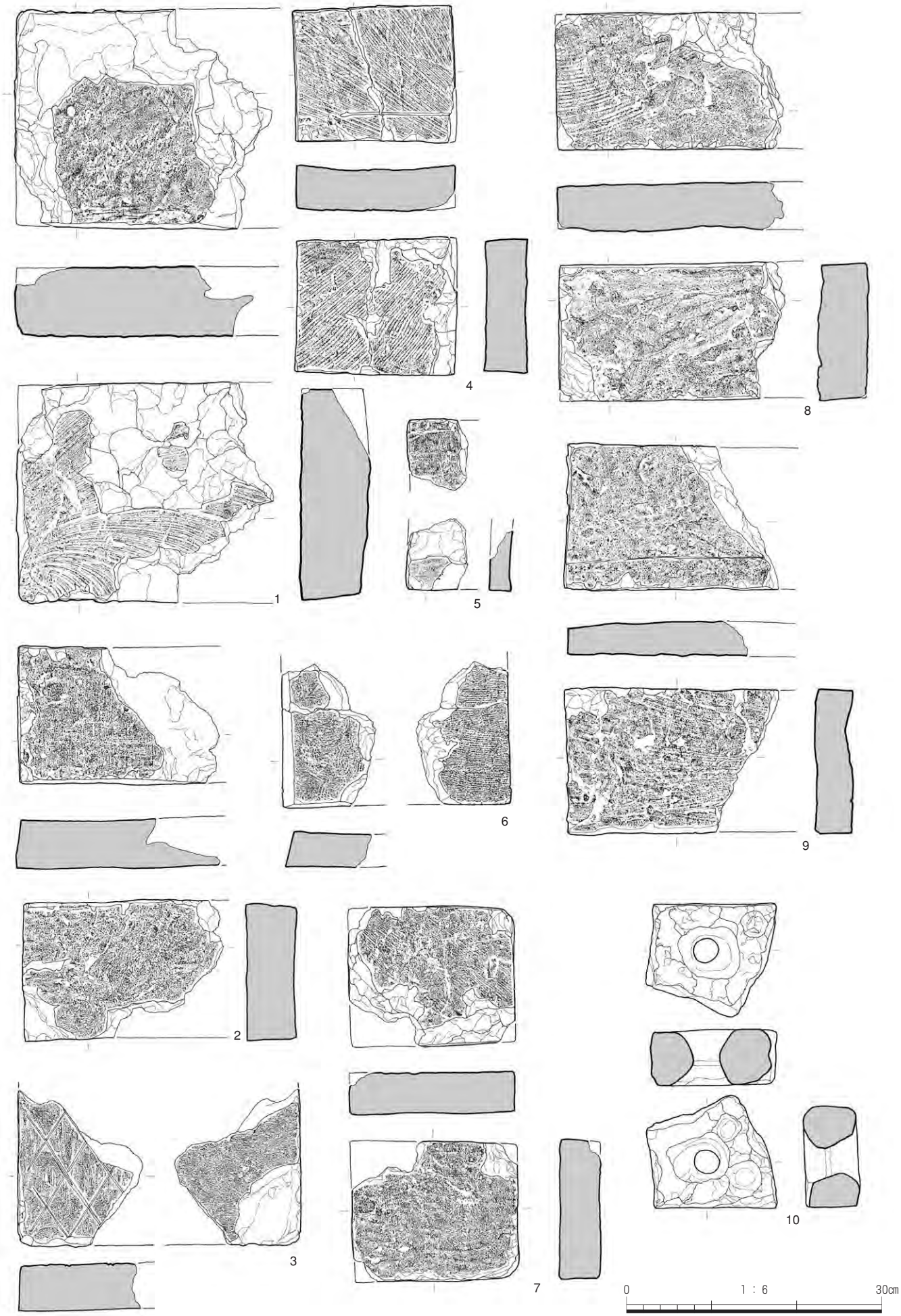


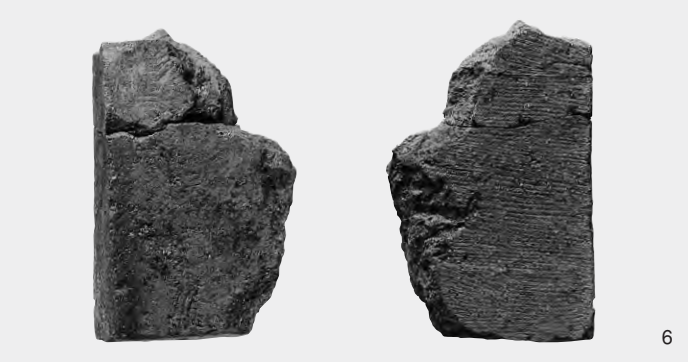
1：3

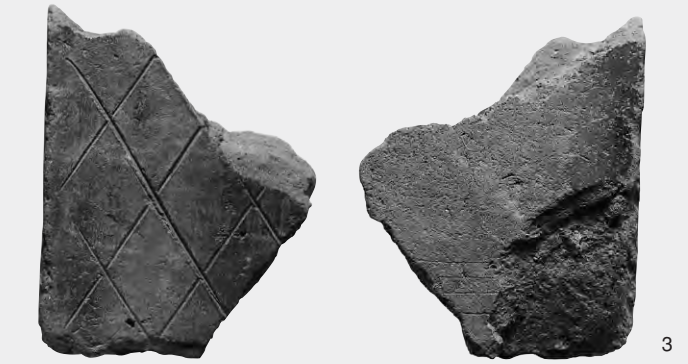

1
4
2
5
7
3
6
8
0
1 : 6
30cm



1：4


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
0
1：6
30cm





1：4

PL. 210　土　管

1．土管1類A。

2．土管1類B。

3．土管1類A。飛鳥寺西門出土。

4．土管2類B。和田廃寺出土。

5．土管2類A。

6．土管1類C。

7．土管3類A。

8．土管3類B。

9．土管1類内面。粘土紐つぎ目が明瞭に残る。

10．土管1類受け部。粘土円筒作成後に削り取って形成。

1：4（8）

71

45

43

74

13

50

37

1

27

26

29

46

47

49

約 2：5

PL. 212　水溜遺構出土土師器（2）

66

57

64

78

80

65

79

56

81

67

42

69

83

約 2：5

91

106

約 2：5

PL. 214　水溜遺構出土土器

84

103

188

98

100

185

89

約 2：5

156

121

157

115

116

112

129

122

125

123

126

124

117

141

113

約 2：5

PL. 216　水溜遺構出土須恵器（2）

142

146

150

136

151

155

166

173

172

約 2：5

483

502

480

426

424

503

423

403

330

354

約 2：5

PL. 218　炭層出土須恵器（1）

458

452

460

380

391

304

378

308

477

400

約 2：5

約２：５（398は約１：３）

PL. 220　炭層出土須恵器（3）

538

539

397

303

約 2：5

547

556

558

549

559

544

555

553

540

552

578

567

568

577

569

約 2：5

PL. 222　SD1130出土土師器（2）

562

582

563

584

579

592

593

約2：5

589

601

595

596

635

約２：５（601は約１：３）

PL. 224　SD1130出土須恵器

611

610

612

608

609

614

606

602

621

613

619

626

618

617

627

616

約2：5

652

651

665

675

664

662

660

668

656

666

657

677

655

約 2：5

PL. 226　SD1110出土須恵器（1）

699

700

698

703

697

702

696

701

714

721

729

約２：５（729は約１：３）

712 A

712 B

707

約 2：5

SD1110・SD1130・包含層出土須恵器

685

686

620

690

687

725

745

751

634

767

768

764

約 2：5

736

852

737

847

738

848

850

801

869

803

829

868

800

約 2：5

SK1128・SK1170出土土器

872

874

881

900

886

883

888

893

898

約2：5（874は約1：4）

908

936

915

937

907

909

926

925A

925B

929

約 2：5

SK1153出土土師器

928

933

934

約1：3

986

994

987

993

992

1007

996

1010

1009

約２：５（992は約１：３）

PL. 234　SD1093・SX1094・SE1160・SD1103出土土器

1011

1107

1021

1105

1012

1106

1016

1111

1013

1029

1027

1028

1030

1033

約2：5

1066

1055

1061

1056

1059

1058

1070

1053

1050

1048

1052

1047

1044

1046

1051

1049

約2：5

PL. 236　SD1103出土土師器（2）

1064

1072

1063

1078

1062

1077

1068

1083

1075

1082

1084

約２：５

1151

1150

1152

1139

1153

1095

1140

1102

約2：5

PL. 238　SG1100出土土器

1147

1145

1128

1146

1115

1117

1114

1118

1112

1119

1132

1122

1121

1148

約2：5

1161

1193

1192

1162

1195

739

1228

1223

1233

約２：５（1233は約１：３）

PL. 240　灰緑色粘砂層出土土師器（1）

1251

1260

1269

1253

1255

1268

1254

1257

1306

1294

1298

1305

1295

1297

1290

1299

1287

1291

1276

1271

1279

1282

約 2：5

1327

1334

1280

1331

1309

1325

1311

1324

1308

1320

約 2：5

PL. 242　灰緑色粘砂層出土土器

1343

1341

1340

1349

1414

1398

1406

1397

1399

1402

1401

約 2：5

1350

1351

1352

1360

1361

1362

1353

1354

1355

1363

1364

1365

1374

1380

1376

1384

1385

1386

1377

1378

1379

1387

1388

1389

1381

1391

1395

約 2：5

1409

1415

1412

1416

1413

1417

約 2：5

1439

1442

1455

1440

1443

1457

1446

1451

1452

1453

1447

1448

1458

約 2：5

PL. 246　自然流路SD1700出土土器

1558

1501

1489

1529

1537

1530

1486

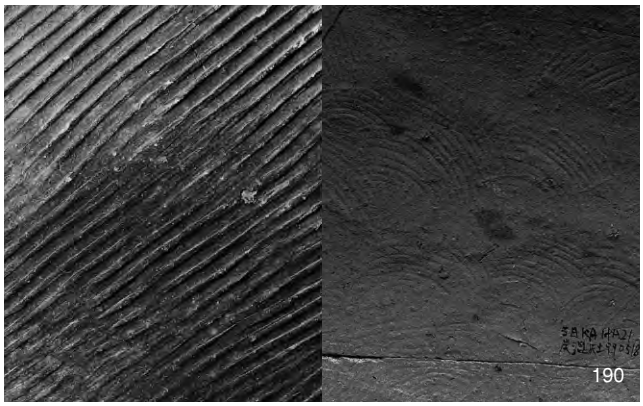
1550

1498

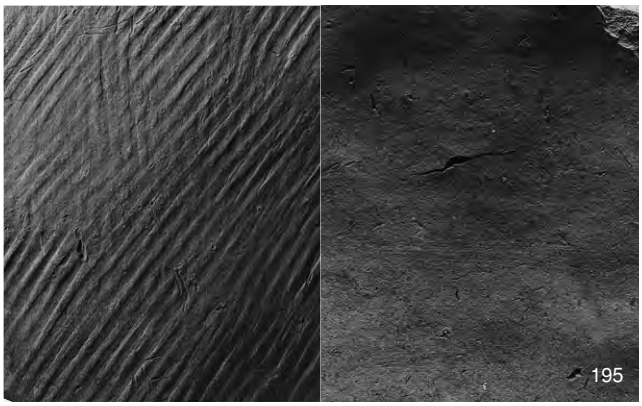
1533

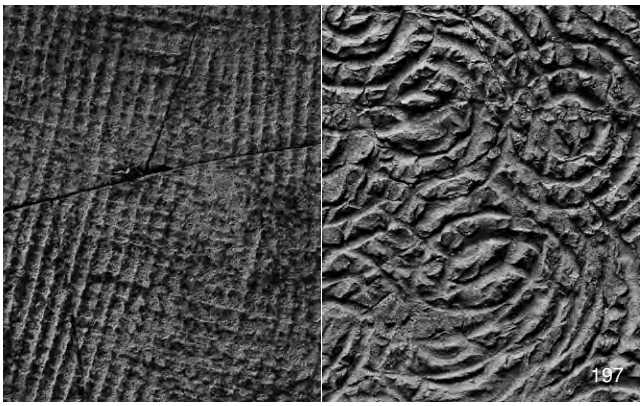
1561

約 2：5

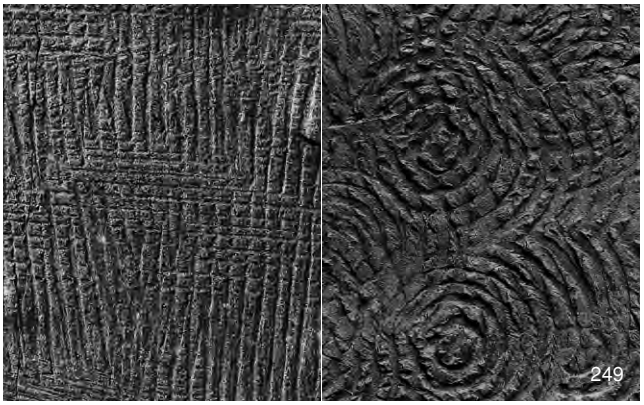

190

248

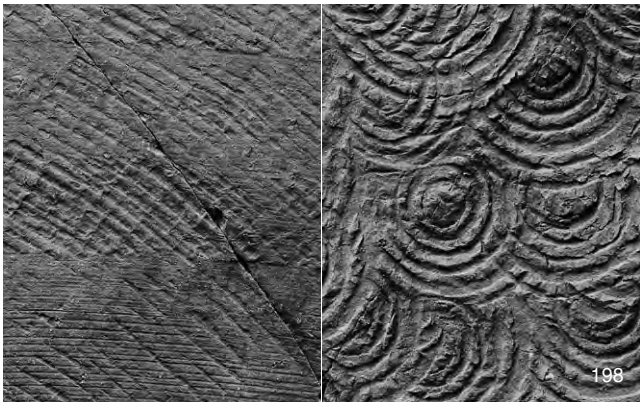

195

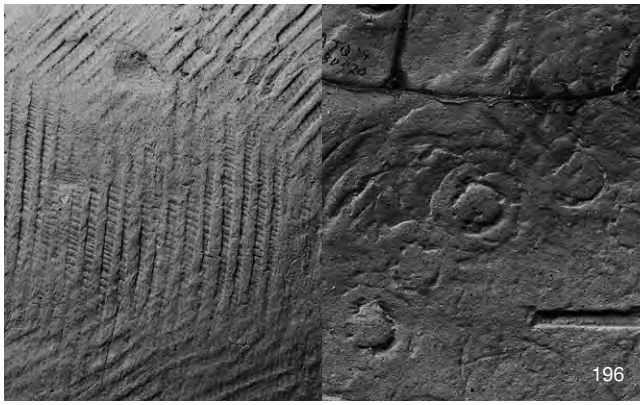

197

192


249

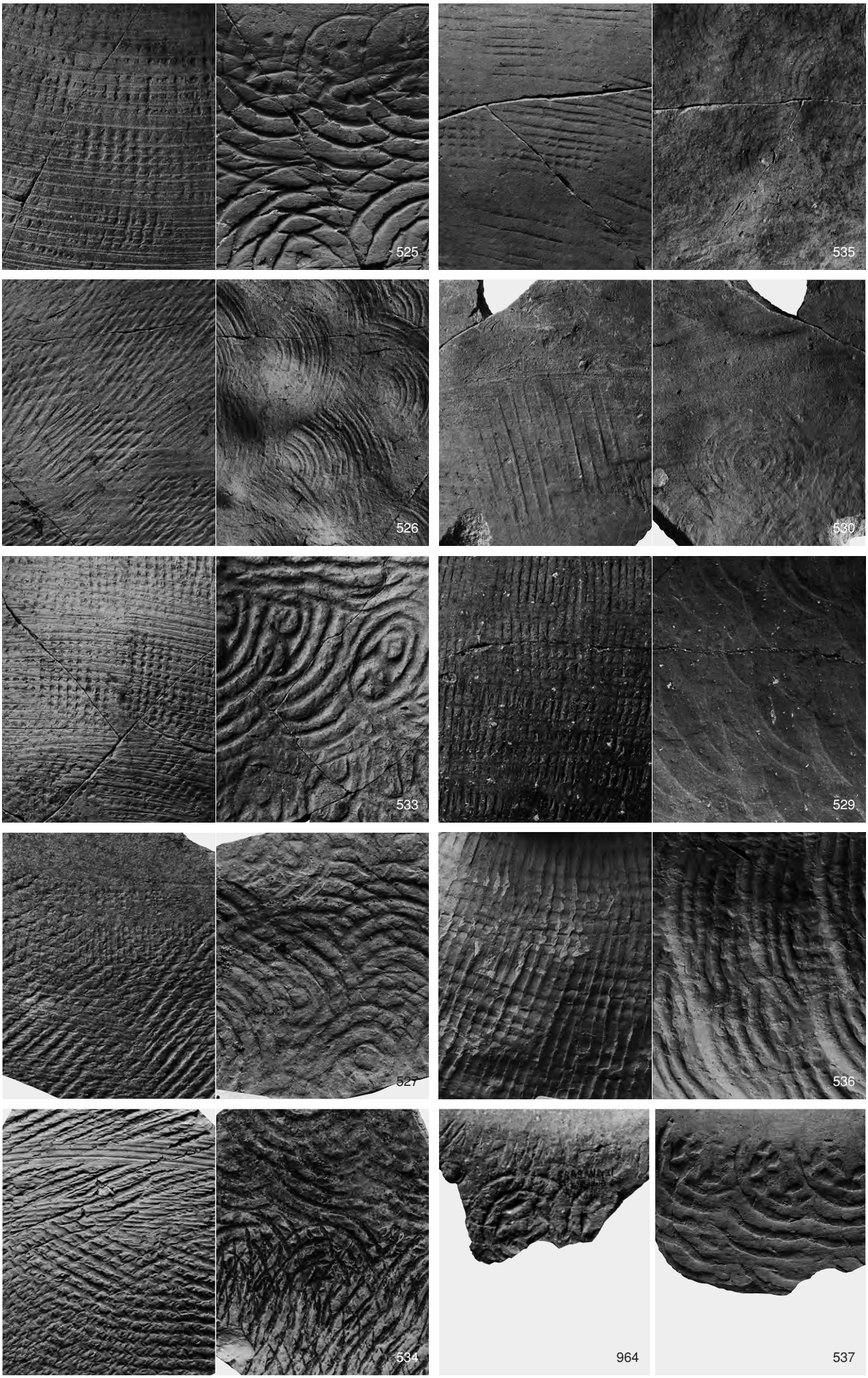
193


198

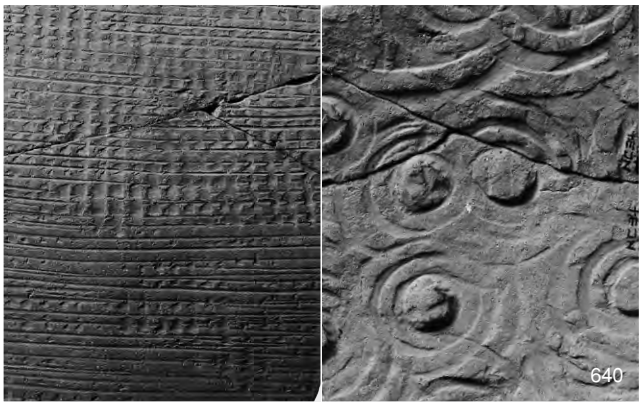

196

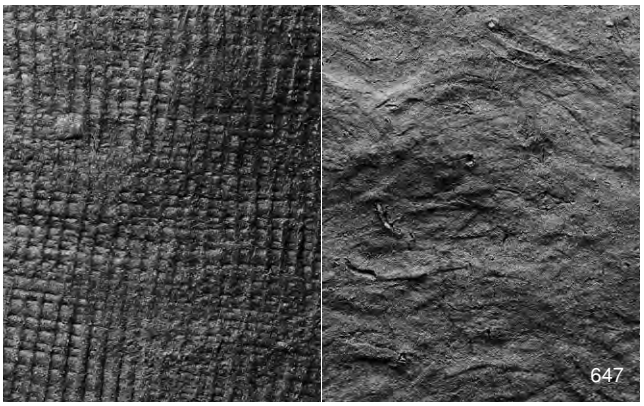
199

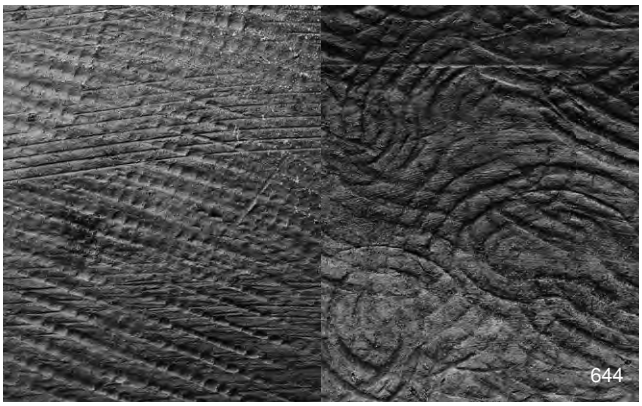
PL. 248　須恵器甕の調整技法 (2) 炭層

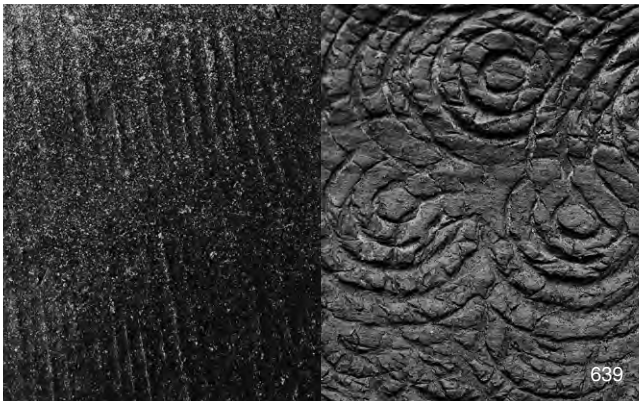


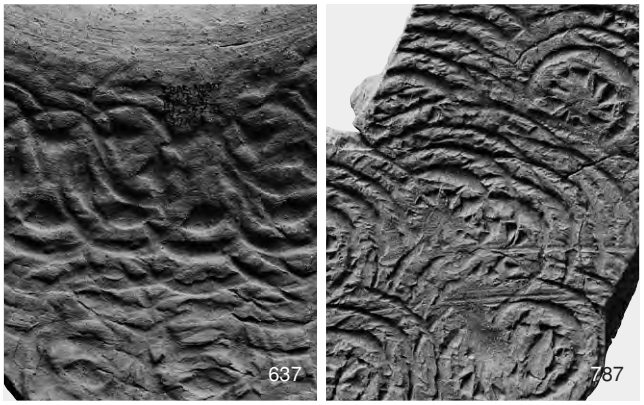
2：3

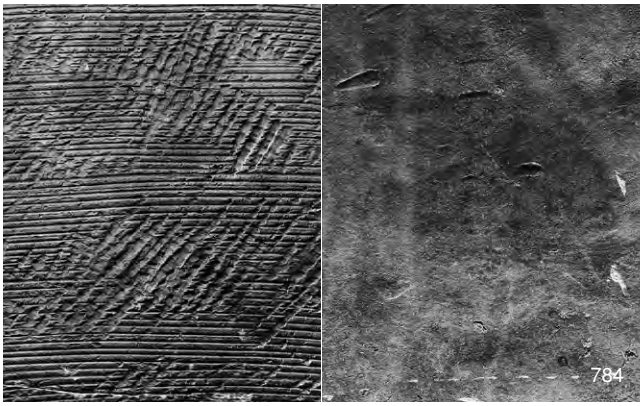


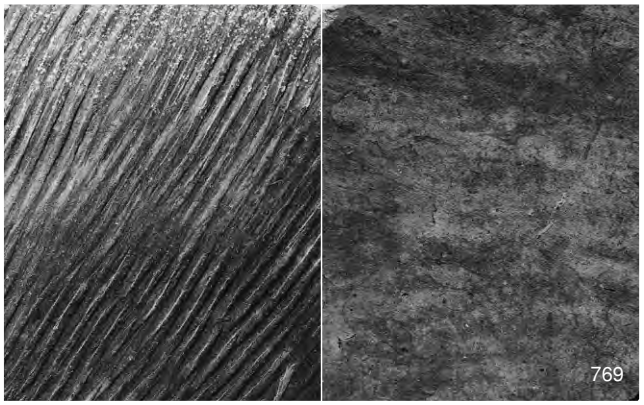






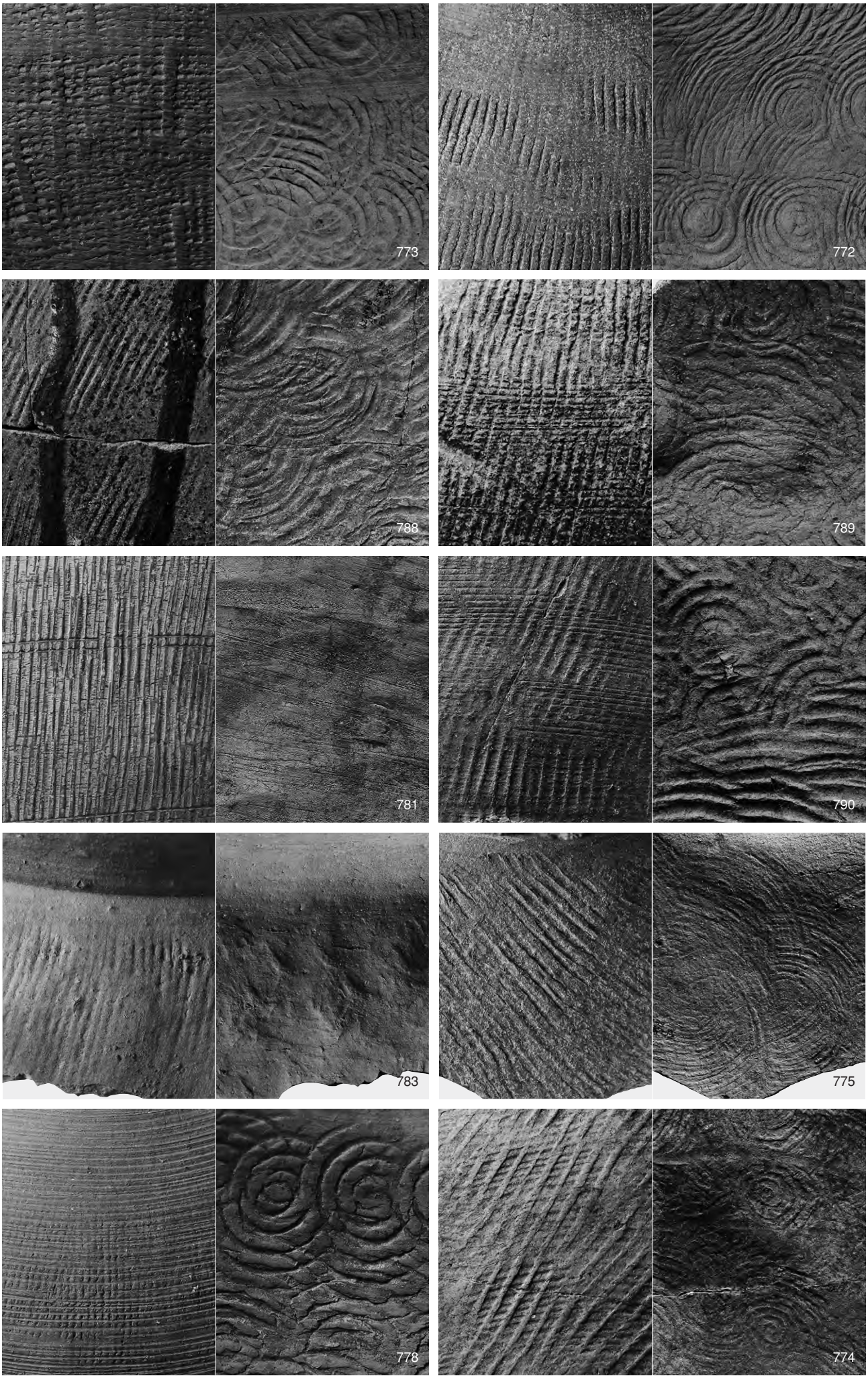




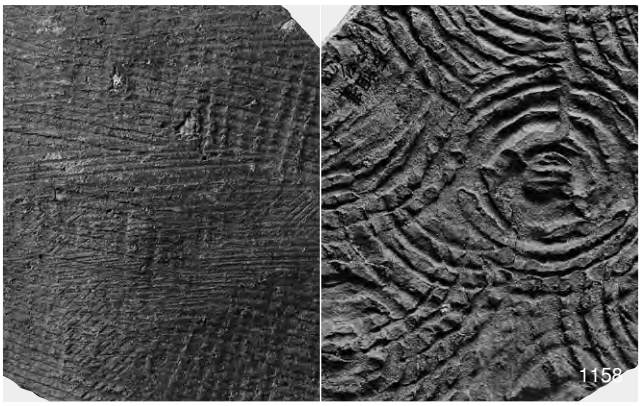


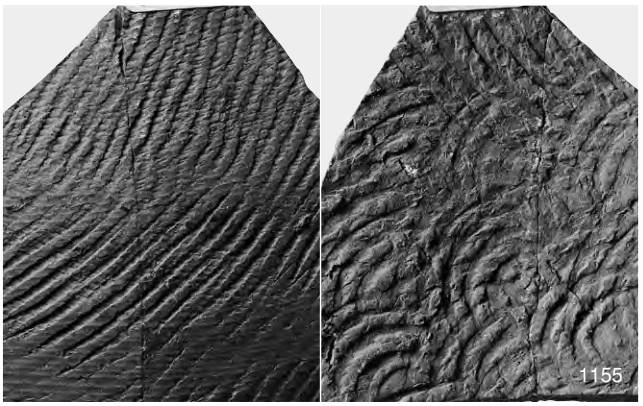
2：3

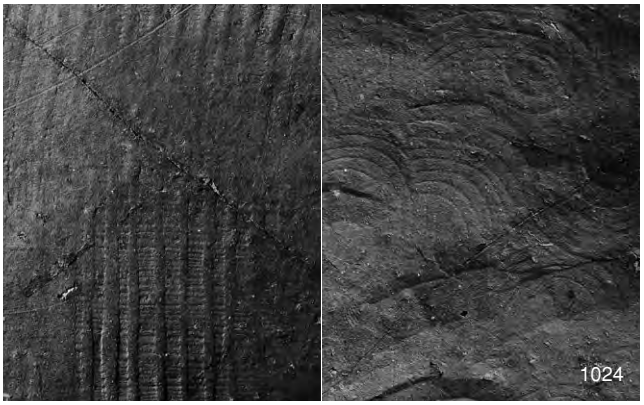
PL. 250　須恵器甕の調整技法（4）SD1110ほか

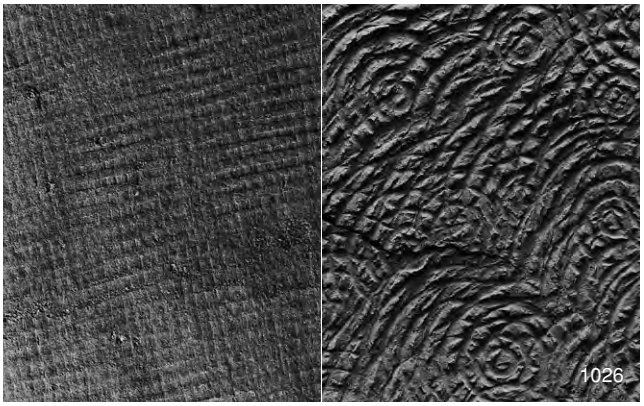


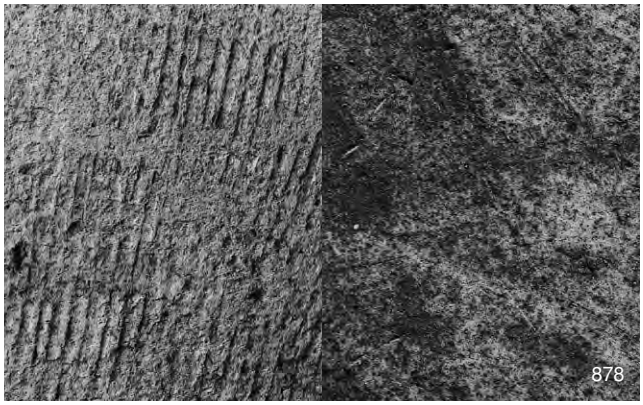
2：3





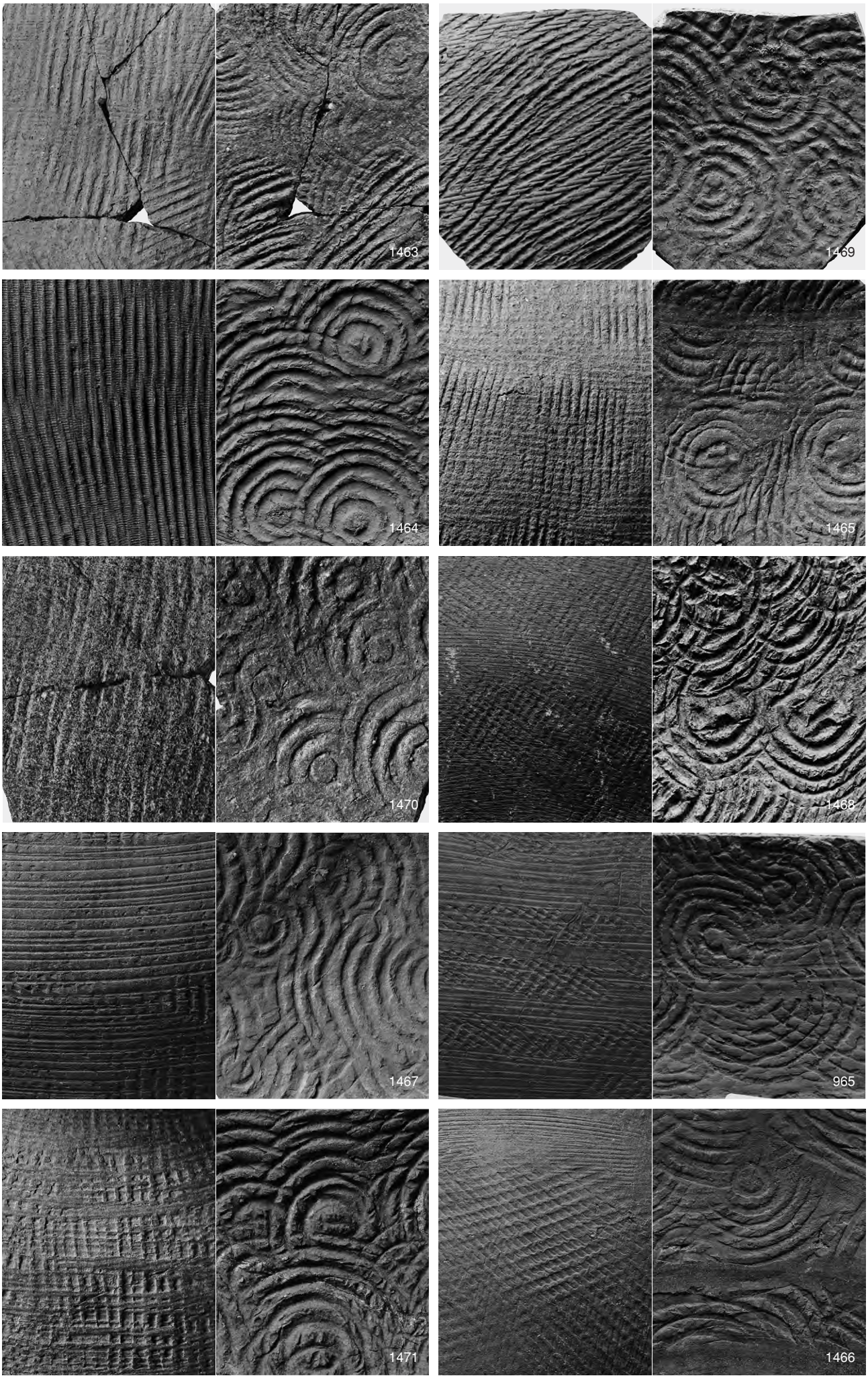






2：3

PL. 252　須恵器甕の調整技法 (6) 灰緑色粘砂層ほか



2：3

1583

1586

1585

1587

1589

1584

1591

1592

1575

1574

約 2：5

1580A

1580B

1581

1582

約２：９（1582は約１：５）

1578

1579

1595

約１：３（1579は約２：９）

PL. 256　南北溝SD1653出土土器（2）

1615

1597

1616

1604

1614

約2：5

1624

1630

1627

1633

1628

1634

1657

1664

1656

1662

1658

1666

1665

1667

約2：5

PL. 258　SD1811・SX761・東の谷下層包含層出土土器

1649

1672

1651

1670

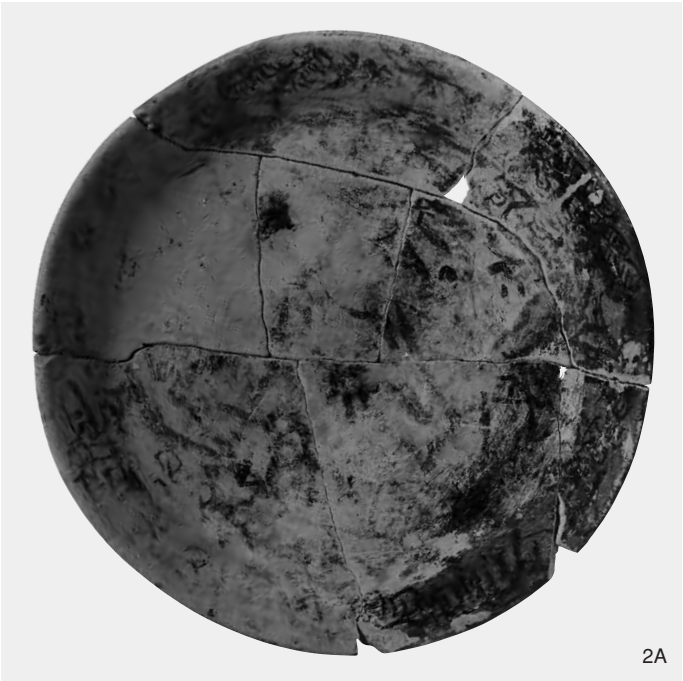
1645

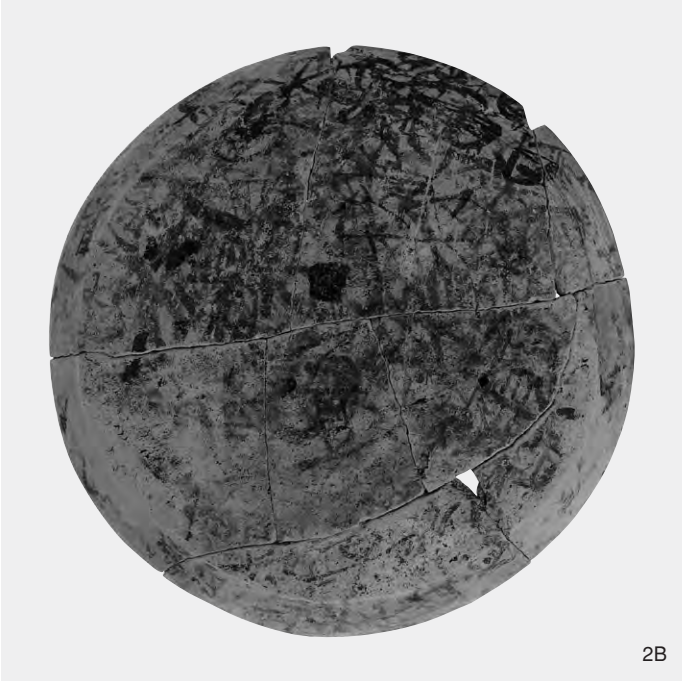
1646

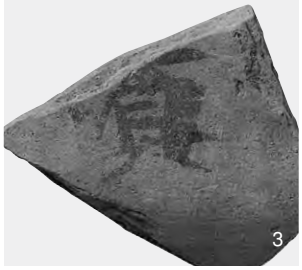
1669

約 2：5

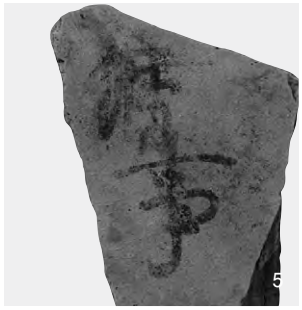
1

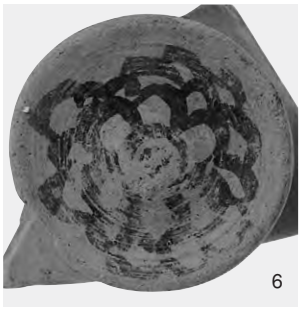

2A


2B

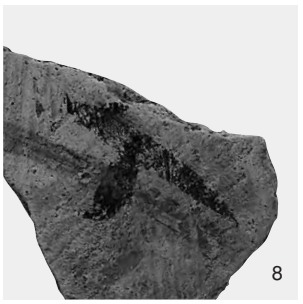

3

4


5


6

7

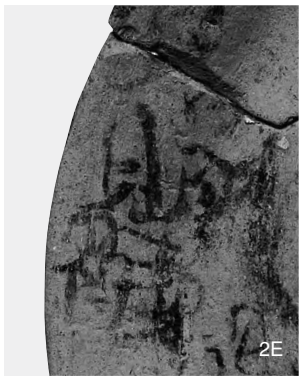

8

9

10

2C

2D


2E

2F

1：1（1・2A・Bは1：2）

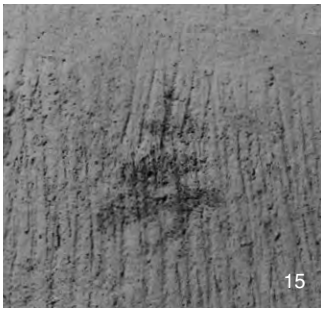
11A

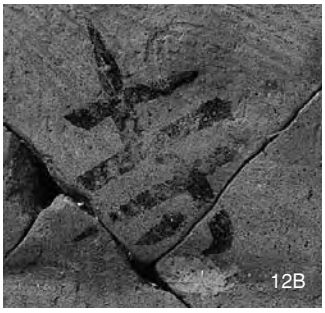
12A

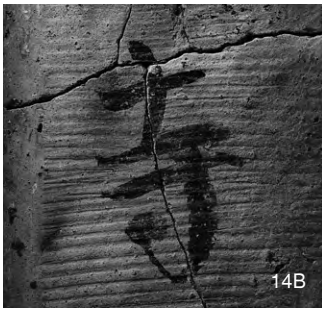
11B

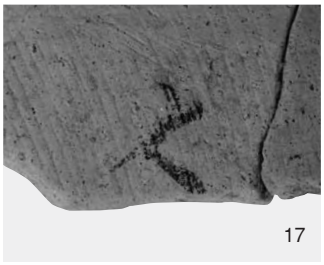
14A

16

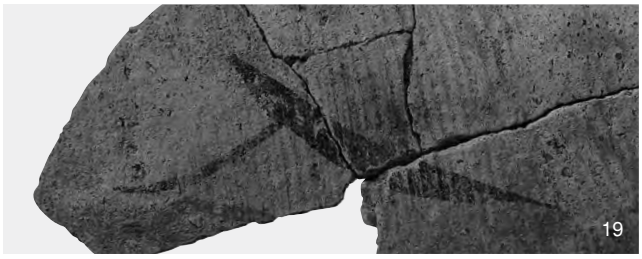

15

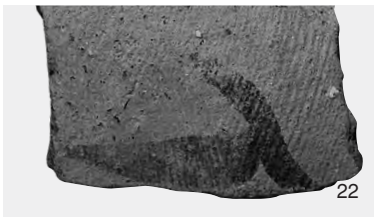

12B


14B


17

18


19


22

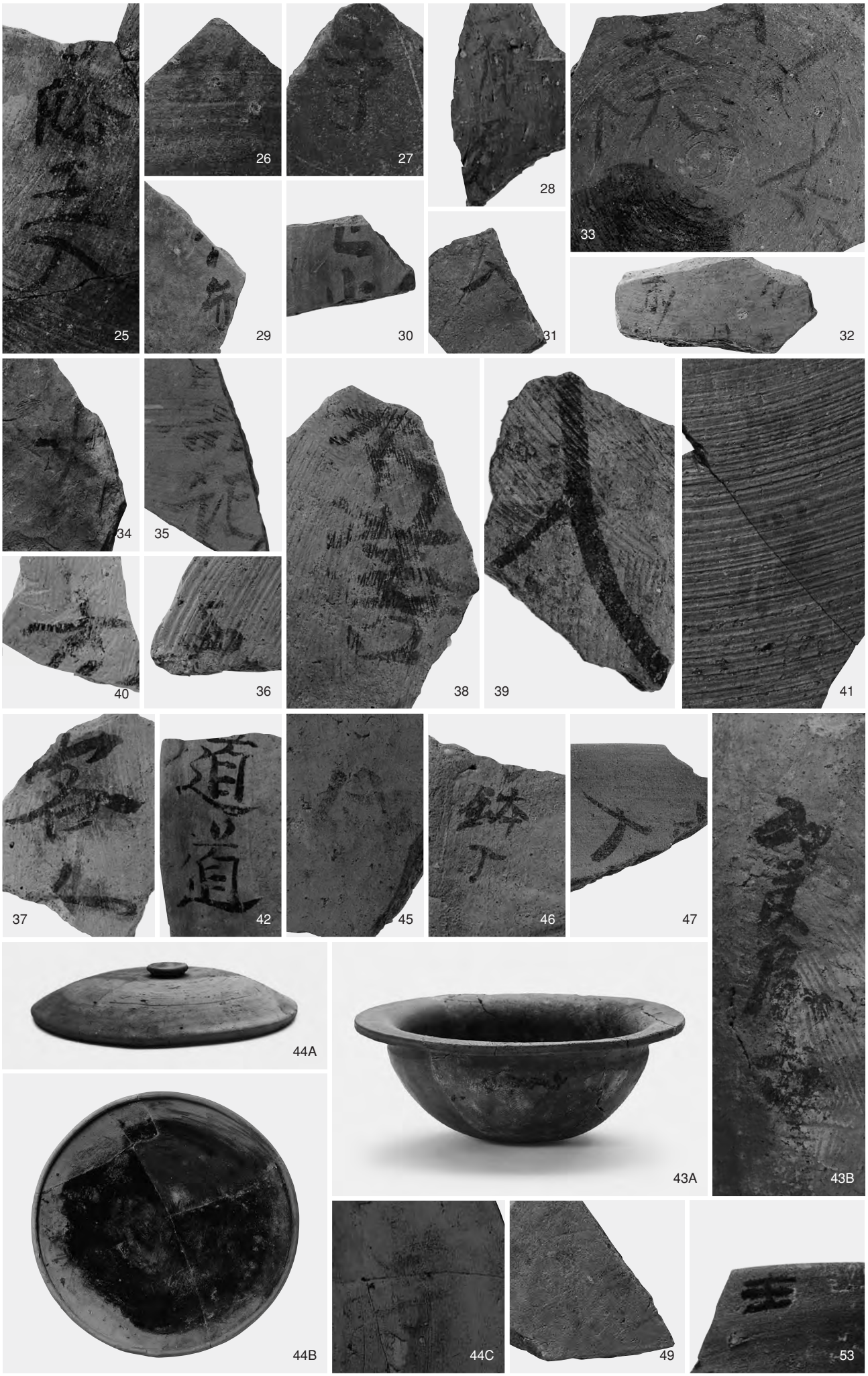
20A

20B

21

24

1：1（12A・14Aは約1：5）



1：1（25～42・43B・44C・45～47・49・53）約1：3（44A・B）約1：4（43A）

50A

48A

48B

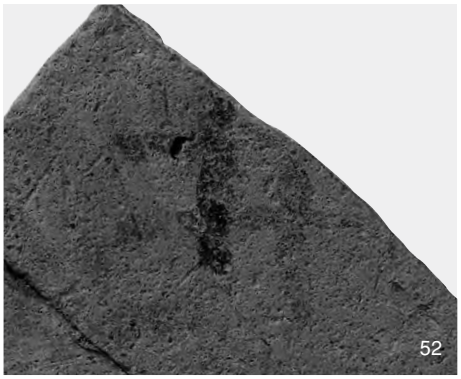
50B

50C

55

51

56


52

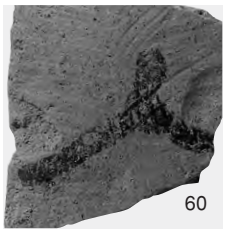
54

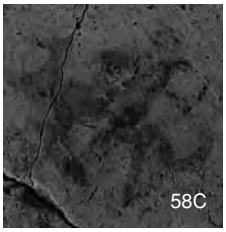
57

61

58A

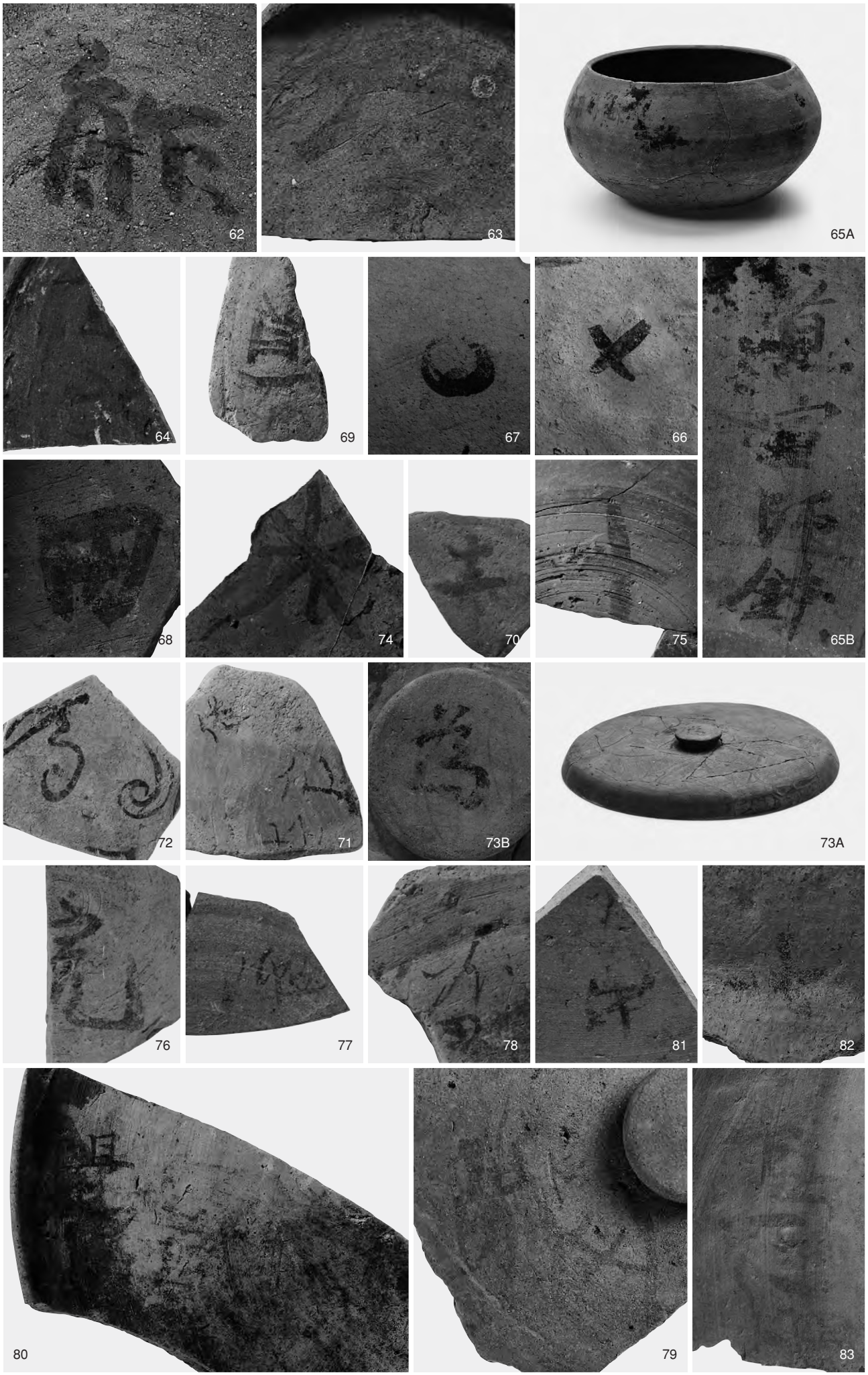
58B


60


58C

59

1：1（50A・B・58Aは約1：6）



1：1（65A・73Aは約1：4）

墨書土器 (6)・ヘラ書土器・針書土器

1：1

109

119

111

118

112

116

122A

122B

約 1：3

125

126

124

136

134

130

140

141

142

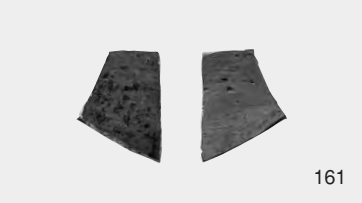
約１：２（124～126は約１：１）

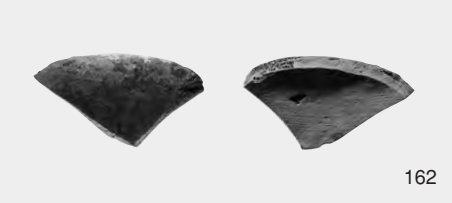
153

150

147

160


161


162

156A

158

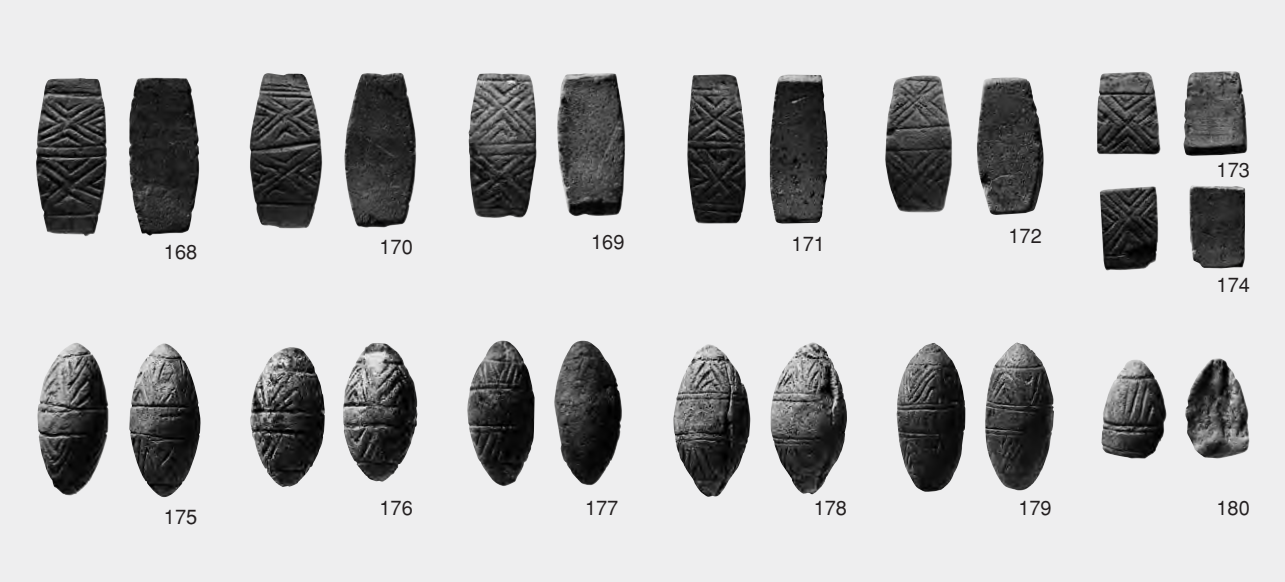
156B

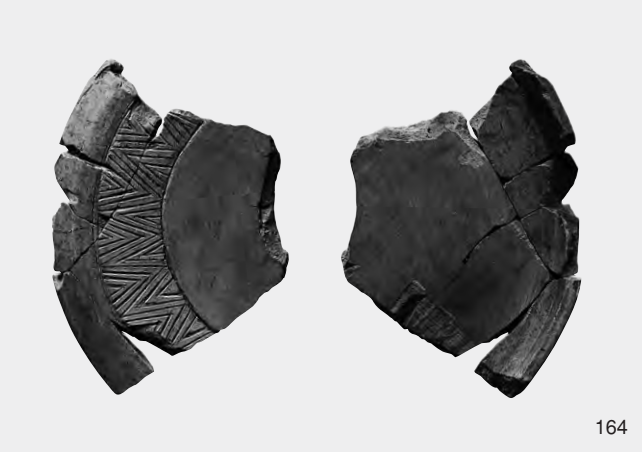
159A

157

159B

約1：2（147・150・153は約1：3）





1：2（167A・Bは約1：2）（168～180は2：3）

219

220

218

221

222

224

235A

229

235B

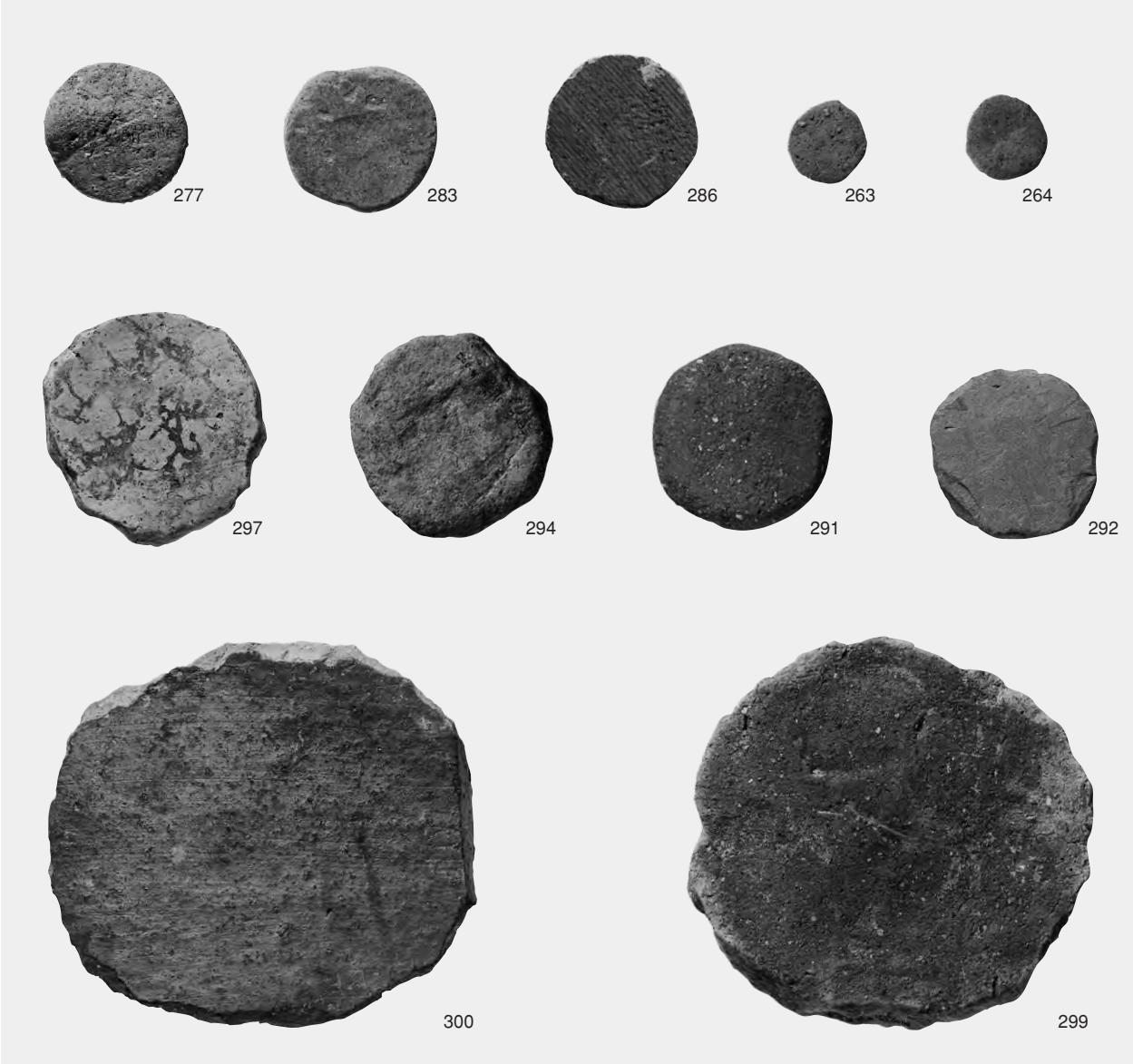
241

228

237

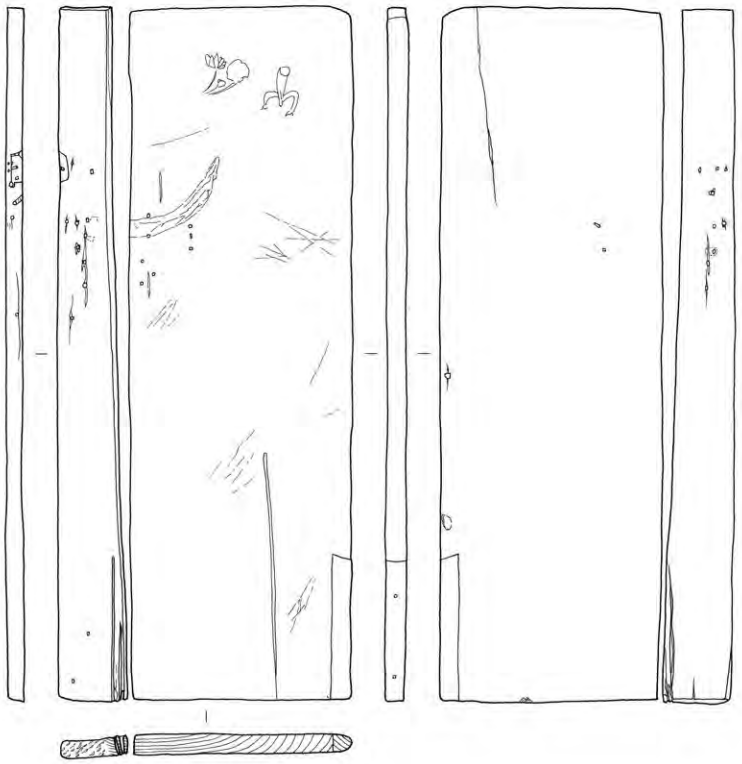
約 1：2

紡垂車・当て具・円板



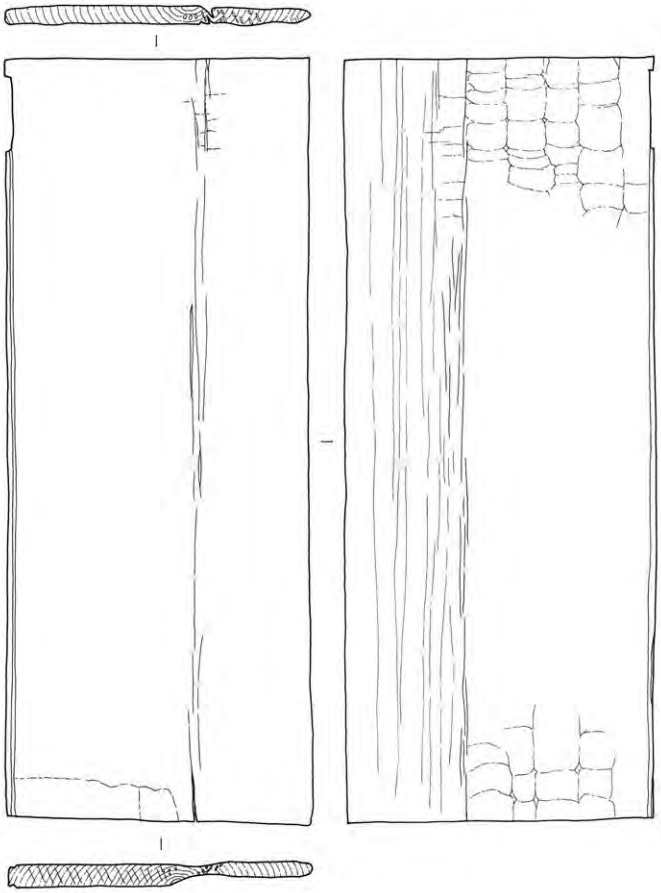
1：2（252～255・257～260は約1：2）

2：3（322～324・326・327）約2：5（304～306・311～316・319）1：4（333～338）

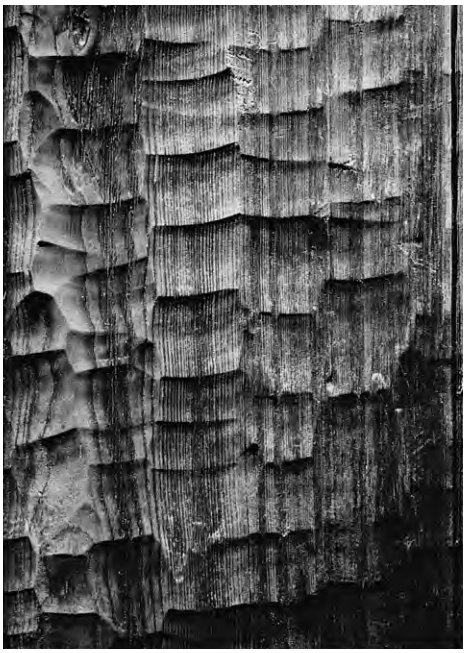


38・39.　井戸枠板（旧扉板）

39.　摺れ痕と表面の加工痕



40.　井戸枠板

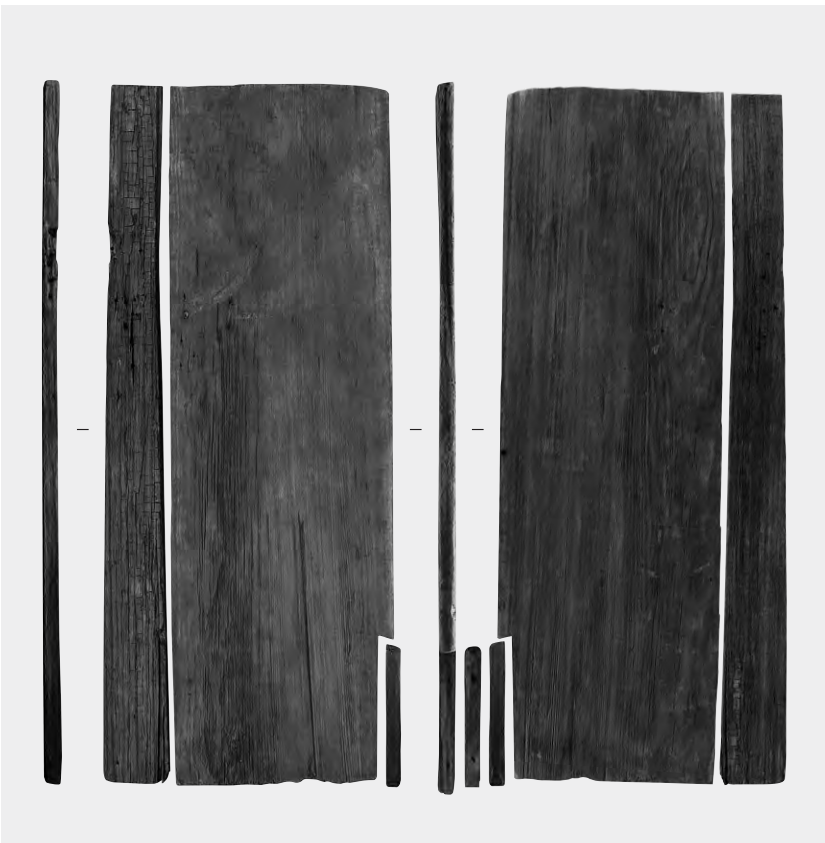


40.　表面の加工痕

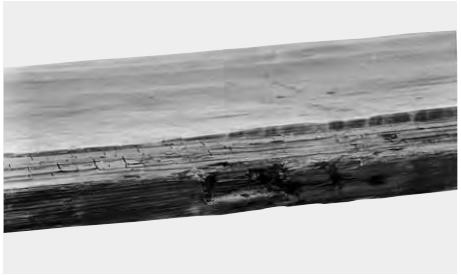
1：15（細部写真を除く）

38・39.　扉板の閂金具穴

39.　側面の釘穴と加工痕



38・39.　井戸枠板（旧扉板　1：15）



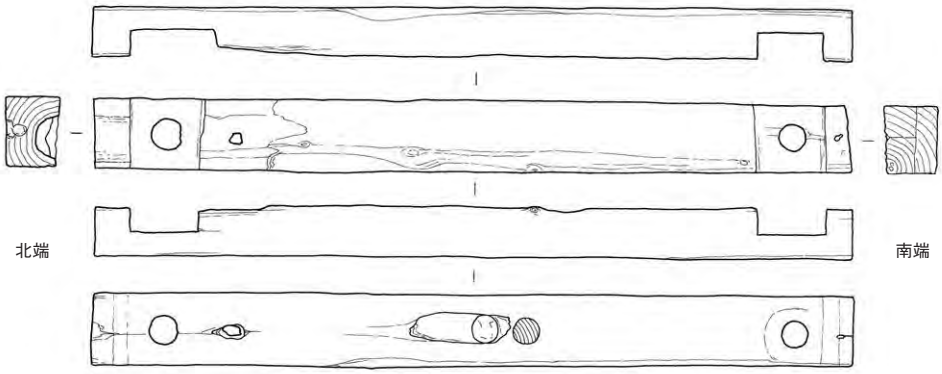
38.　側面の仕口と釘穴

39.　下部の軸摺部

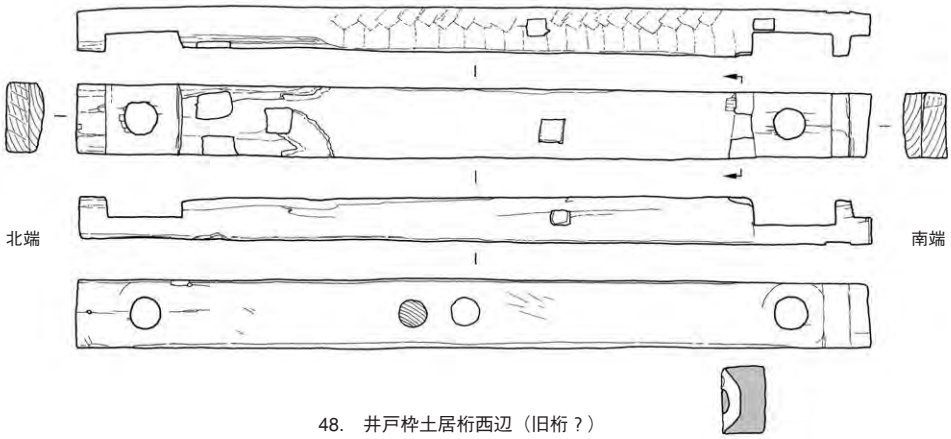
39.　下部の軸摺別材

40.　井戸枠板（1：15）

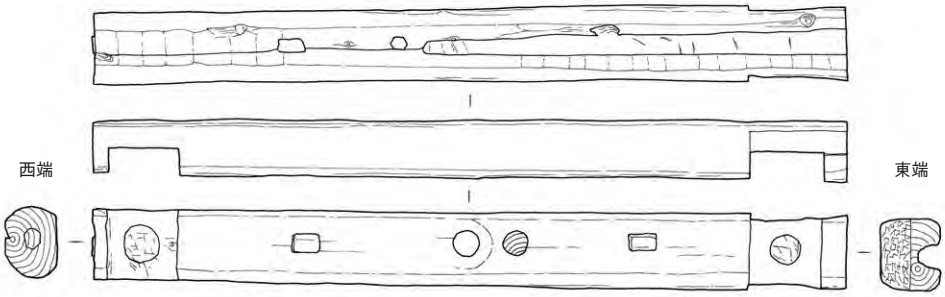
40.　木口の加工痕（1：8）



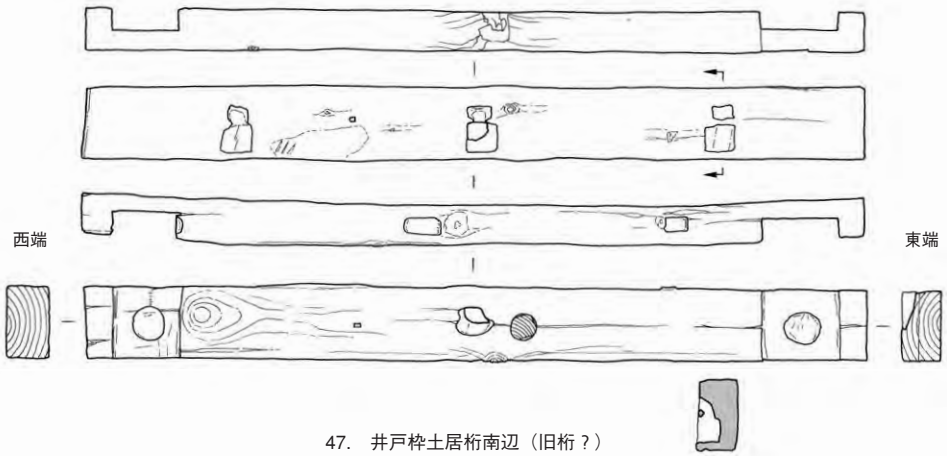
45.　井戸枠土居桁東辺



48.　井戸枠土居桁西辺（旧桁？）



46.　井戸枠土居桁北辺（旧柱）



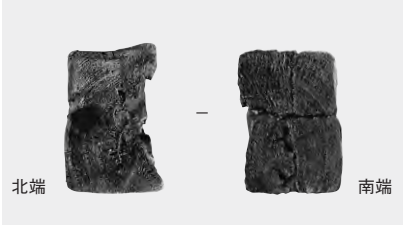
47.　井戸枠土居桁南辺（旧桁？）

45.　北端の仕口と板あたり痕

48.　側面の加工痕

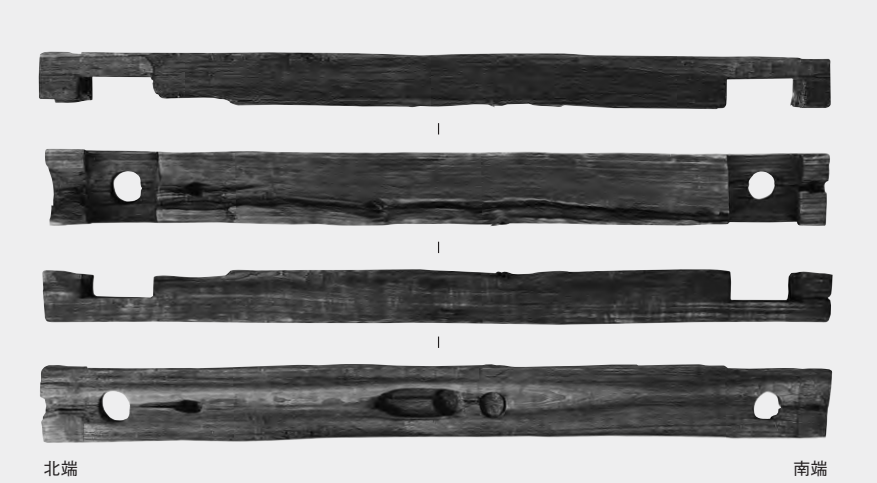
46.　中央部の仕口と丸柱あたり痕

1：15（細部写真を除く）

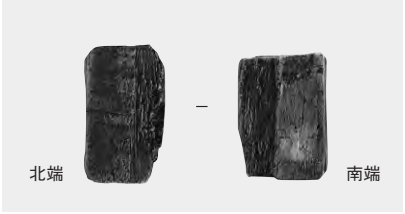


45.　木口（1：8）

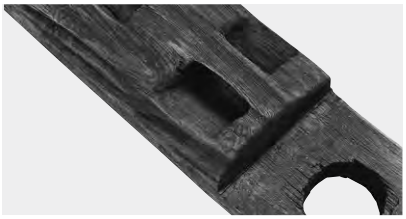
45.　南端の仕口と釘穴



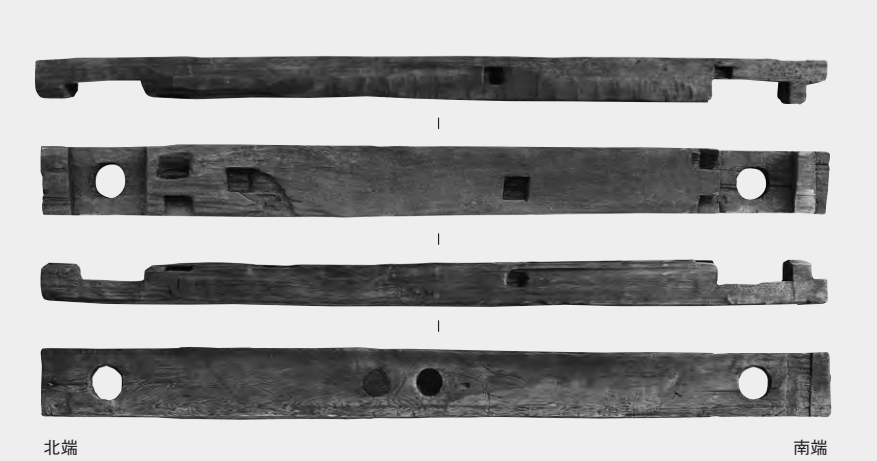
45.　井戸枠土居桁東辺（1：15）



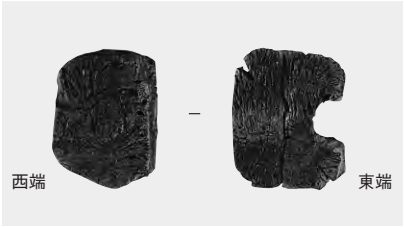
48.　木口（1：8）



48.　北端部のエツリ穴

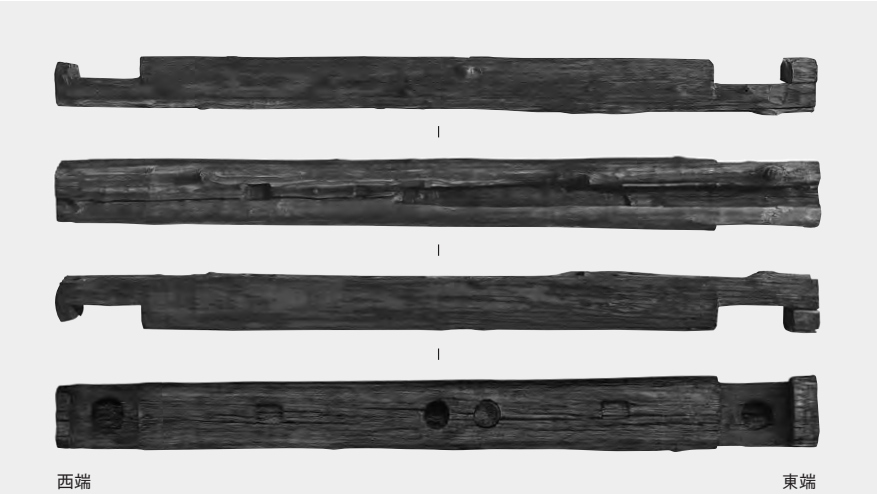


48.　井戸枠土居桁西辺（旧桁？　1：15）



46.　木口（1：8）

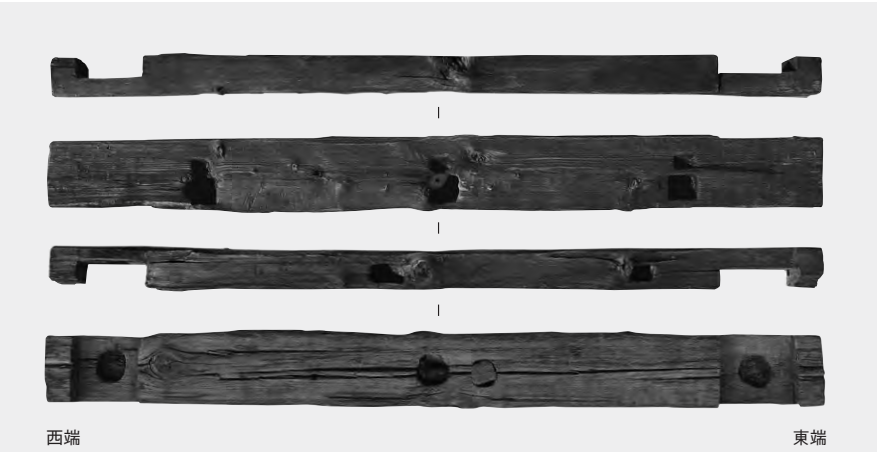
46.　西端木口のホゾ



46.　井戸枠土居桁北辺（旧柱　1：15）

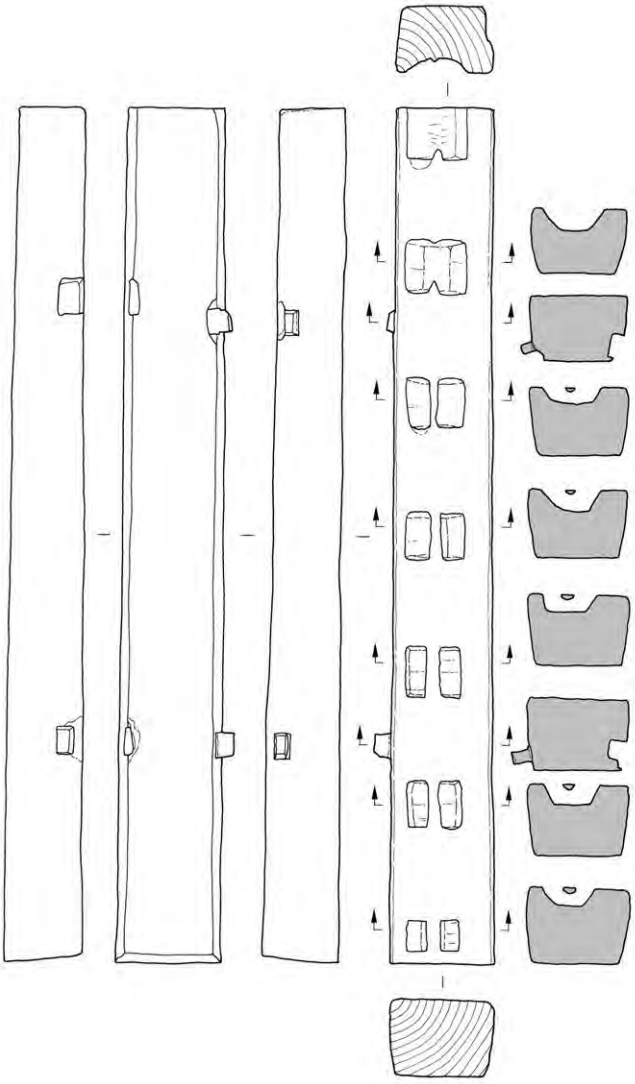
47.　木口（1：8）

47.　北端部のエツリ穴

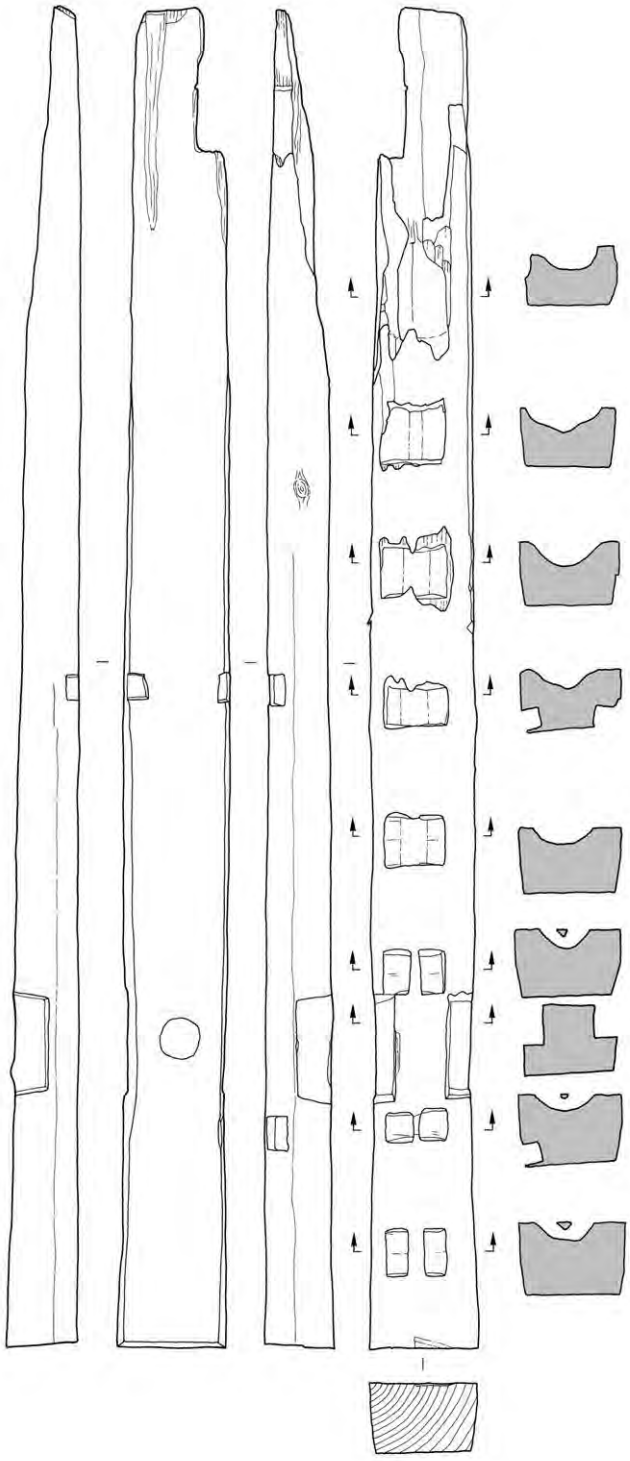


47.　井戸枠土居桁南辺（旧桁　1：15）

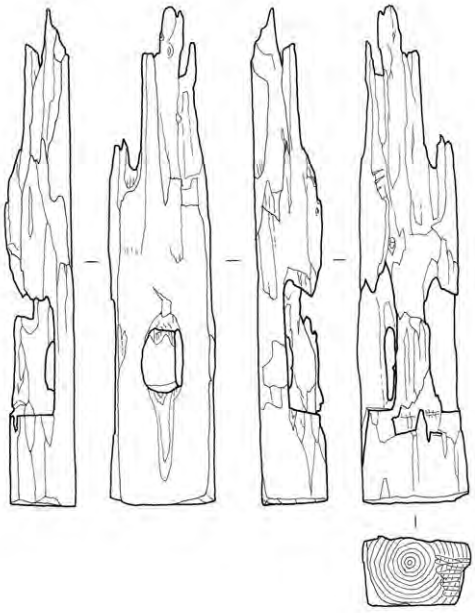
建築部材（3）井戸枠



90.　井戸枠（旧桁）



92.　井戸枠（旧桁）



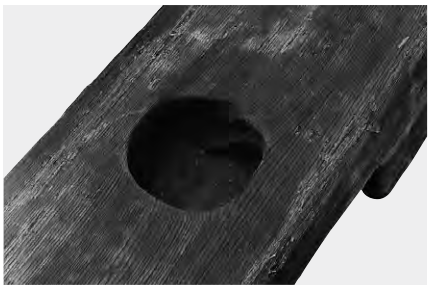
93.　井戸枠（旧桁）

93.　ホゾ穴

93.　渡腮仕口

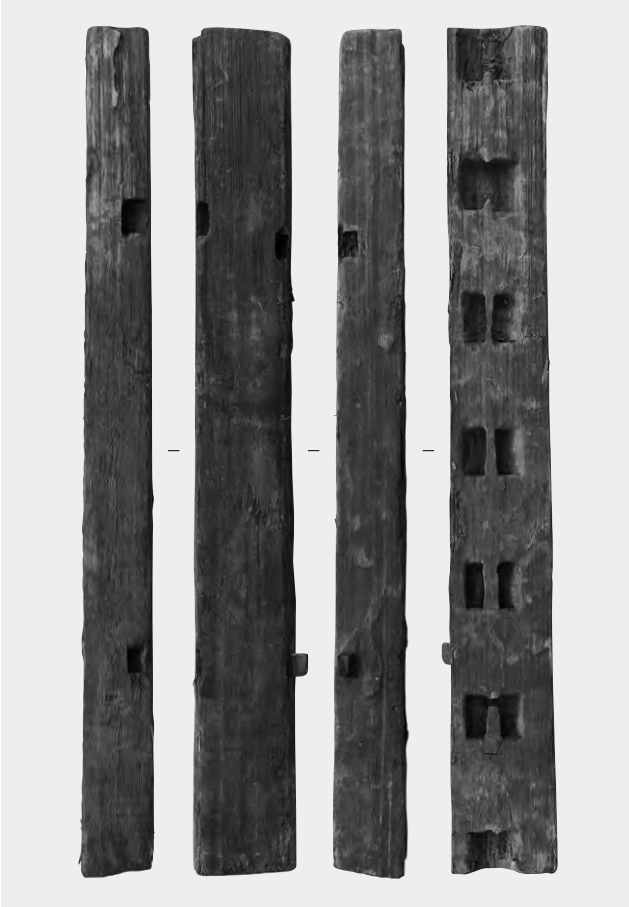
1：15（細部写真を除く）

90.　木口（1：8）



92.　ホゾ穴

92.　渡腮仕口

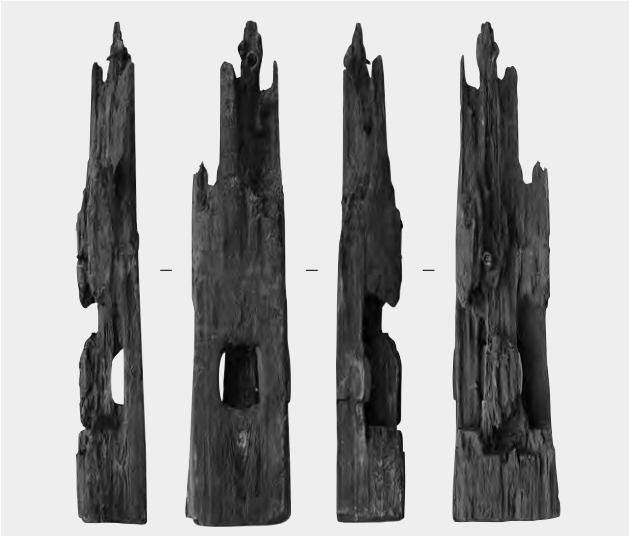


90.　井戸枠（旧桁　1：15）

92.　井戸枠（旧桁　1：15）

90.　木口（1：8）

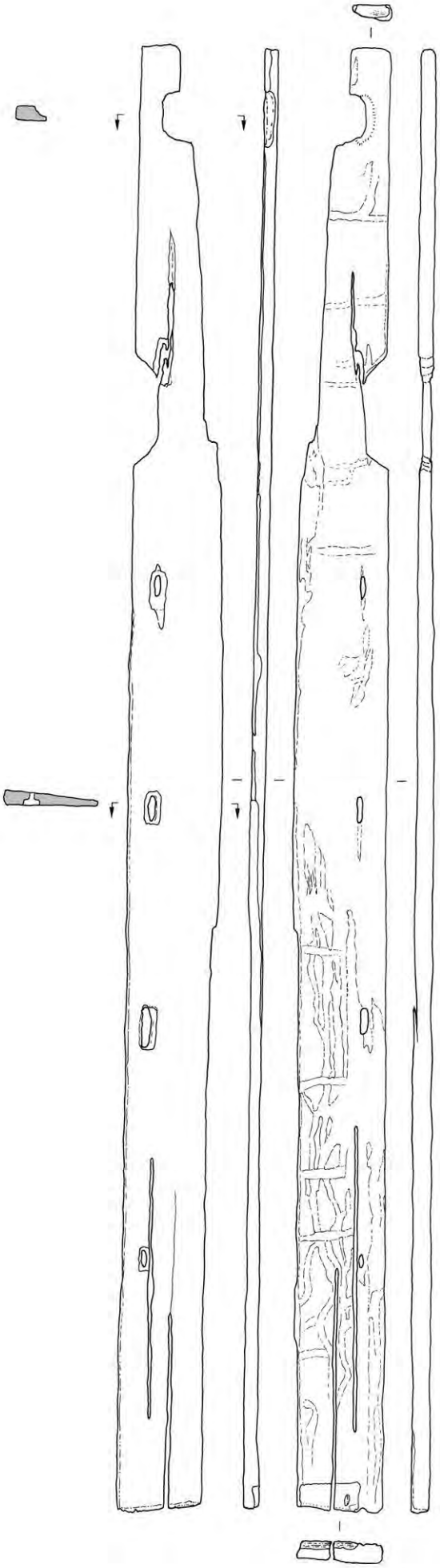
90.　エツリ穴



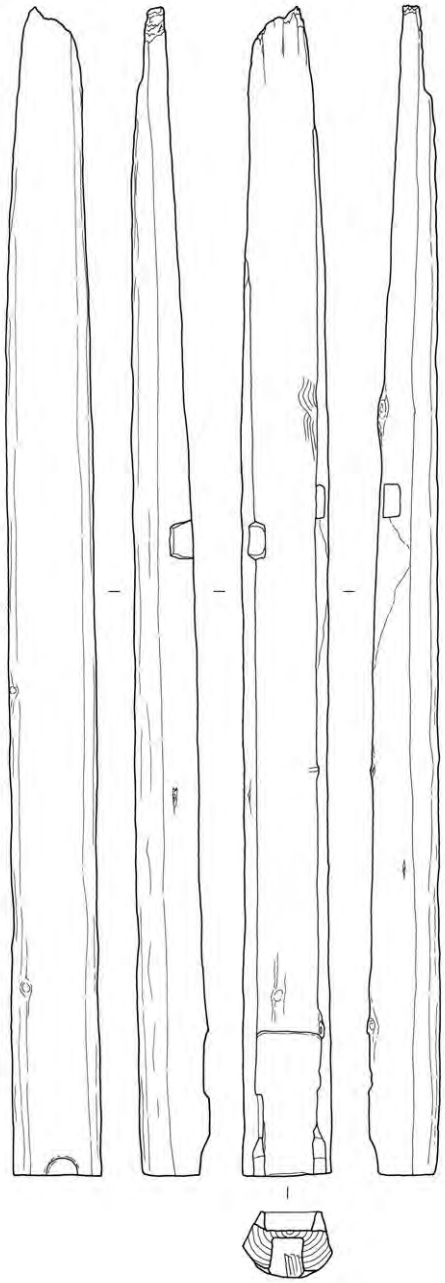
93.　井戸枠（旧桁　1：15）

93.　木口（1：8）

92.　木口（1：8）



109.　木樋蓋板（旧柱）



91.　井戸枠（旧桁）

91.　継手

91.　ホゾ穴

1：15（細部写真を除く）

109.　木樋蓋板（旧柱　1：15）

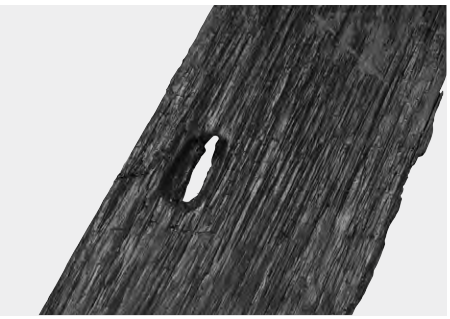
91.　木口（1：8）

109.　挽き割り痕

91.　井戸枠（旧桁　1：15）

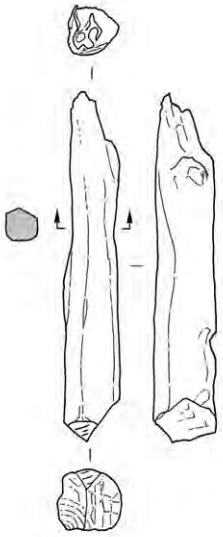
109.　仕口1

109.　仕口2

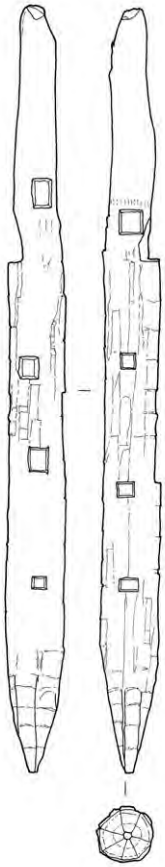


109.　仕口3

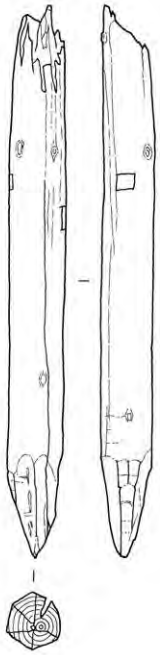
109.　仕口4



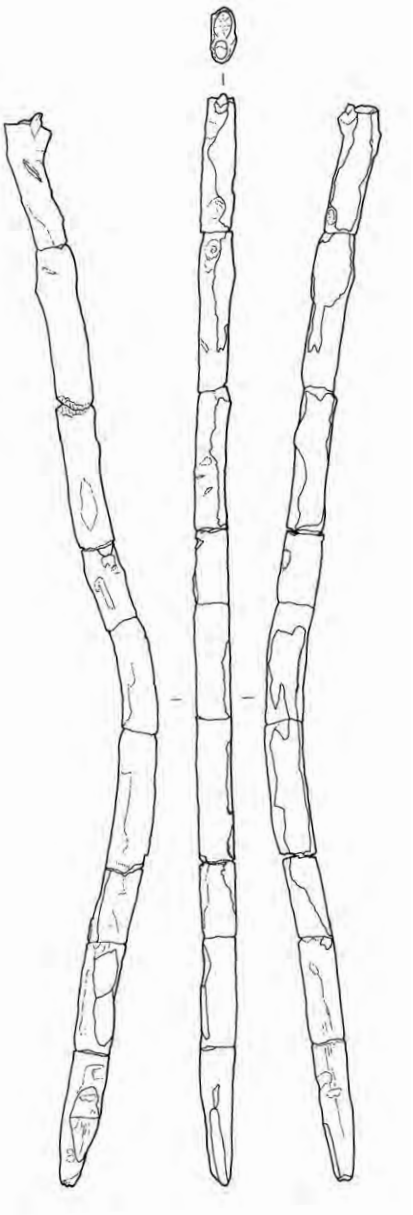
19. 柱根



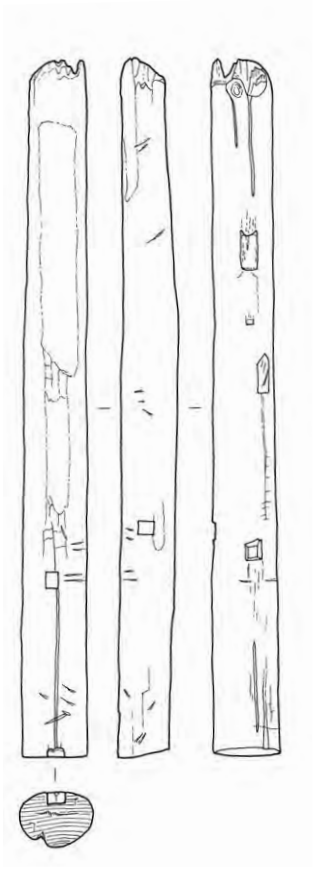
35. 柱根



34. 柱根



13. 柱根



36. 柱根

1：15

19.　柱根（1：15）

19.　木口（1：8）

13.　柱根（1：15）

35.　柱根（1：15）

34.　先端部分

36.　斜め材挿入仕口

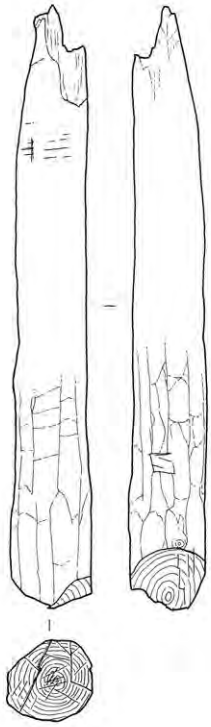
13.　先端の股部分

34.　柱根（1：15）

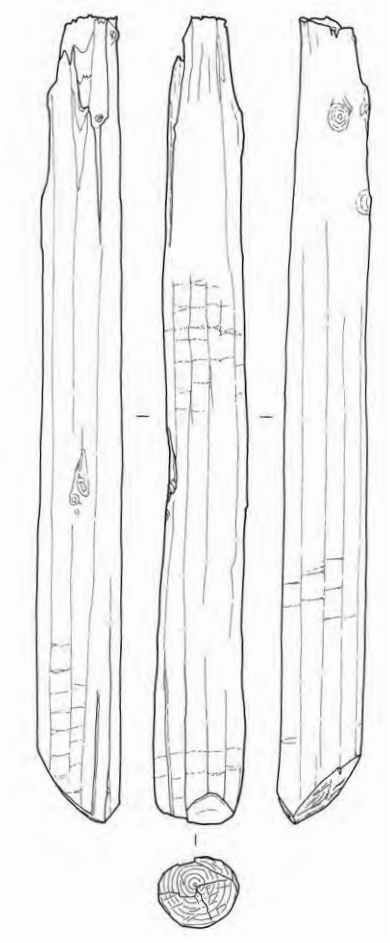
34.　木口（1：8）

36.　柱根（1：15）

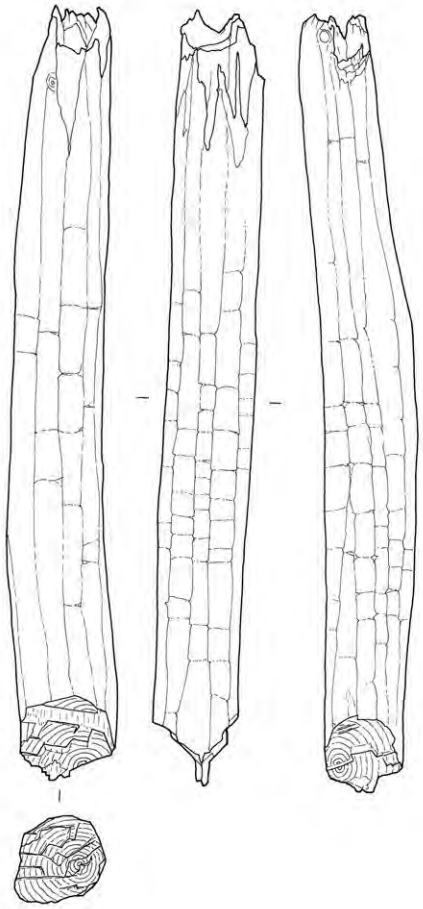
36.　木口（1：8）



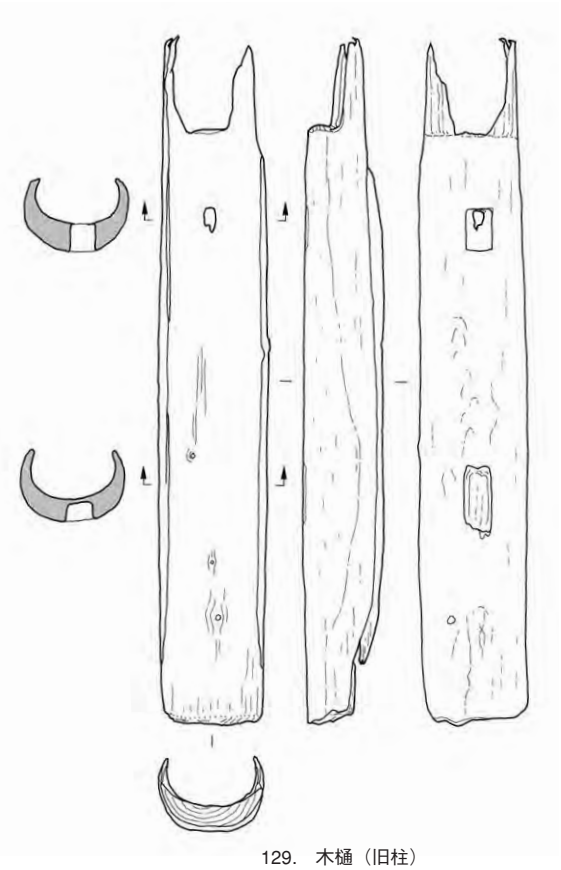
102.　柱根



115.　柱根



116.　柱根



129.　木樋（旧柱）

102.　表面の加工痕

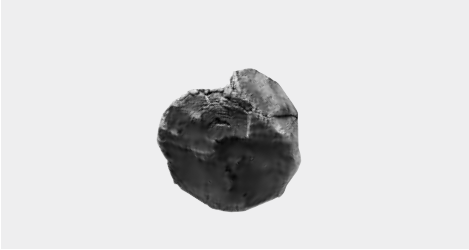
1：15（細部写真を除く）

102.　柱根（1：15）

115.　柱根（1：15）

116.　柱根（1：15）

102.　木口（1：8）



115.　木口（1：8）

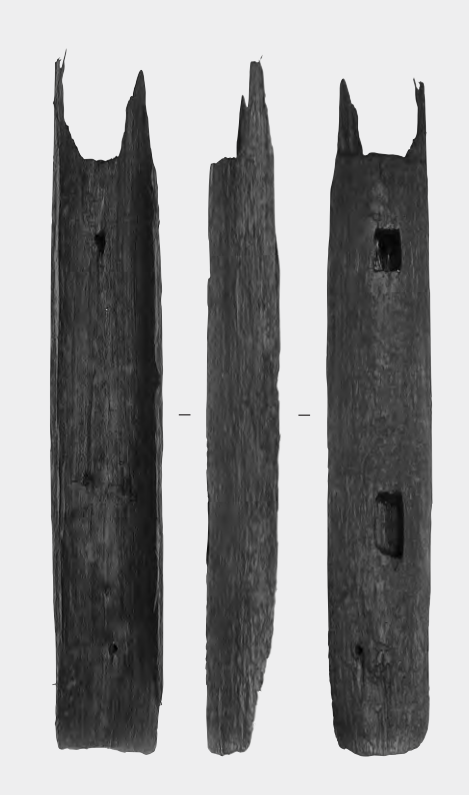
116.　木口（1：8）

115.　表面の加工痕

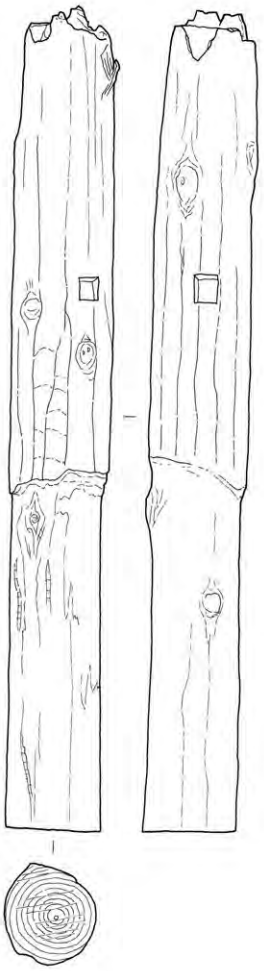
116.　表面の加工痕

129.　材端部

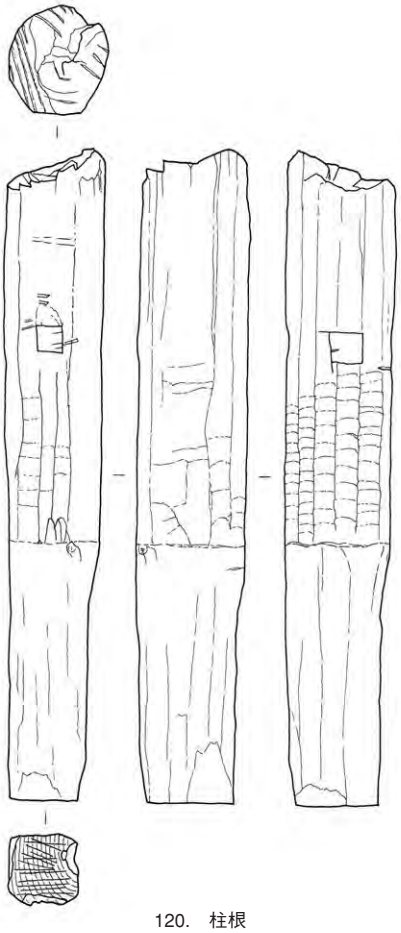
129.　仕口



129.　木樋（旧柱　1：15）



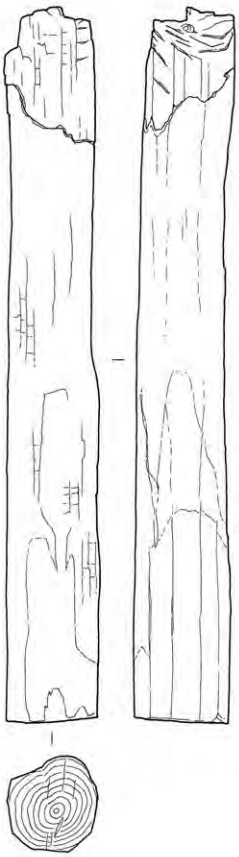
118.　柱根



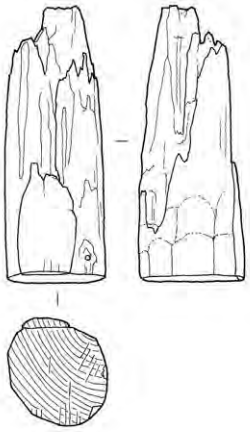
120.　柱根

118.　表面の加工痕

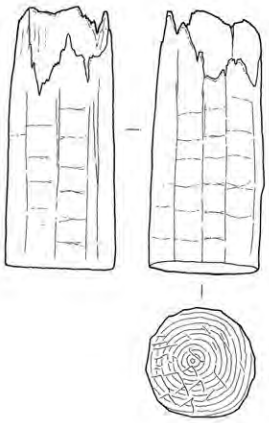
120.　表面の加工痕



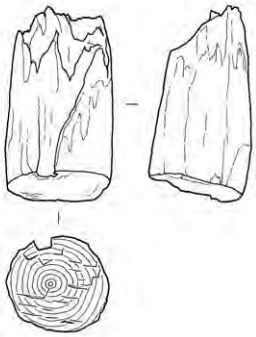
121.　柱根



119.　柱根

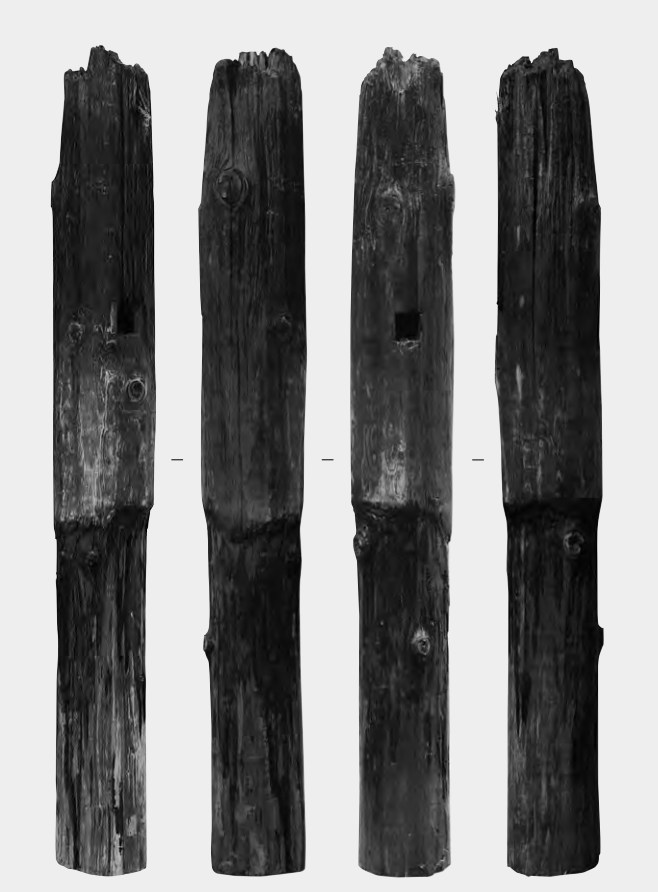


33.　柱根



75.　柱根

1：15（細部写真を除く）



118.　柱根（1：15）

120.　柱根（1：15）

121.　柱根（1：15）

118.　木口（1：8）

120.　木口（1：8）

120.　仕口の加工痕

119.　柱根（1：15）

33.　柱根（1：15）

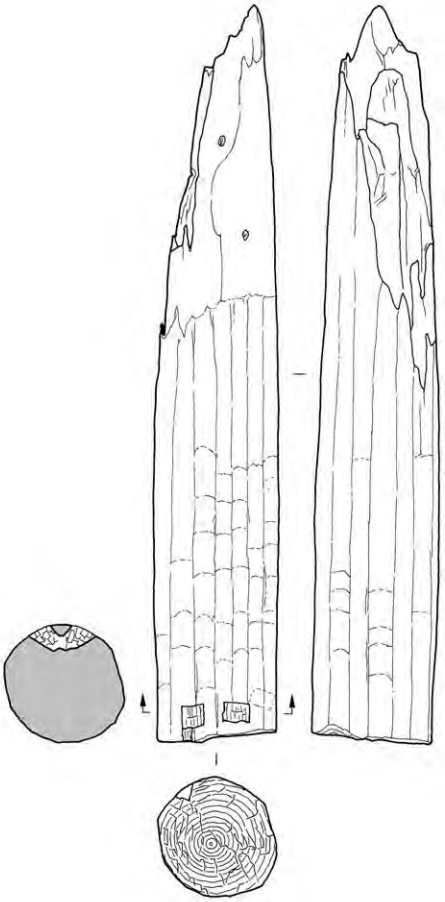
75.　柱根（1：15）

121.　木口（1：8）

119.　木口（1：8）

33.　木口（1：8）

75.　木口（1：8）

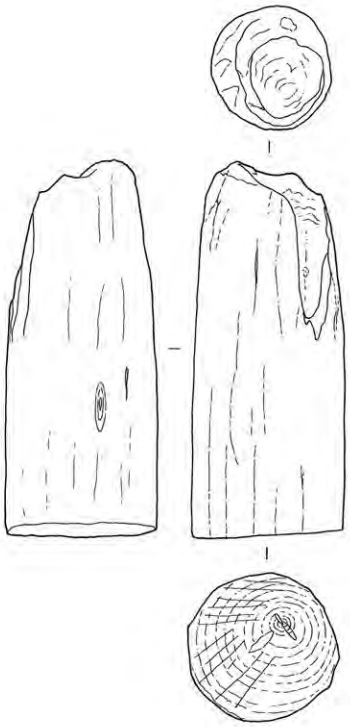


81.　柱根

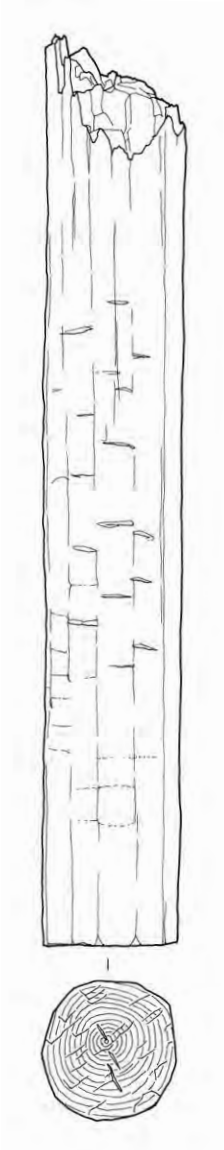
85.　柱根

87.　表面の加工痕

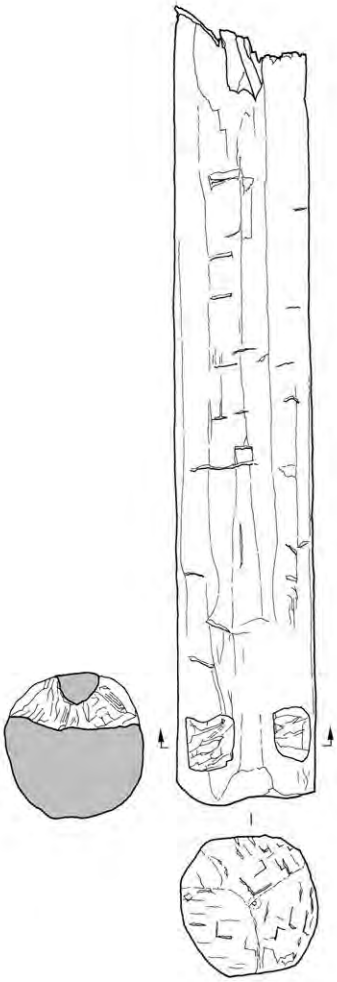
87.　表面の加工痕



117.　柱根



86.　柱根



87.　柱根

1：15（細部写真を除く）

81.　柱根（1：15）

81.　エツリ痕の加工痕

87.　エツリ痕の加工痕

85.　柱根（1：15）

85.　木口（1：8）

81.　木口（1：8）

86.　柱根（1：15）

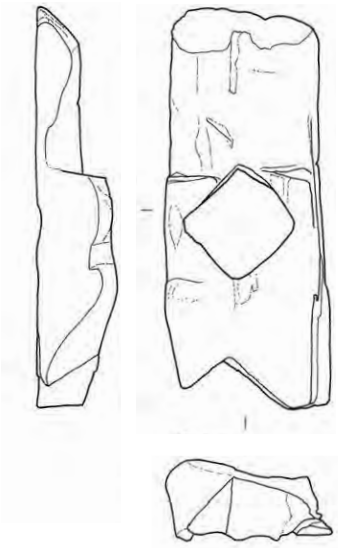
87.　柱根（1：15）

117.　柱根（1：15）

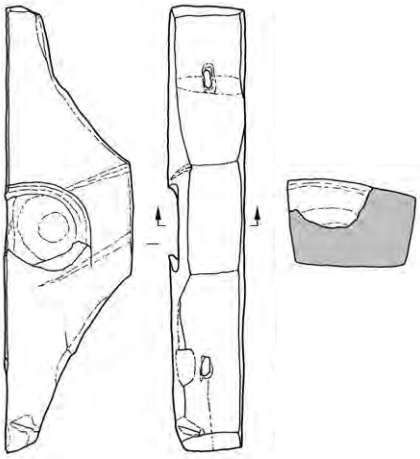
117.　木口（1：8）

86.　木口（1：8）

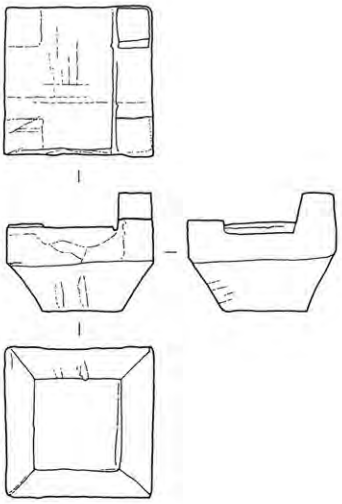
87.　木口（1：8）



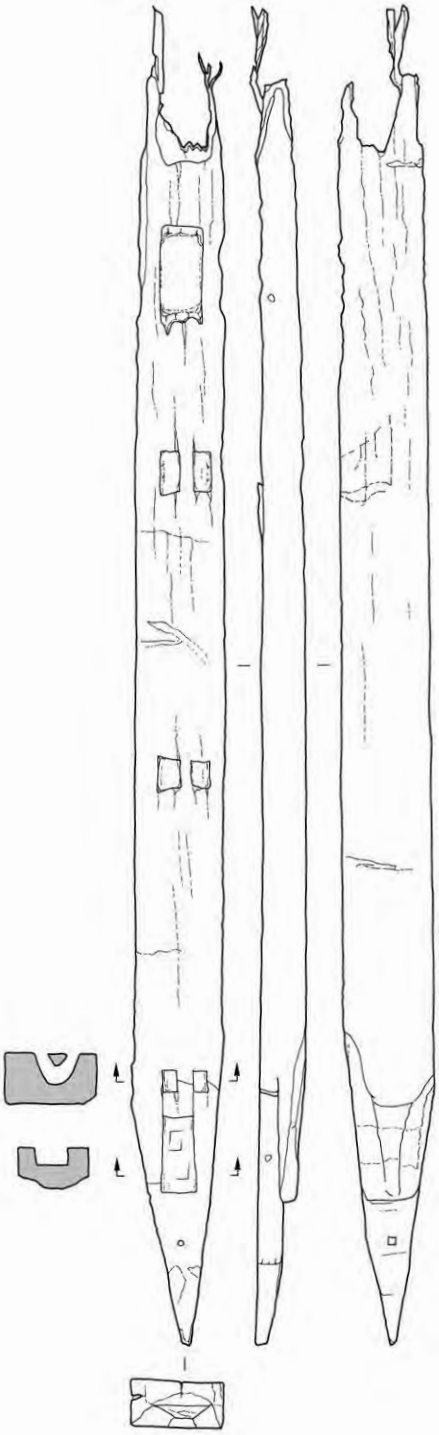
131.　連子窓枠（1：4）



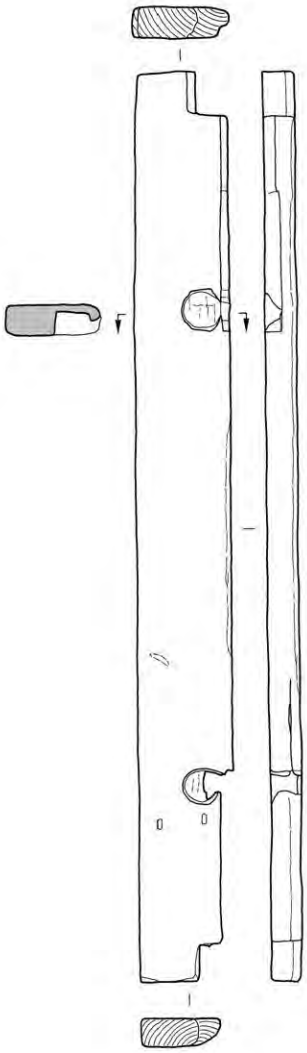
132.　藁座（1：2）



133.　大斗（1：2）



123.　桁（杭に転用　1：5）

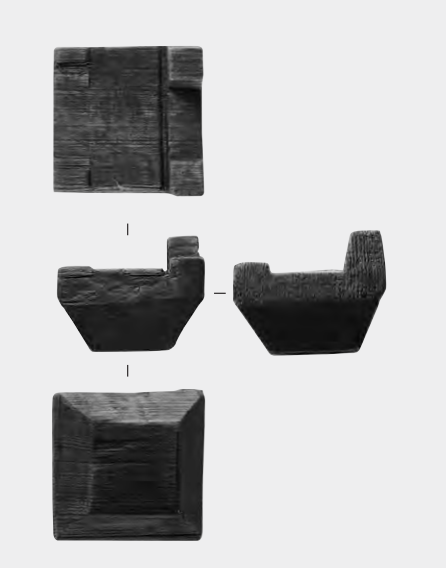


11.　閾（1：10）

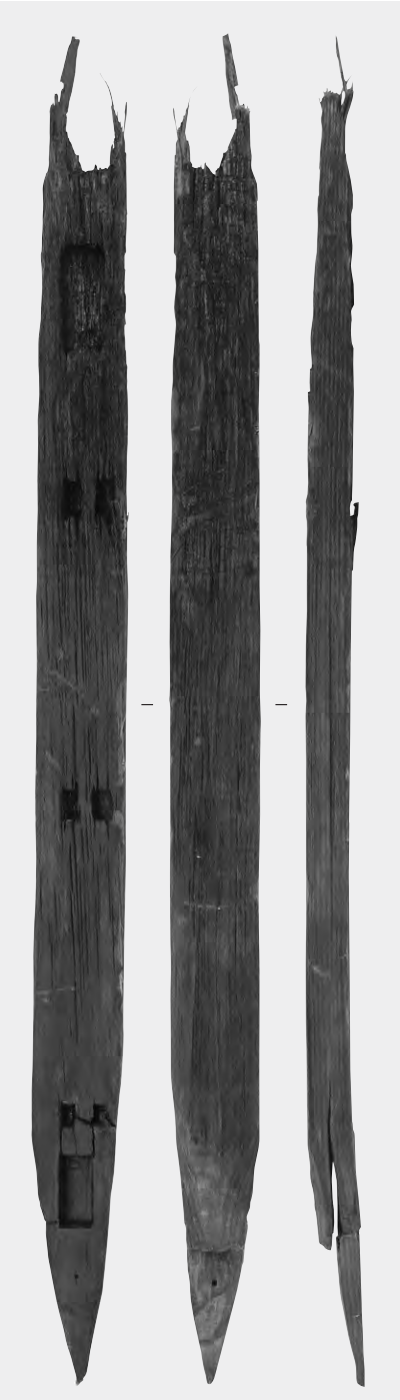
11.　表面の加工痕

131.　連子窓枠（1：4）

132.　藁座（1：2）



133.　大斗（1：2）



123.　桁（杭に転用　1：5）

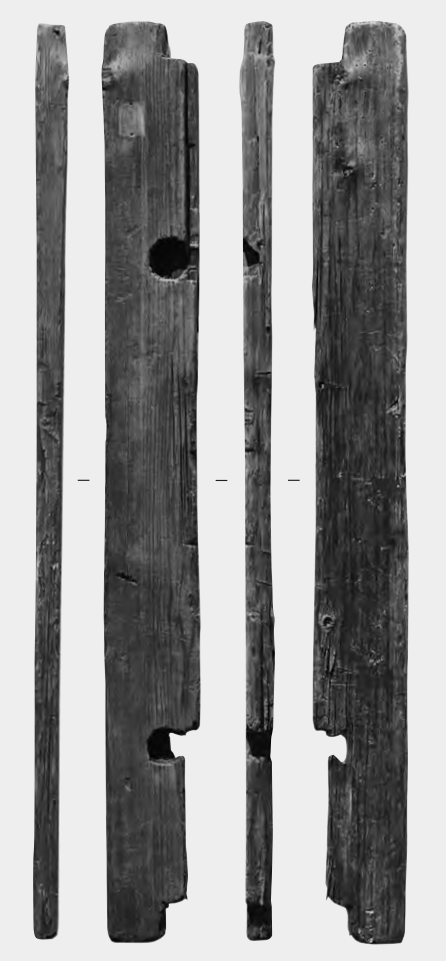
132.　藁座

133.　大斗

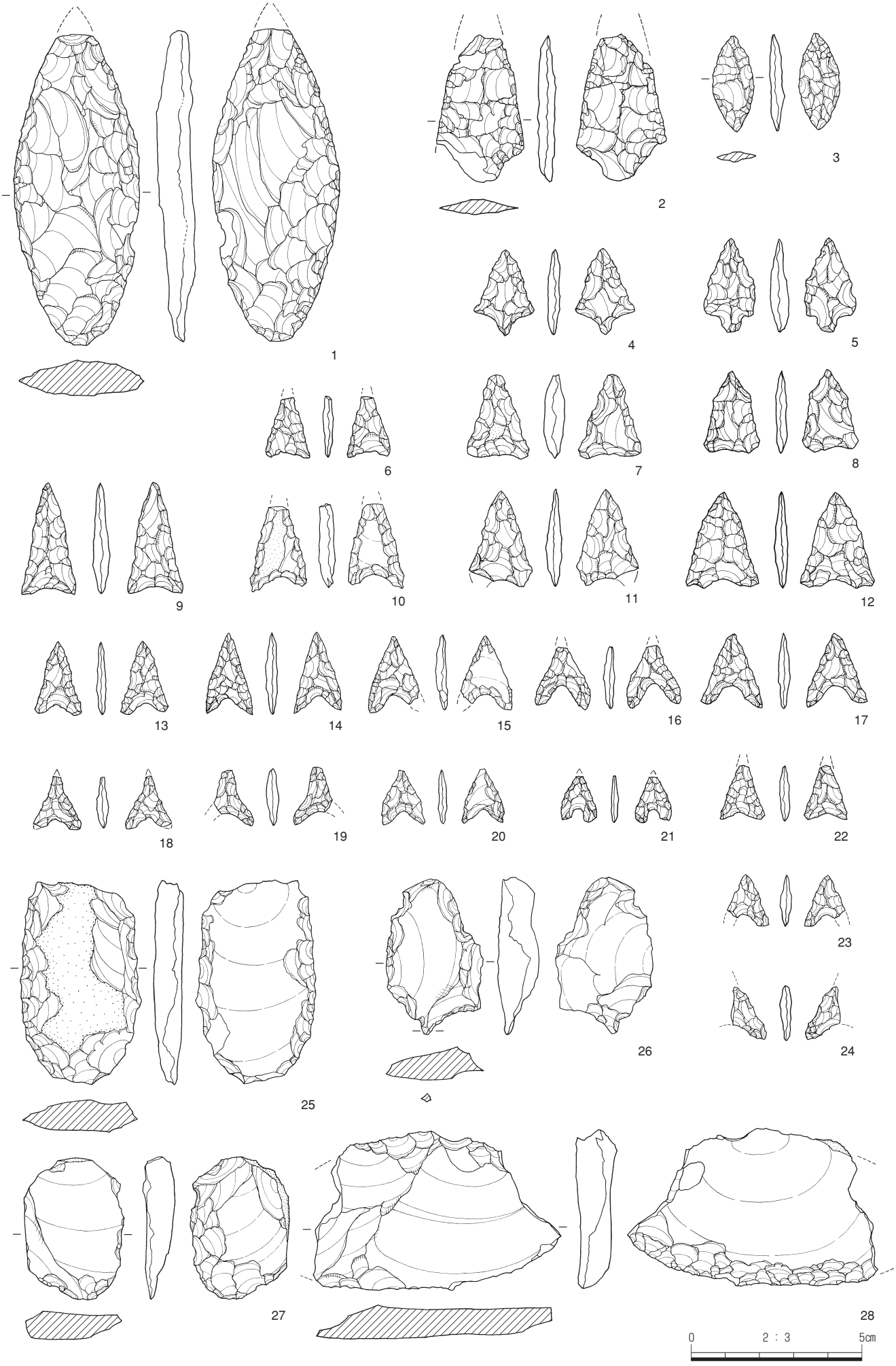
11.　方立仕口

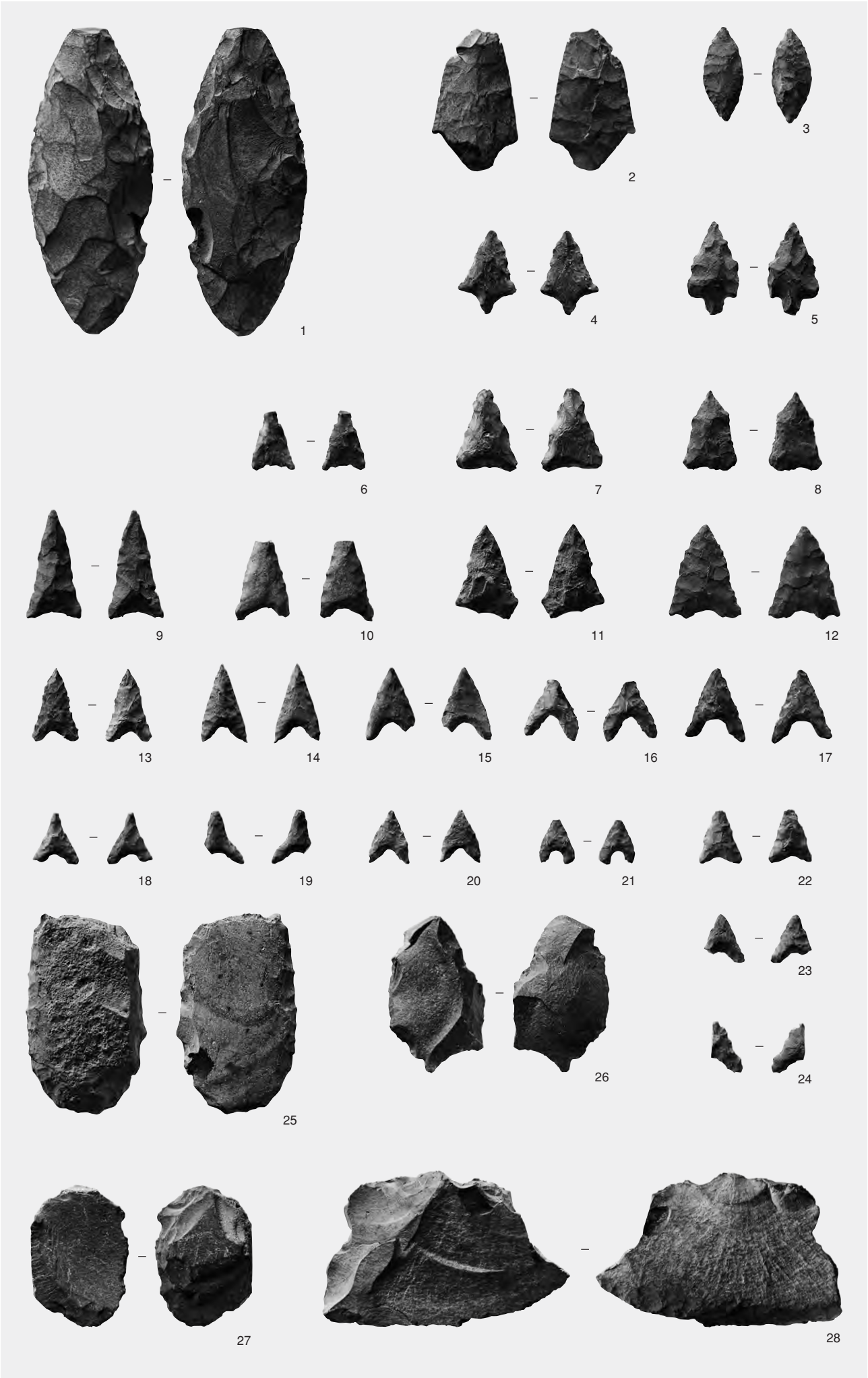
123.　材端部とホゾ穴

123.　エツリ穴

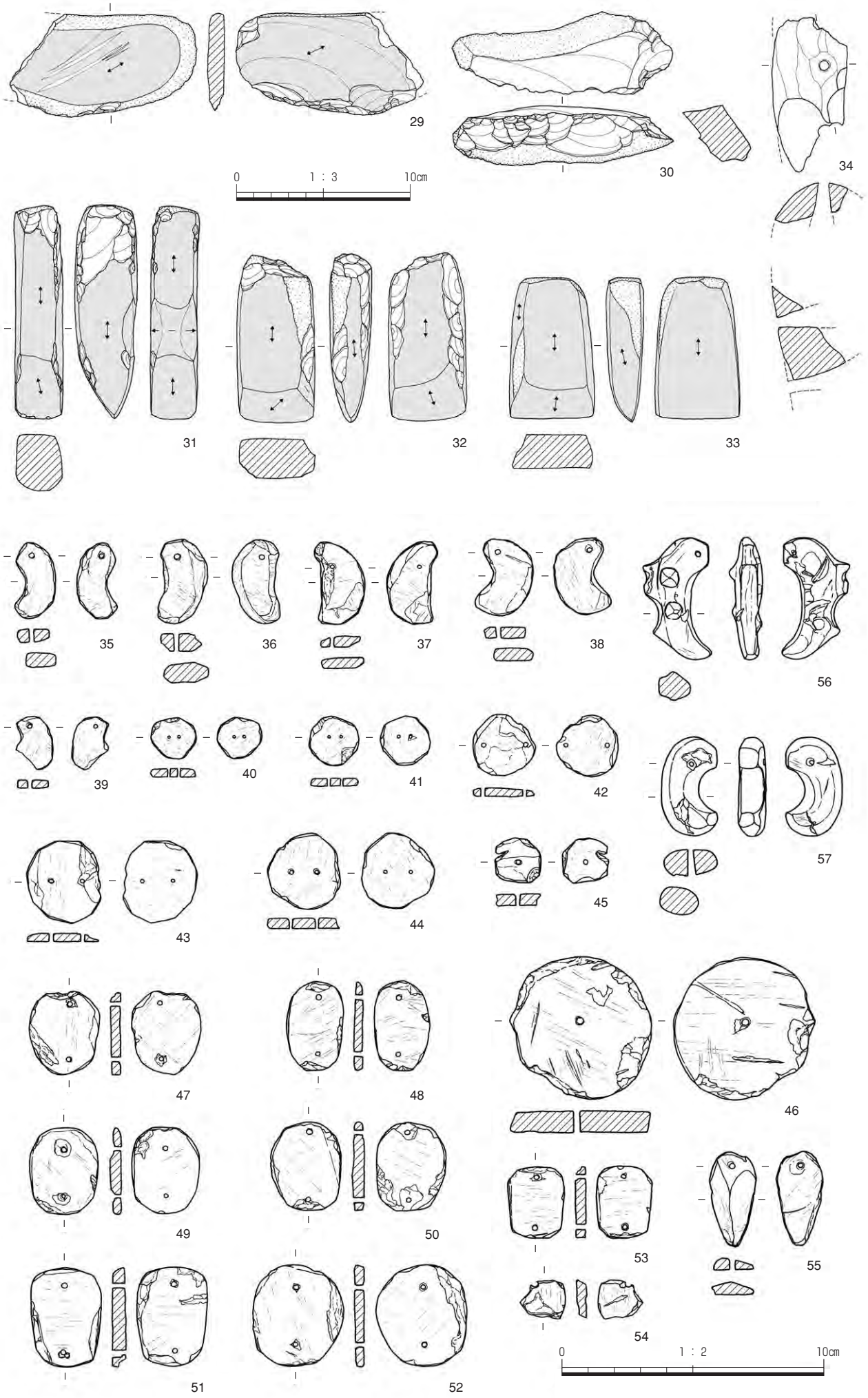


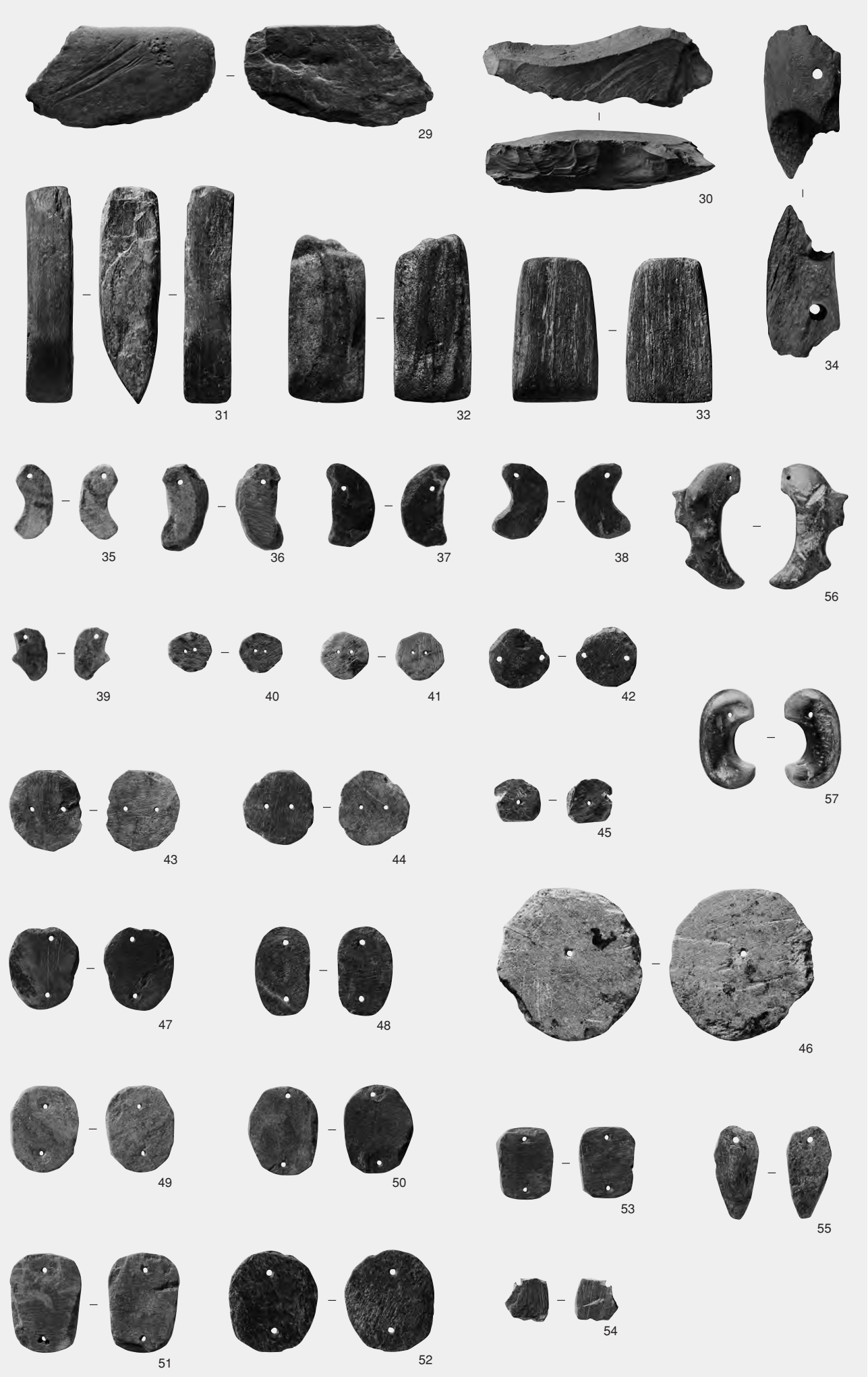
11.　閾（1：10）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
0
2 : 3
5cm



2：3

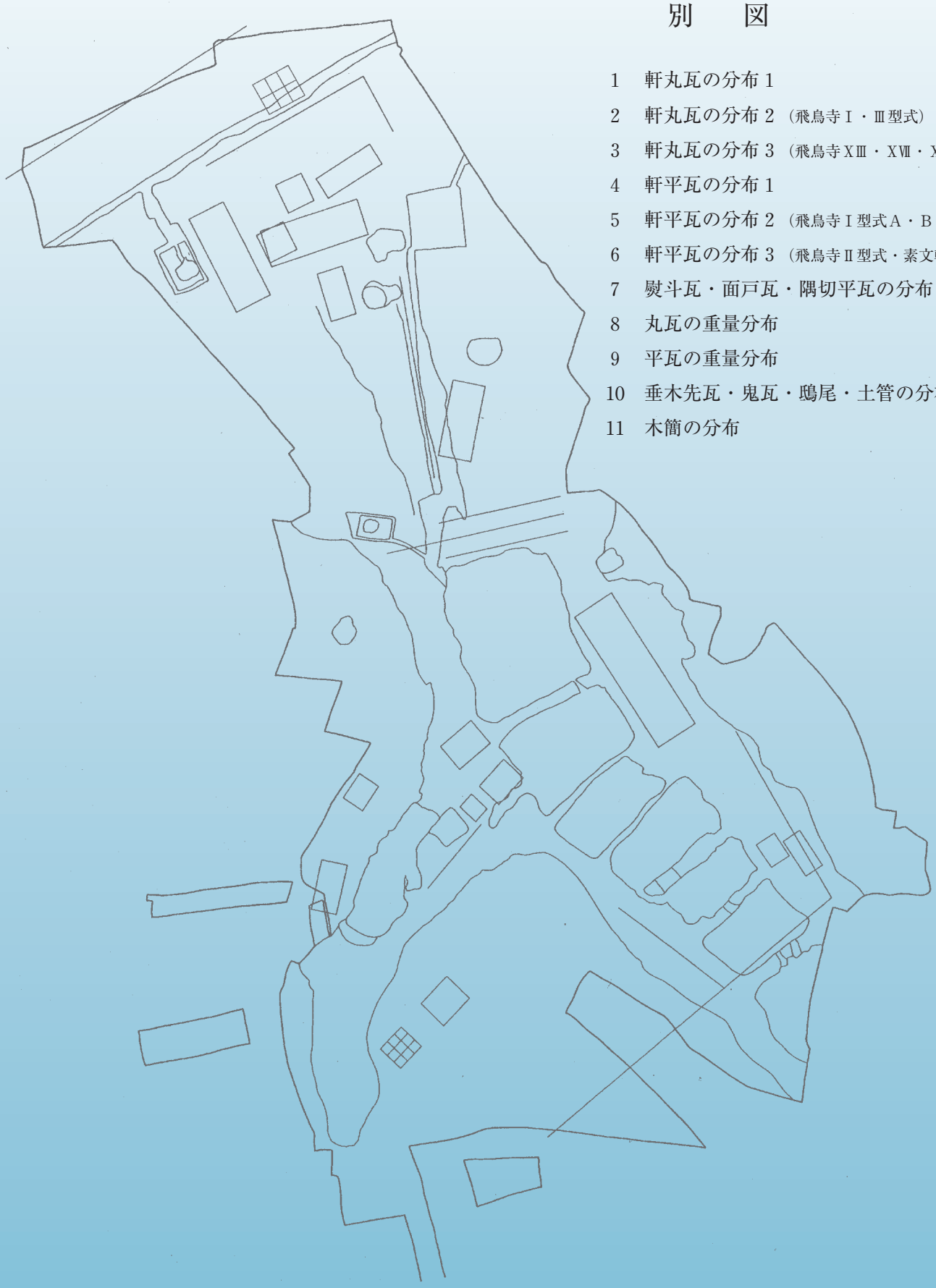

29
30
34
0 1 : 3 10cm
31
32
33
35
36
37
38
56
39
40
41
42
57
43
44
45
47
48
46
49
50
53
55
54
51
52
0 1 : 2 10cm


29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
56
39
40
41
42
57
43
44
45
46
47
48
49
50
53
55
51
52
54

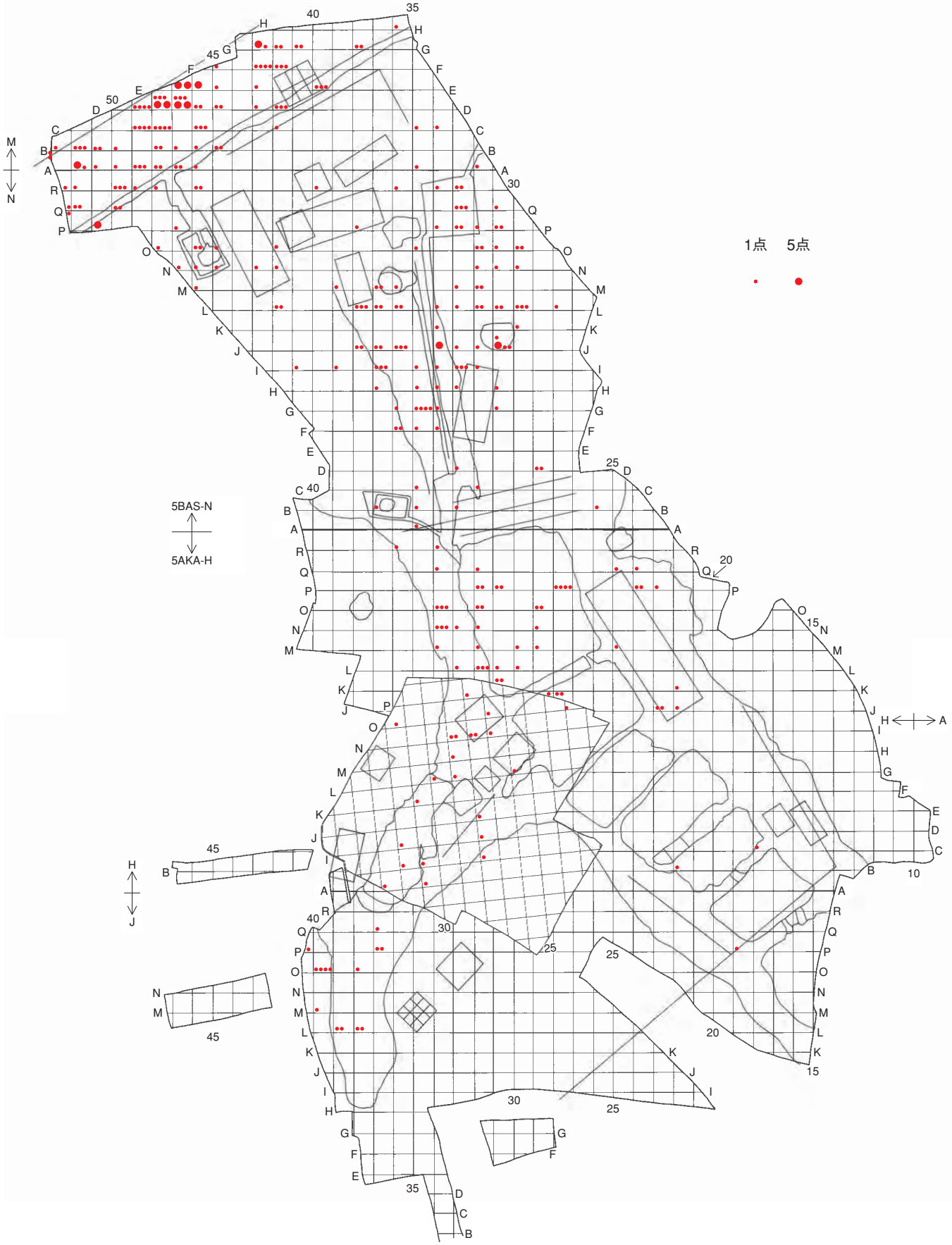
1：3（34～57は1：2）

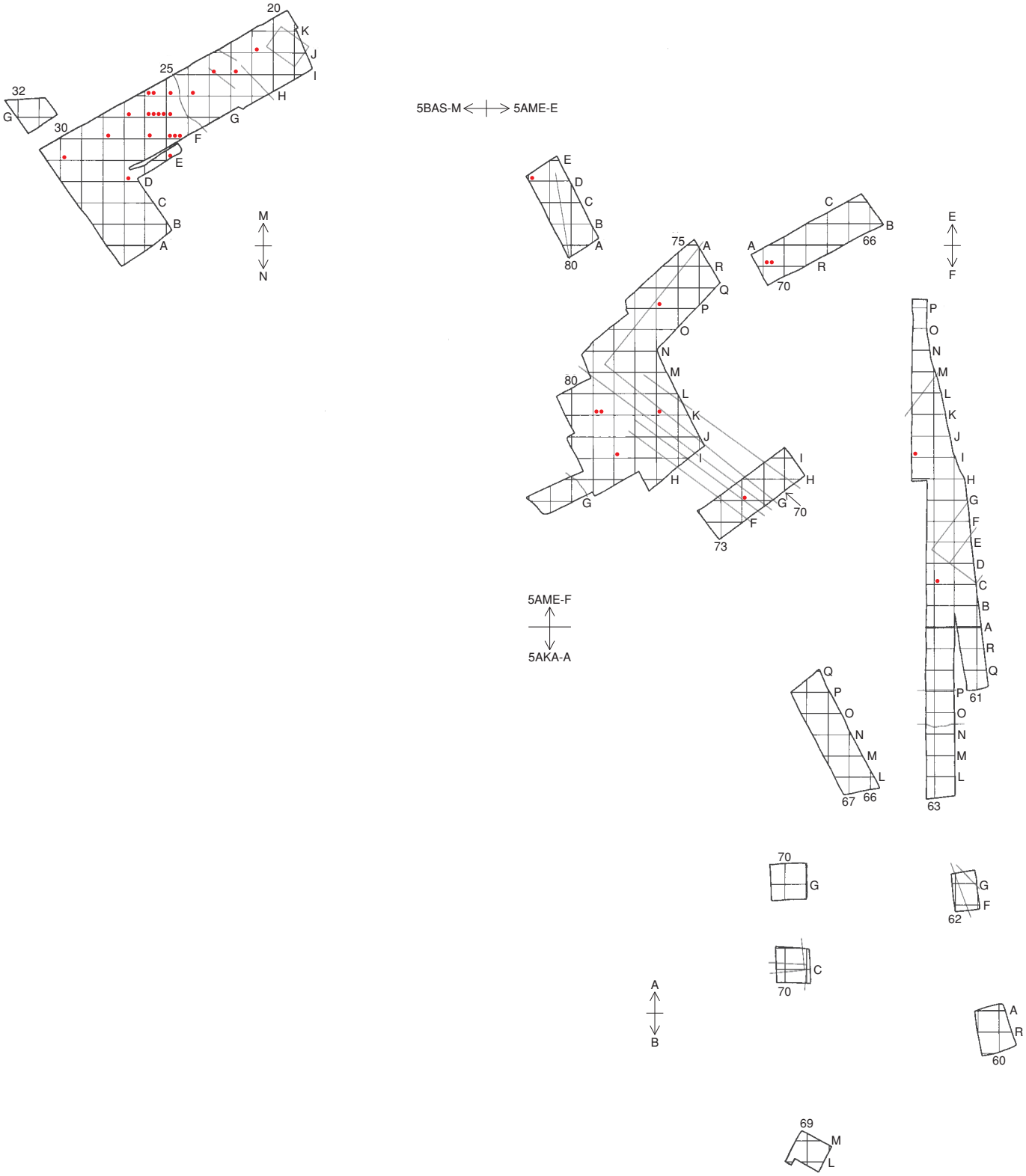
別　図

1　軒丸瓦の分布１
2　軒丸瓦の分布２（飛鳥寺Ⅰ・Ⅲ型式）
3　軒丸瓦の分布３（飛鳥寺XⅢ・XⅦ・XⅧ型式）
4　軒平瓦の分布１
5　軒平瓦の分布２（飛鳥寺Ⅰ型式Ａ・Ｂ・Ｆ）
6　軒平瓦の分布３（飛鳥寺Ⅱ型式・素文軒平瓦）
7　熨斗瓦・面戸瓦・隅切平瓦の分布
8　丸瓦の重量分布
9　平瓦の重量分布
10　垂木先瓦・鬼瓦・鴟尾・土管の分布
11　木簡の分布

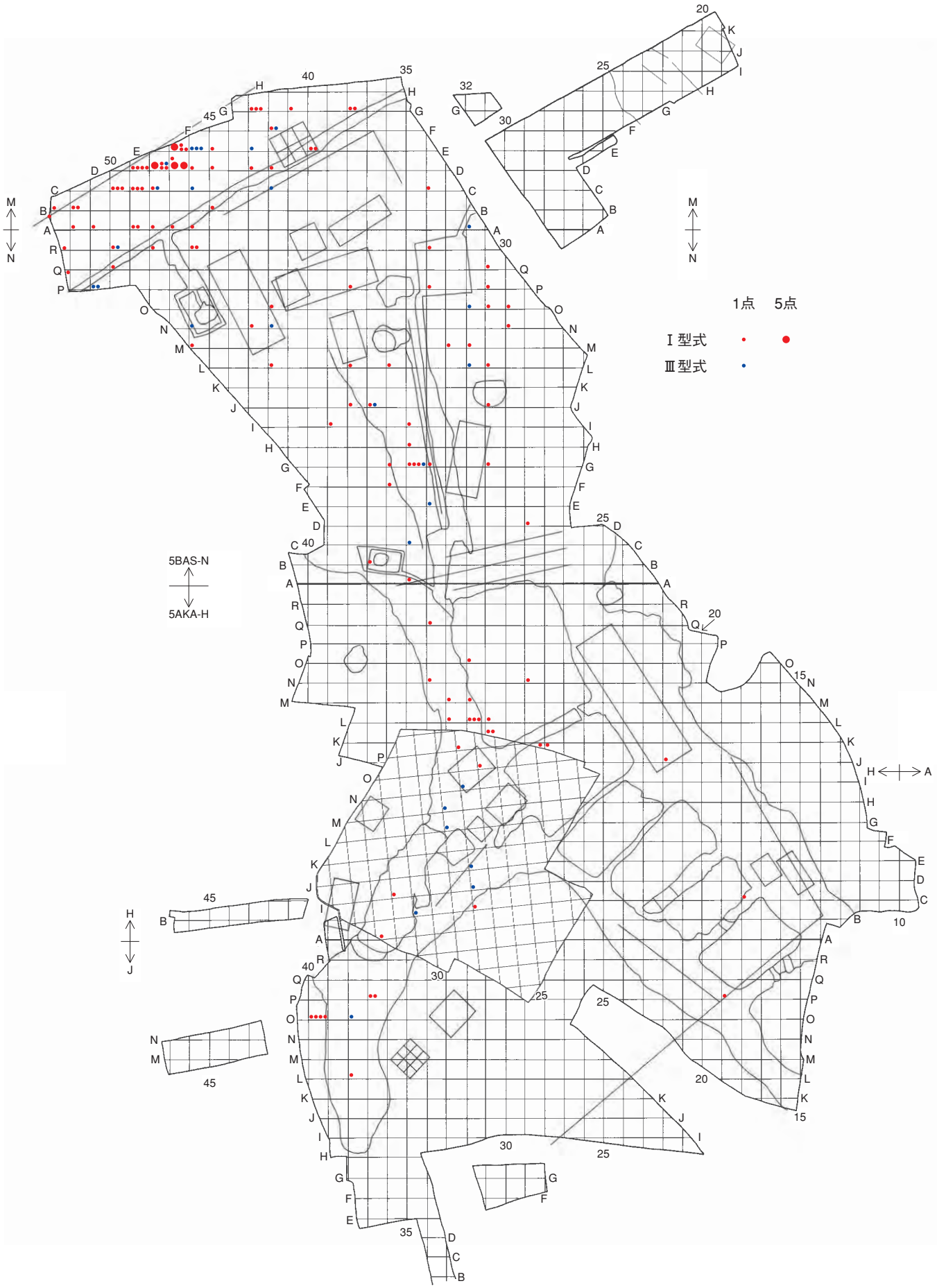


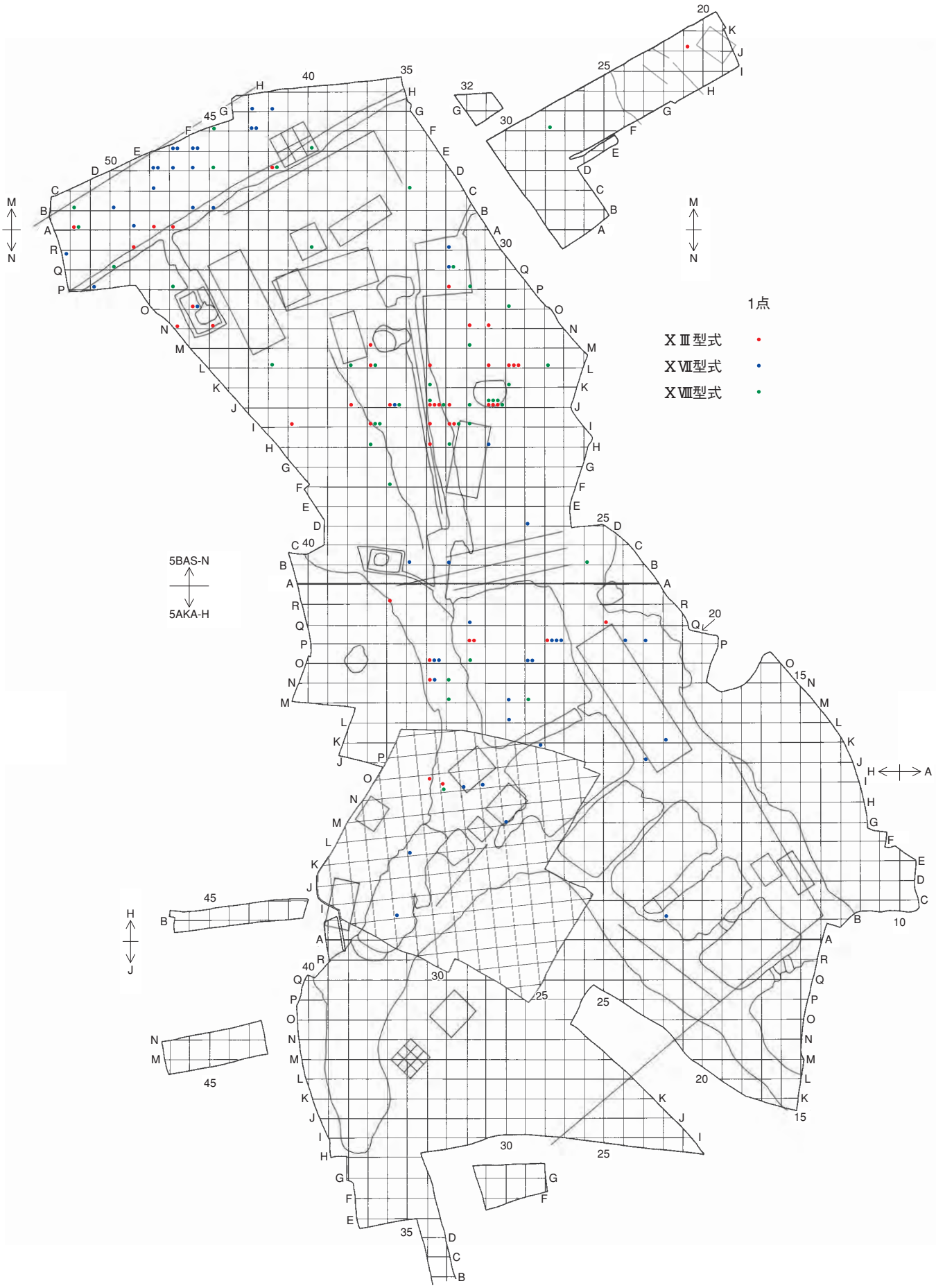
別図 1　　軒丸瓦の分布 1



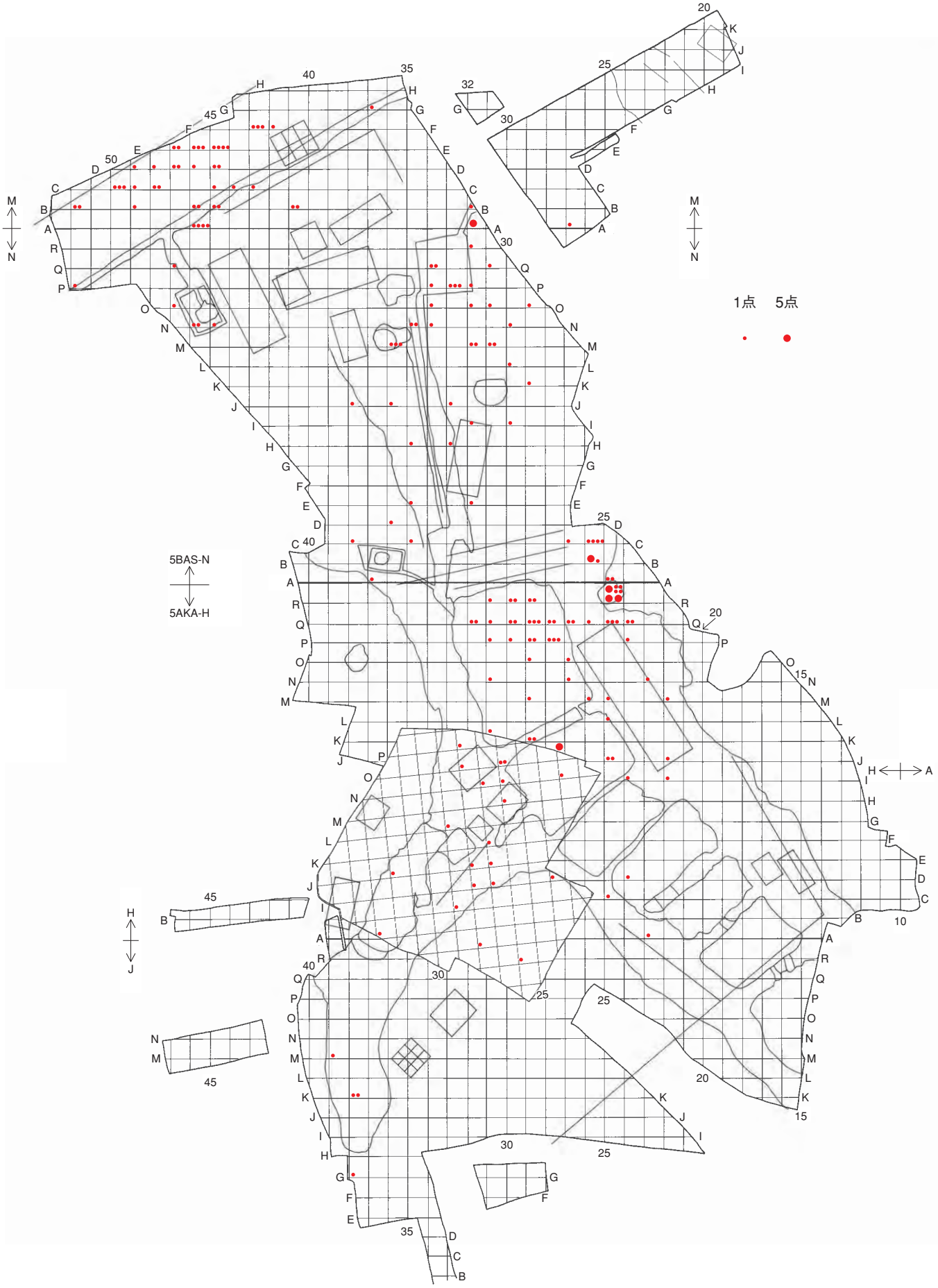

5BAS-M
5AME-E
5AME-F
5AKA-A
M
N
E
F
A
B
20
25
30
32
80
75
73
70
66
67
63
61
62
60
69

別図 2　　軒丸瓦の分布 2（飛鳥寺Ⅰ・Ⅲ型式）

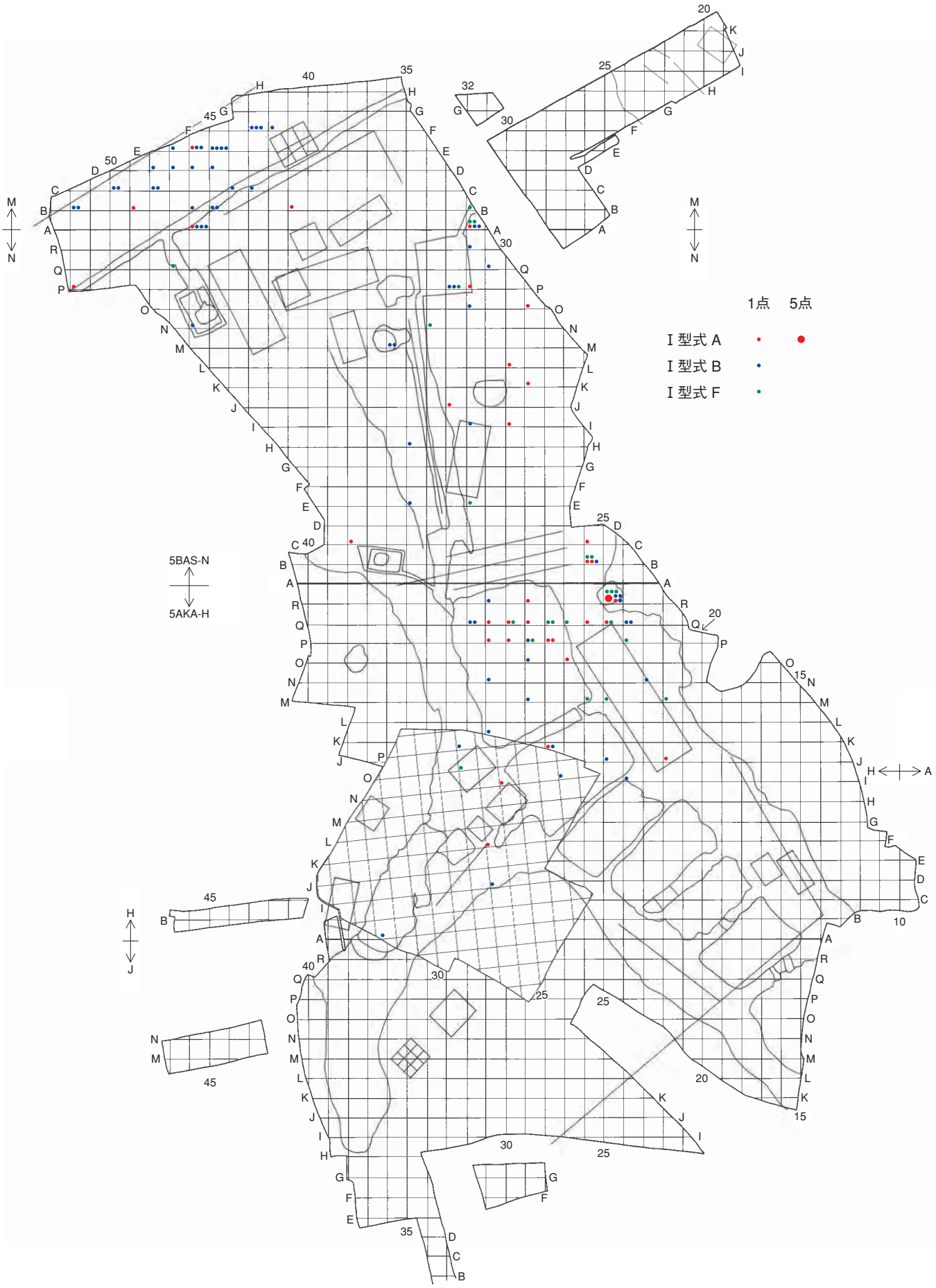



1点
XⅢ型式
XⅦ型式
XⅧ型式
5BAS-N
5AKA-H
M
N
H
J
A

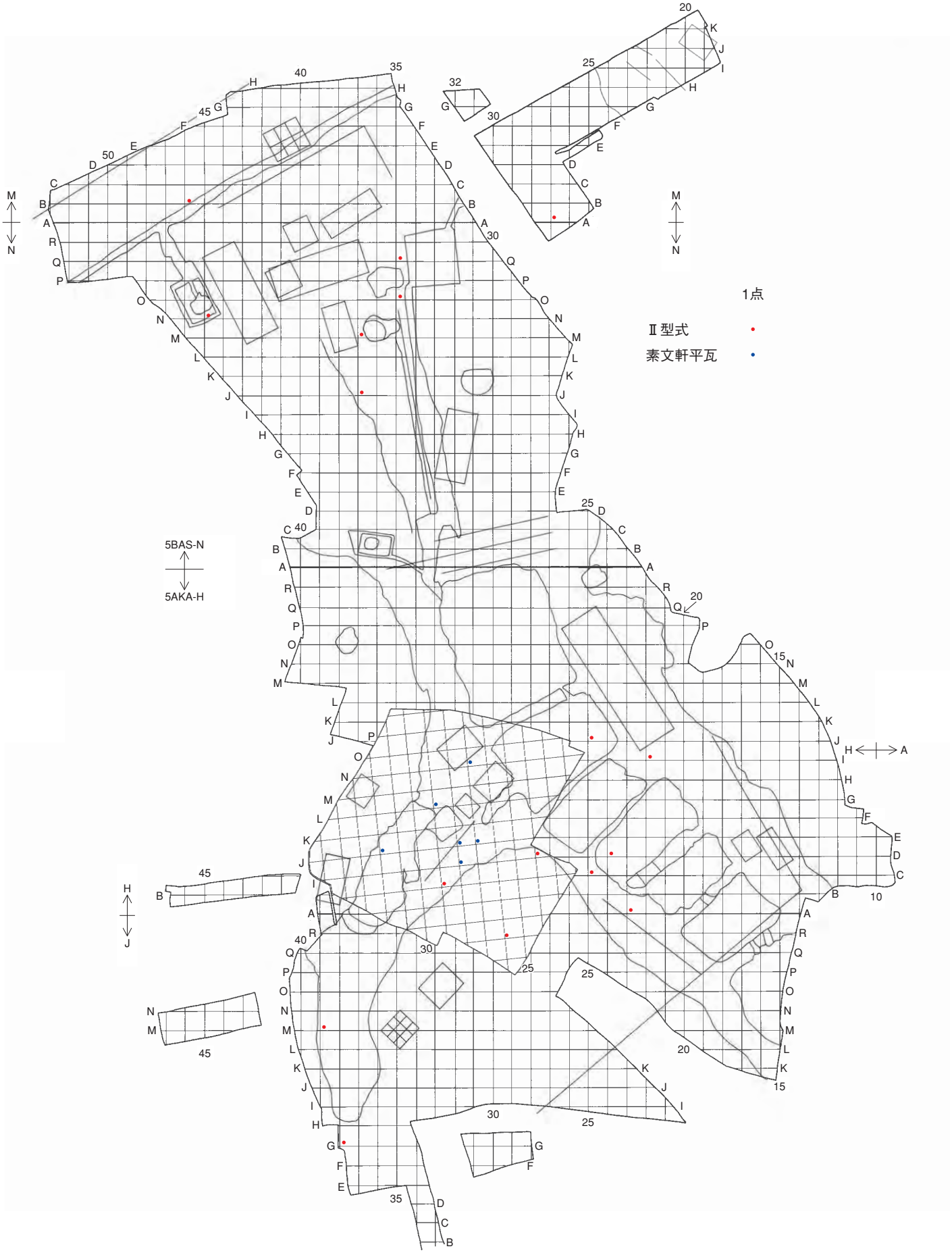
別図 4　　軒平瓦の分布 1

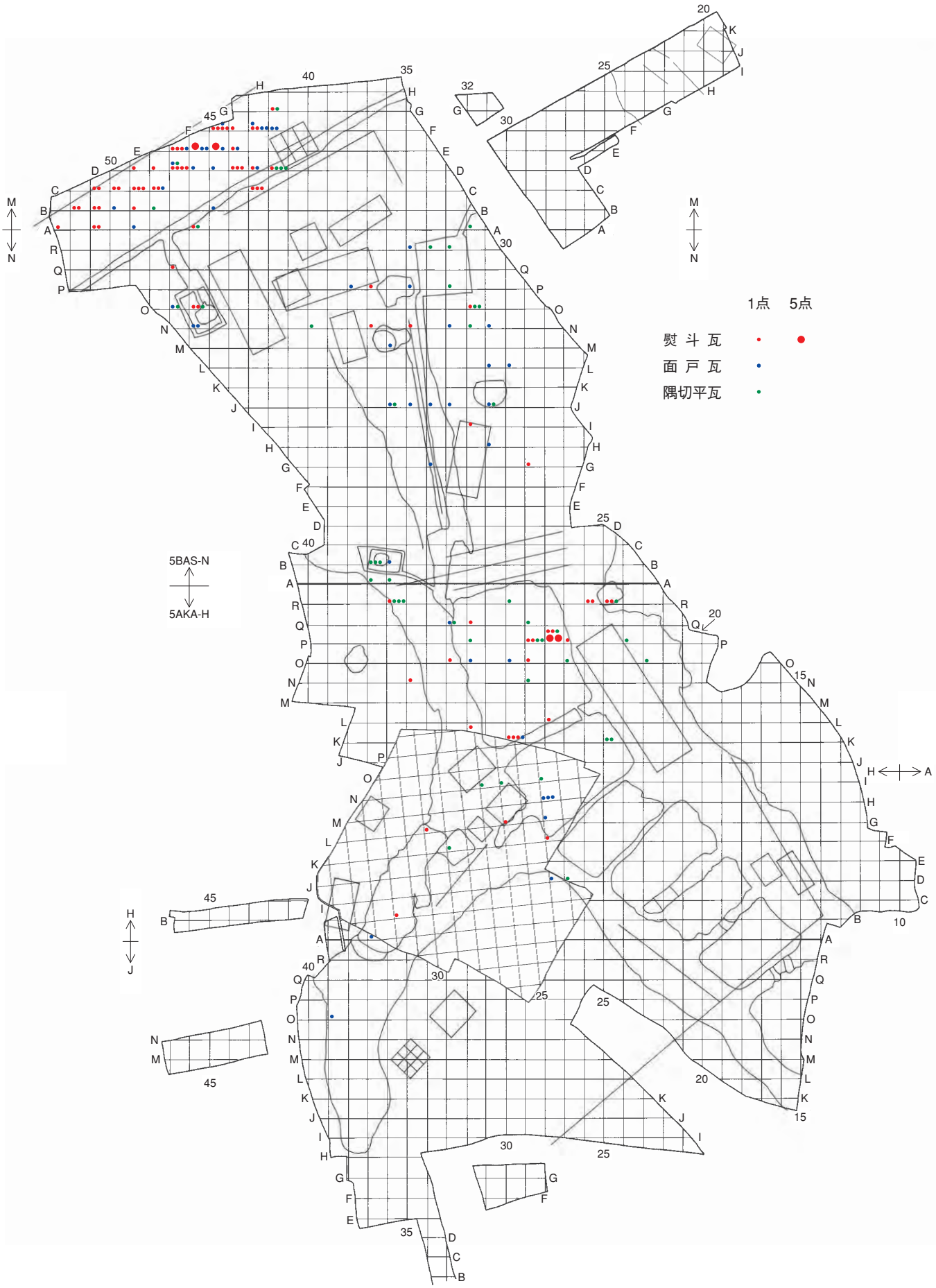


軒平瓦の分布 2（飛鳥寺Ⅰ型式 A・B・F）

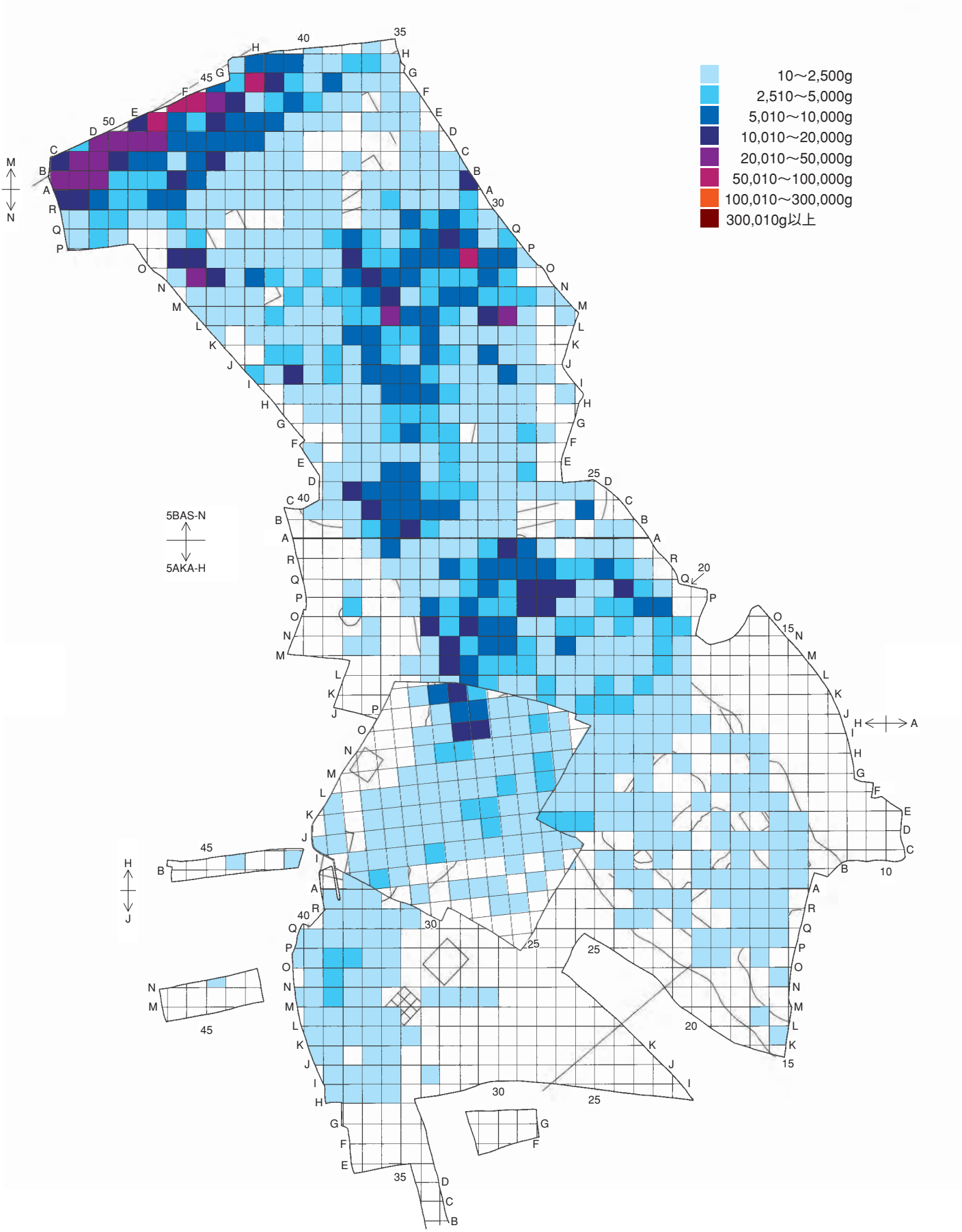


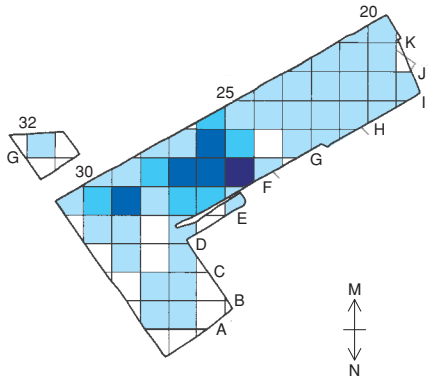
別図 6　　軒平瓦の分布 3（飛鳥寺Ⅱ型式・素文軒平瓦）



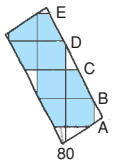

1点　5点
熨 斗 瓦
面 戸 瓦
隅切平瓦
5BAS-N
5AKA-H
M
N
H
A
J

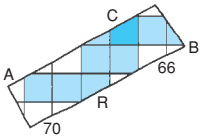
別図８　　丸瓦の重量分布

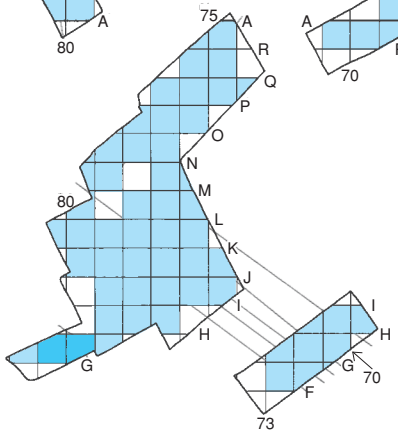

10～2,500g
2,510～5,000g
5,010～10,000g
10,010～20,000g
20,010～50,000g
50,010～100,000g
100,010～300,000g
300,010g以上
5BAS-N
5AKA-H
M
N
H
J
A

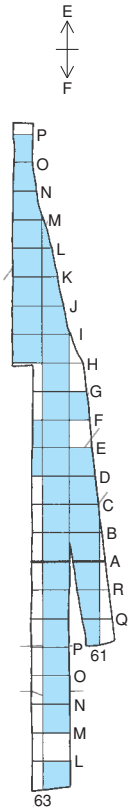


5BAS-M ⟷ 5AME-E



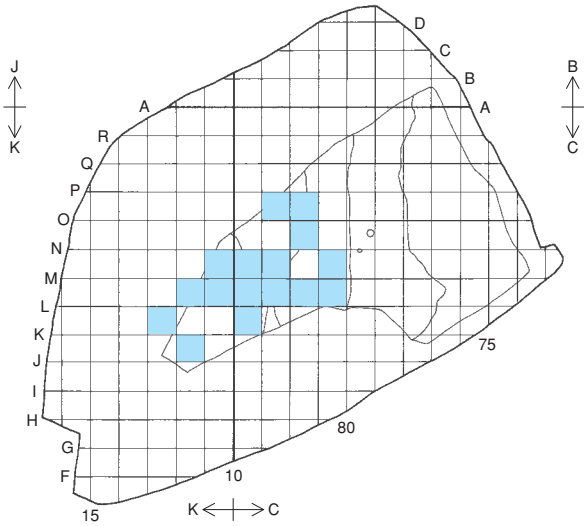






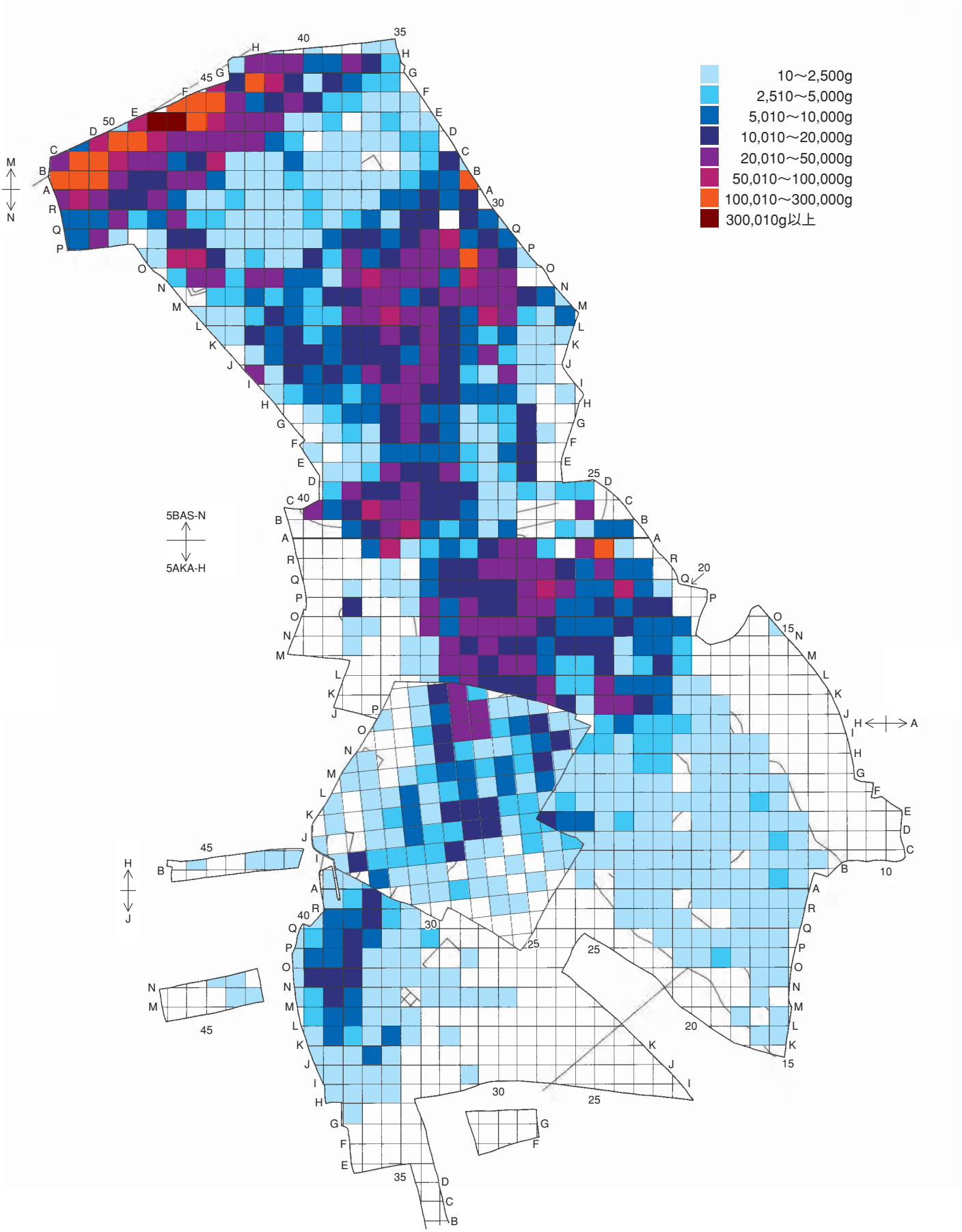
5AME-F
5AKA-A

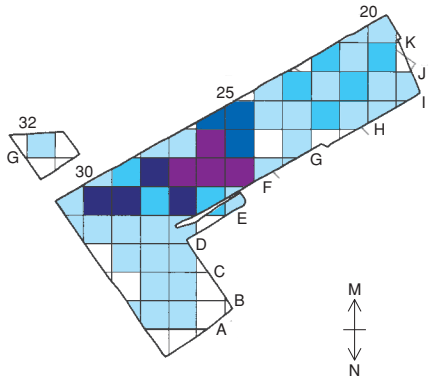
J ⟷ B



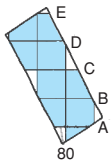
A
B

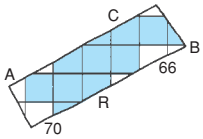
別図 9　　平瓦の重量分布

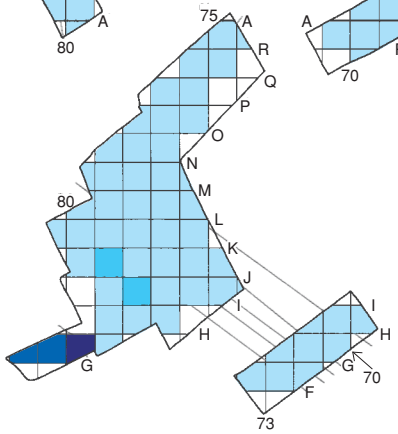

10～2,500g
2,510～5,000g
5,010～10,000g
10,010～20,000g
20,010～50,000g
50,010～100,000g
100,010～300,000g
300,010g以上
5BAS-N
5AKA-H
M
N
H
J
A

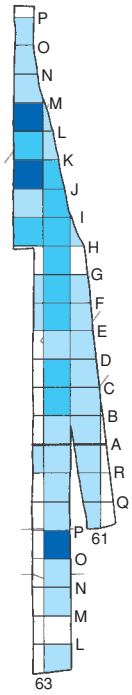


5BAS-M ⟷ 5AME-E

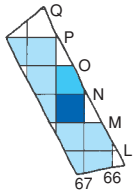




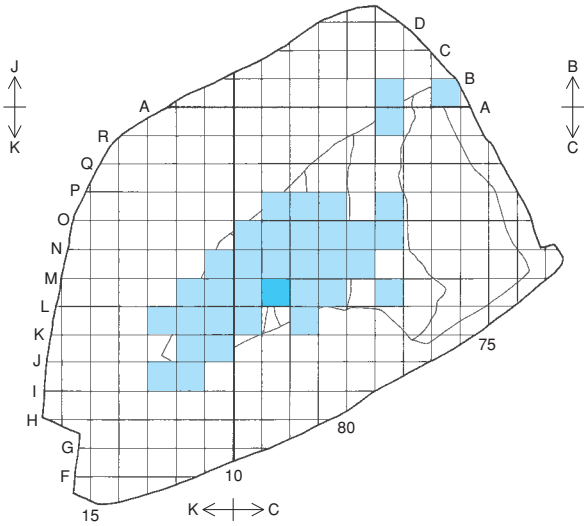




5AME-F
⟷
5AKA-A



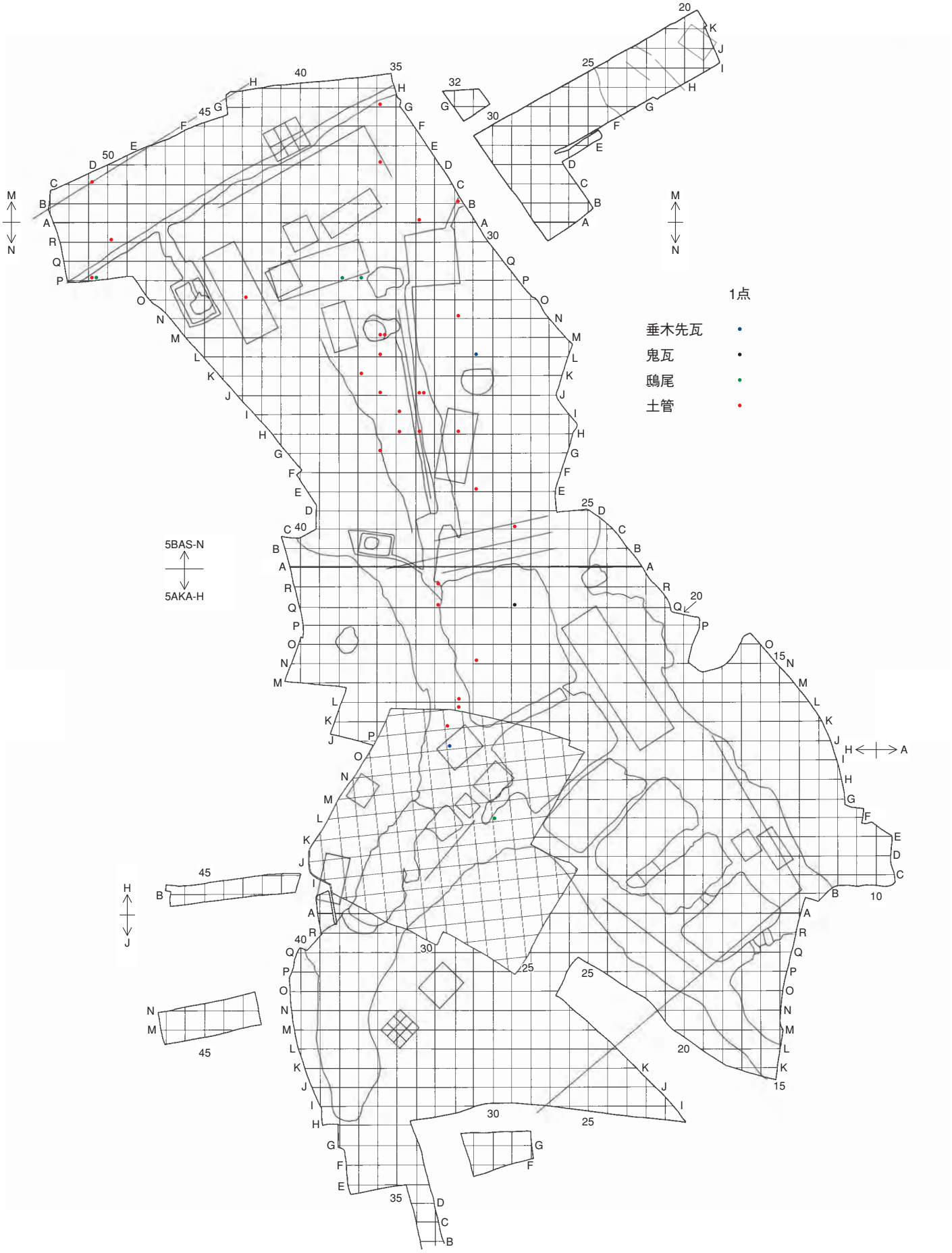
J ⟷ B

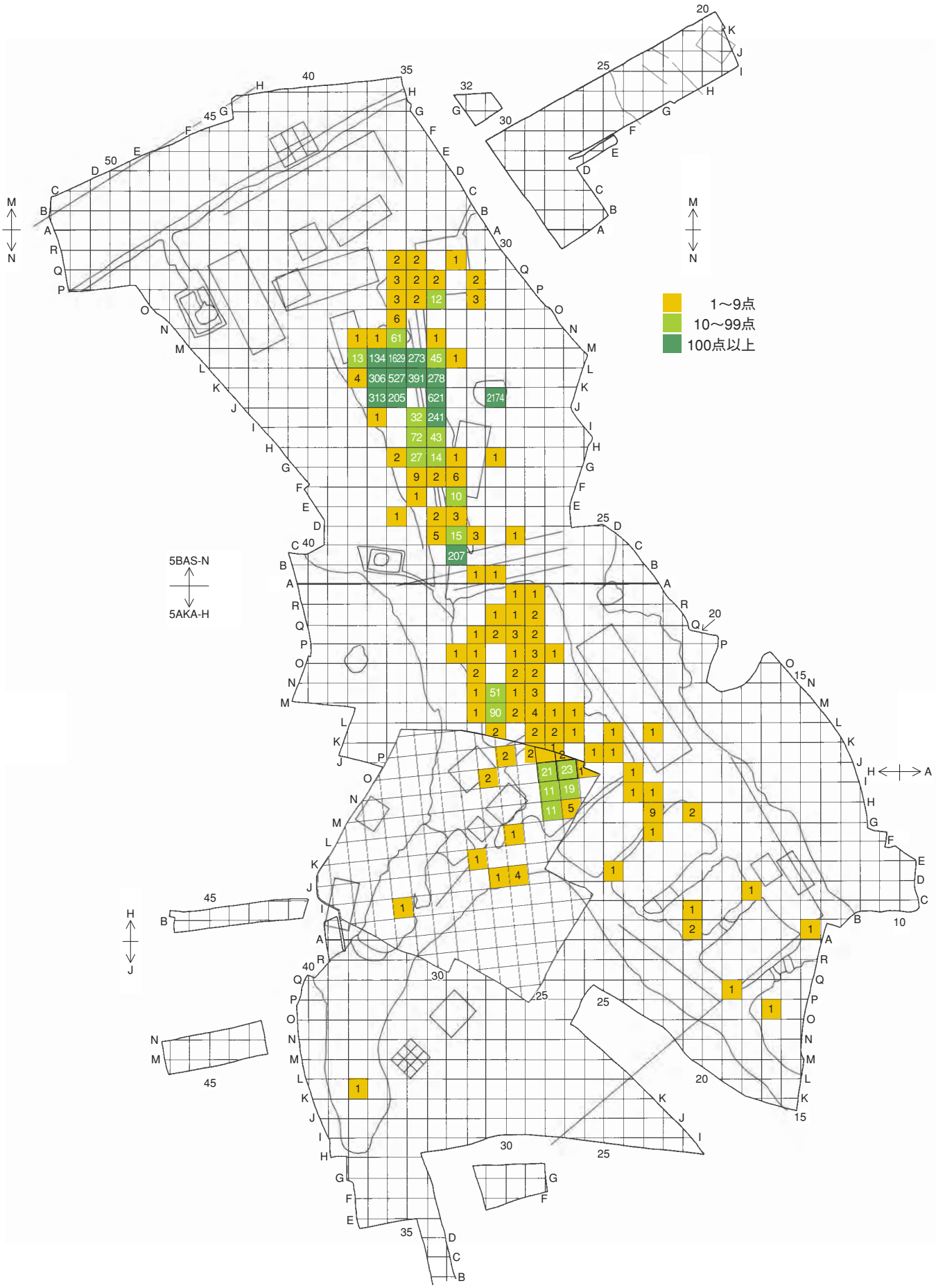


K ⟷ C

A
⟷
B

別図 10　　垂木先瓦・鬼瓦・鴟尾・土管の分布




1～9点
10～99点
100点以上
5BAS-N
5AKA-H
M
N
H
A
J

2005年3月10日　印刷
2005年3月28日　発行

飛鳥池遺跡発掘調査報告

図版編〔Ⅰ〕

奈良文化財研究所学報第71冊

著作権所有
発　行　者　独立行政法人 文化財研究所
奈良文化財研究所
奈良市二条町2丁目9番1号

印　刷　者　岡村印刷工業株式会社
奈良県高市郡高取町車木215

ISBN 4-902010-50-X